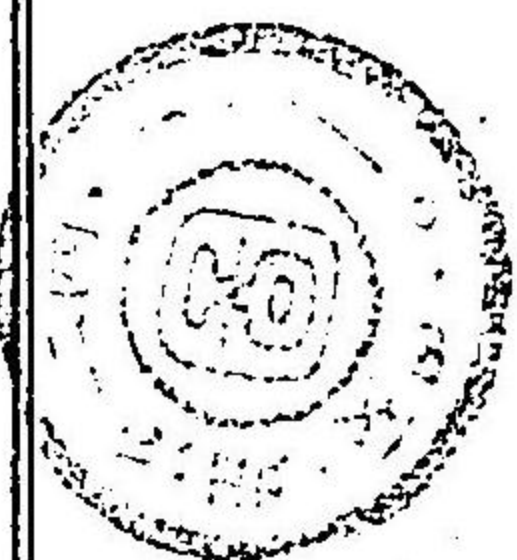


68-91  
No. 2120/1114

澁江保著

希臘羅馬文學史

東京博文館藏版



# 希臘羅馬文學史目次

緒言……………一丁

(一)文學史ノ必要……………一丁

(二)文學ノ定義並ニ目的……………六丁

(三)其起源發達……………九丁

(四)其種類……………一八丁

## 希臘文學史

第一篇 上古ノ文學……………二五丁

第一章 總論……………二五丁

第二章 史詩……………四一丁

第三章 悲歌——短長歌——樂詩……………七八丁

第二篇 雅典ノ文學……………一〇二丁

第一章 戯曲……………一〇二丁

第二章 散文ノ起源——歴史……………一三六丁

第三章 演説——哲學的散文……………一四七丁

第三篇 衰世ノ文學……………一六五丁

第一章 從歷山大王至アウグスタス帝……………一六五丁

第二章 從アウグスタス帝至シヤステリアン帝……………一七二丁

羅馬文學史

第一篇 羅馬文學ノ第一期……………一九一丁

王政時代ノ文學……………一九一丁

第二篇 羅馬文學ノ第二期……………一九三丁

共和政時代ノ文學……………一九三丁

第一章 羅馬文學ノ發達……………一九三丁

第二章 戯曲……………一九五丁

第三章 詩歌……………二〇四丁

第四章 散文……………二〇六丁

第三篇 羅馬文學ノ第三期……………二二〇丁

帝政時代ノ文學……………二二〇丁

第一章 アウグスタス帝ノ治世ニ於ケル文學……………二二一丁

第二章 アウグスタス時代ノ詩歌……………二二三丁

第三章 アウグスタス時代ノ散文……………二三三丁

第四章 羅馬文學ノ衰滅……………二三六丁

第五章 帝政時代ノ歴史傳記……………二三七丁

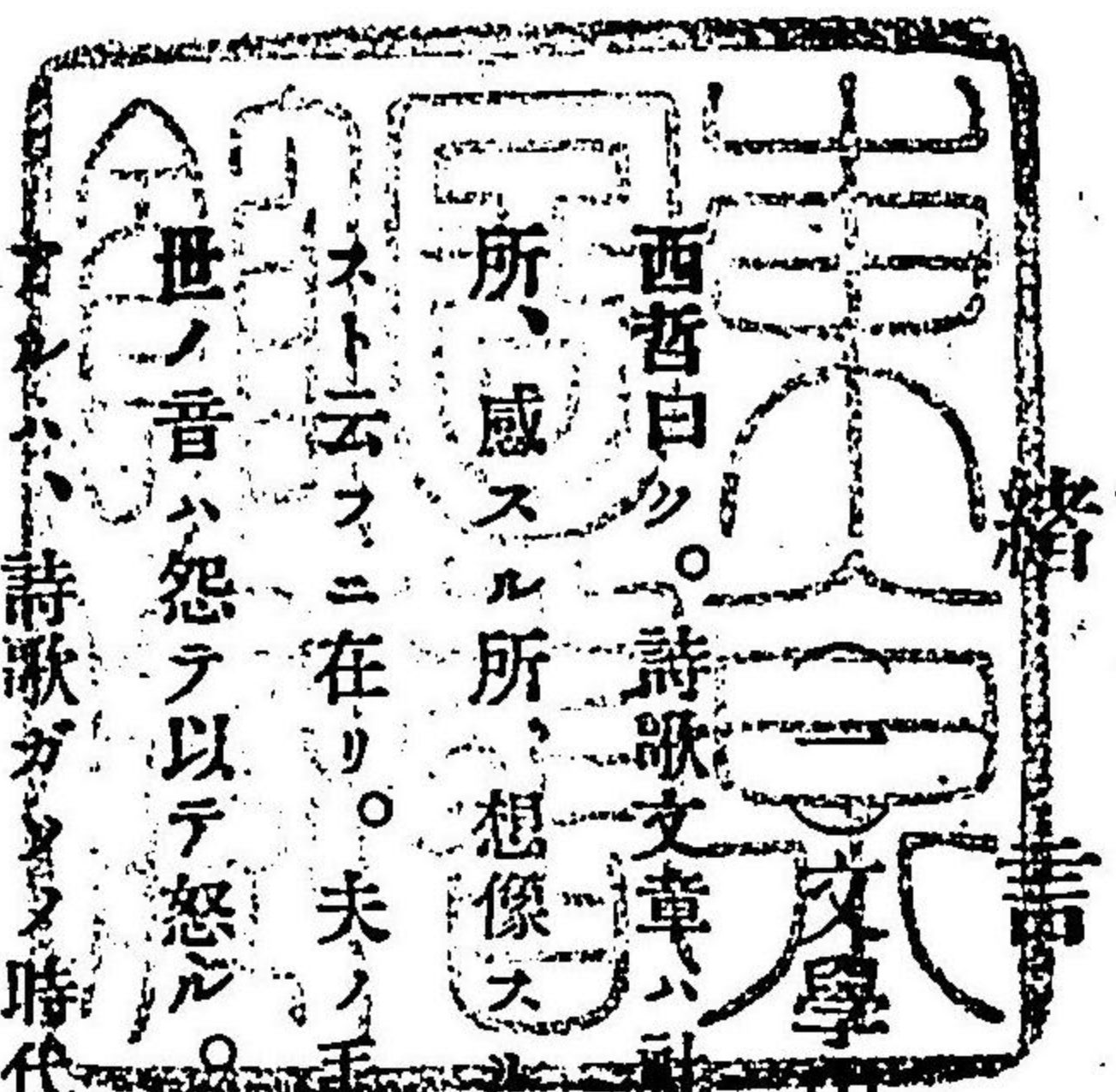
第六章 帝政時代ノ哲學理學法學……………二四〇丁

第七章 帝政時代ノ修辭學文法學及ヒ演説……………二四四丁

第八章 帝政時代ノ詩歌及ヒ小説……………二四六丁

# 希臘羅馬文學史

幸福散史 澁江 保著



## 文學史ノ必要

西哲曰ク。詩歌文章ハ社會ノ反映ナリト。此語ノ意義ヲ解釋スレバ、文學ハ一個人ノ思フ所、感スル所、想像スル所ヲ最モ能クアラハスノミニ止マラズ、亦當時ノ人情風俗ヲ描寫スト云フニ在リ。夫ノモ詩ノ序ニ「治世ノ音ハ安シテ以テ樂シム。其政和スレバナリ。乱世ノ音ハ怨テ以テ怒ル。其政乖ケバナリ。亡國ノ音ハ哀テ以テ思フ。其民困メバナリ」と云レハ、詩歌ガ、時代ノ肖像タルヲ述ヘシモノニシテ、アルタークノ部ニ在リ。希臘文學史ノ英雄傳ニ「文章ハ人間ノ真相ヲ映シテ寸毫モ誤ラザルベキ鏡ナリ」とアルハ、散文ガソノ時代ノ肖像タルヲ述ヘシモノナリ。人若シ事實ニ徴シテ之ヲ証セント思ハ、請フ希臘文學史ヲ讀ケ。

其王政時代ニ在リテハ、人心猶未タ全ク太古ノ餘風ヲ脱セズ。只管英雄ヲ崇拜シ、ソノ偉業ヲ欽慕スルヲニ腦漿ヲ費シテ他念ナシ。故ヲ以テ史詩即チ叙事詩專ラ行ハレ、共和政時代ニ至リテハ、國內擾乱ノ爲メニ人心頗ル激昂シ、所思所感交々生ス。故ヲ以テ、辞ニアラハレテ樂詩即チ叙情詩興リ、又雅典全盛ノ時代ニハ、人々富饒自由ニシテ自ラ他人ノ性行ニ留意シ、是非ノ觀察ヲ下スベキ餘地アリ。故ヲ以テ戯曲即チ脚本興リシニアラズヤ。獨ノ詩人ミユールノ説ニ基キテ云フ又英佛ノ文學史ヲ緝ケ。チャールス二世ノ時代ニハ、德義壞乱シ、廉耻ノ心、地ヲ掃ヒタルヲ以テ、詩歌小説ノ類、淫靡猥陋ノ極度ニ達シ、路易十五六世ノ時代ニハ、人心漸ク擅制政治ニ倦ミ、君主ノ壓抑ヲ厭ヘルヲ以テ、マイクROMEガス。民約篇的ノ書、時好ニ投合シタルニアラズヤ。否、獨リ希臘ト英佛トノミニハ限ラズ。之ヲ自餘ノ歐米各國ニ徵スルモ、將タ之ヲ和漢ニ徵スルモ、此類例ハ枚擧ニ暇アラザラン。文學史ハ文學ノ起源發達變遷ヲ叙述スルモノナリ。故ニ據リテ以テ智德ノ進歩盛衰ヲ追索スルヲ得ベシ、又孰レノ時、如何ナル國ノ人情風俗趣味想像ガ高尚ナリシカ、孰レノ時、如何ナル時代ニハ鄙野ナリシカヲ推察スルノ便アリテ、之ヲ有形的事項ヲ叙述スル歴史ニ

比スレバ、一層上流ノ地歩ヲ占メ、ソノ有用ノ度モ決シテ彼レニ讓ラザルナリ。文學史ノ必要茲ニ至リテ明カナリト謂フベシ。

博文館主人茲ニ見ル所アリ。頃H日本文學史編纂ノ事ヲ某々諸氏ニ囑シ、又予ニ泰西文學史編纂ノ事ヲ需ム。予ヤ曩キニ以爲ラシ。「我邦人近來頻リニ心ヲ和文學ニ傾クルヨリ施テ泰西ノ文學ニ及ホシ、隨テシエクスピア、ミルトン共ニ英國文學ノ部ニ在リヲ讀シ、ギョテ獨逸文學史ノ部ニ在リヲ讀シ、英國文學史ノ部ニ在リヲ推ス者モ少ナカラザルニ、彼レ等ノ本國タル英獨諸國ノ文學史ニ至リテハ、未タ一小冊子ダニ著譯セルモノアラズ。畢竟著譯ノ勞ヲ執ル凡人名書名等ニ讀者ノ聞キ慣レザルモノ多クシテ勞力ノ割合ニハ興味少ナキト、又一ツニハ、國語ノ格ノ異ナル時ハ、同シ言ヒ様ニテモ雅俗ノ別ヲ生スベキモノナレハ、アラテ可惜玉ノ如キ詩文モ之ヲ翻譯スルキハ、頗ル雅致ヲ損シ、泥ノ如キニ至ルノ恐レアルトニ由リテ、之ニ着手セザルナラントハイヘ、斯クテハ、英佛ノ字ヲ解シ、獨露ノ文ヲ讀ム者ノミ之ヲ閱シ、之ヲ味フヲ得テ、自餘ノ人々ハ其快樂ヲ與ニスルヲ能ハザルノ理ナリ。殊ニ前項既ニ畧陳セシ如ク、文學史ハ國民ノ智德ノ進否高下ヲ察シ、ソノ元氣ノ盛衰存滅ヲ窺フベキ要具ナルニ、之ヲ棄テ、

顧ミザルハ歴史ノ一半ヲ割キテ之ヲ棄ツルニ均シト。依テ先ツ舊臘ヨリ、テーン。アーノルド、コリア。ストツフワード、ブルツク諸氏ノ著書ニ基キ、傍ラ諸書ヲ参考シテ「英國文學史」ヲ編纂シ、殆ント稿ヲ脱セントシタリ。然ルニ今博文館主人ノ予ト所感チ均フシ、而カモ全歐ノ文學ヲ網羅セント欲スルニ會フ。是ニ於テ暫ラク前記ノ草案ヲ完了スルヲ後ニシ、倉卒筆ヲ執リテ本書ヲ編纂セリ。

本書分チテ大畧三卷ト定メ、

第一卷 緒言——希臘文學史——羅馬文學史

第二卷 英國文學史——米國文學史

第三卷 獨逸文學史——佛國文學史

ト順序ヲ立テ、各國ノ文學史ヲ叙述シ、——摸樣ニ依リテハ卷ヲ續ギテ自餘歐洲各國ノ文學史ヲモ編纂スベキ筈ナリ——讀者ヲ一閱泰西古今各國文學ノ概況ヲ窺フヲ得セシメントノ趣意ニ出テタルモノナリ。然レトモ是レ等諸國ノ文學ハ極メテ豊富ニシテ、其一國ノ文學史ヲ編纂スルモ固ヨリ一千有餘頁ノ紙數ヲ要スベキニ、二十六行四十字ニテ諸國

チ合シテ僅ニ八百頁ノ中ニ網羅セントノ都合ナレハ、畧中ノ略ナルベキハ言ヲ待タズ。殊ニ倉卒ノ間ニ創メテ之ヲ試ミタルガ故ニ、杜撰ノ隙モ少ナカラサラン。ソハ他日チ期シテ更ニ綿密丁寧ナルモノヲ撰シ、疎漏ノ罪ヲ償フベキ見込ナレバ、讀者幸ニ寬恕セラレントナクフノミ。

又本書ノ引用書ハ大畧左ノ如シ。

- 教授シエブ希臘文學——學生用スミス希臘史——レムブリア古典語類——マハツフ
- 希臘故事——教授ウキルキンヌ羅馬故事——學生用リツデル羅馬史——同スミス羅馬史——テーン英國文學史——コリア英國文學史——アーノルド英國文學史畧——ストツフワード、ブルツク英國文學——マコーレー卿英國史——無名氏英國名文集——シエクスピア全集——ミルトン失樂園——マコーレー卿論文集——ゴスウキツチ及ヒハリソン
- 獨逸文學——スレーゲル古今文學史——シスモンチ南歐文學史——アダムス文學字典——ピートン百科全書——ペーン修辭書——スウキントン作文書——學生用佛國史——學生用ルキス獨國史——スミス古代史——同近代史——拙著ミルトン論註釋——同少年

### (二)文學ノ定義并ニ目的

試ニ世人ニ向テ「文學即チリテラチユアトハ如何ナルモノカ」。「文學ナル語ノ定義如何」ト問ハ、恐ラクハ一人モ満足ナル答ヲ爲シ得ル者ハナカルベシ。何トナレバ、此問題ハ甚容易キニ似テ、其實最モ困難ナレバナリ。左レバ、世間普通ノ人ハ言ヲ待タズ、自ラモ文學者ト稱シ、人モ文學者ト許シテ、文學ヲ以テ専門ノ業務ト爲ス者ト雖モ、イザ文學ノ定義ト云フ場合ニ至レバ、十人ガ十人皆解釋ヲ異ニセザルハナキナリ。今上古希臘羅馬ノ時代ヨリ、近世泰西文學諸大家ノ下セル定義ヲ引用シテ以テソノ一致セザルヲ証セン。

希臘ハ泰西文學ノ本源ニシテ、其二大綱ノ一タル詩歌ノ分類ハ綿密ナリシニモ拘ハラズ、文學ト云ヘル語スラ未ダアラザリシ程ナレバ、况シテ之ガ定義ヲ下セル人ノアルベキ筈モナシ。羅馬ニ至リテ始メテ文學ナル語ハ生シタレド、修辭家クキンチリアン後文羅馬文學史ハノ部ニ詳ナリリテラチユアヲ文法ト稱シ、史家タシタス上ハ、希臘文學ト云ヘル語ヲ希臘文字ノ形ヲ顯

ハスニ用井、有名ナルシセロ同上ハ、文學ヲ單ニ學問ナリト説ケリ。降りテ近世ニ至リテ、

瑞西ノシスモンヂ一千七百七十三年生レ一千八百四十二年死ス瑞西ノ史家ニシテ經濟學者ナリ佛國ノテーン一千八百二十八年生ル有名ナル英國文學史ノ著者ナリ英國ノコ

リア亦英國文學史ノ著者ナリゴスウ井ツチ獨逸文學史ノ著者ナリ及ヒ其他ノ諸氏ハ、文學史ヲ著ハシタルモ、或ハ全ク

文學ノ定義ヲ下サ、ルカ、又ハ之ヲ下スモ只包意的ニ之ヲ下スニ過キズ。又英國ノハラム

一千七百七十八年生レ一千八百五十九年死ス英國ノ史家ニシテ有名ナル英國憲法史ノ著者ナリ十五六七世紀歐洲文學史ヲ著スノ如キハ、之ガ定義ヲ下シテ「書籍ヲ經テ

人ニ傳フベキ諸ノ智識ナリ」ト云ヘリ。左レド、此定義ニ據ルルハ、數學モ、物理學モ、

簿記モ、法律理財モ、苟クモ書中ニ載セテ人ニ傳フベキモノハ、皆文學ナラザルナキニ至

ラン。豈漠然タル解釋ニアラズヤ。

夫レ斯ノ如ク、文學ナル語ニ就テハ、先輩ノ説ク所一定セズ、猶將來ニ於テモ一定スベキ見込ナシト雖モ、元來文學ノ特質タルヤ、人心ヲ樂シマシムルニ在リテ、彼ノ科學(サイアンス)ガ事物ノ原理原則ヲ推究スルトハ其趣チ異ニスルガ故ニ、先ツ第一ニハ此點ニ由リ、又第二ニハ他ノ諸點ニ由リテ、文學科學ノ二者ヲ區別シ、(甲)原理原則ヲ推究スルヲ科學ノ任ト爲シ、思想感情想像ヲ表出スルヲ文學ノ任ト定メ、(乙)教誨ヲ旨トシ、實効ヲ

望ムヲ科學ノ任ト爲シ、快樂ヲ目的トスルヲ文學ノ任ト定メ、(丙)特殊専門ノ智識ヲ授クルヲ科學ノ任ト爲シ、多數ノ人ニ大体ノ智識ヲ授クルヲ文學ノ任ト定メタランニハ、文學ノ區域モ稍々定マルヲ得ルナラン。是レ著者一己ノ私見ノミヲ主張スルニハアラズ。左ニ掲載スルガ如ク、諸先輩ノ定義ヲ合同斟酌シテ斯クハ言フモノナリ。

ストツフナード、ブルック一千八百十五年生曰ク。文學トハ、聰慧ナル男女ノ思想感情ヲ表出シ、ソノ整理ノ宜シキニ稱ヘルガ爲メニ、讀者ニ快樂ヲ與フルモノナク云フ。  
 英國ノ著述家ナリ  
 フランシス、ターナー、バルクレーフ一千八百二十四年生英國ノ美術批評家ナリ  
 技術論等ヲ著ス  
 曰ク。科學ノ目的ハ、人ヲ教誨シ、之ヲ啓發スルニ在リ。文學ノ目的ハ之ニ快樂ヲ與フルニ在リ。

諸右ノ如ク、文學ノ區域畧々定マリタル上ハ、假令ヒ確乎動カスベカラザルノ定義ハ下シ難キニモセヨ、一時ノ定義ヲ下スコトハ敢テ難キニアラザルベシ。故ニ今改メテ左ノ如ク解釋セントス。

文學トハ、其文ノ韻文ナルト散文ナルトニ論ナク、思想感情想像ヲ表出シ、可及的の最多數ノ人ニ快樂ト大体ノ智識トヲ與フルモノヲ云フ。

(著者曰ク。此定義モ決シテ一己ノ私見ニ由リタルニハアラズ。蓋キニ博文館發兌ノ大家論集ニモアル如ク、英人

★スチット氏ノ文學定義ニ「所詮人間ノ全生涯ヲ蔽フベキ万代不易ナル文學ノ定義ハ今ノ智識ニテ定ムベキニアラズ。若シ強テ定メントナラバ、徒ニ文學ノ趣旨ヲ誤マリ、紛亂混雜ヲ生スルコトアラン。語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、絕對圓滿ナル文學ノ定義ハ今之ヲ望ムヲ得ズ。左リナカラ相關的ノ定義ハ之ヲ得ル難キニアラズ。故ニ敢テ完全ヲ望マズ。茲ニ假本義ヲ下スベシ。曰ク。文學ハ左ノ如キ著作ヨリ成ル。乃チ其文ノ韻語ナルト散文ナルトヲ問ハズ、反省(リフレクシオン)ヨリ成ルヨリハ、寧ロ想像(イマジネーション)ヨリ成リ、訓誡(インストラクシオン)及ヒ實際上ノ効力(プラクティカル、エツフエクト)ヲ望ムヨリハ、寧ロ個人中ノ出來得ベキ丈ノ最多數ヲ樂マセンコトヲ望ミ、特殊ノ智識ニ訴フルヨリハ、寧ロ全般ノ智識ニ訴フルモノ是レナリ。……件ノ定義中ノ各原素ハ、社會的及ヒ心理的進化ノ有限ナル領域ニ根據セルモノナリ。即チ想像ト實驗トヲ分離シ、教誡ノ目的ト美術ノ快樂トヲ分離シ、並ニ分業ニ基キタル智識ノ專攻ニ依據セルモノナリ。万一將來ノ進化ニ因リテ、是等分別ノ合併スルカ、若クハ再分離スルニ至ラバ、件ノ假本義ハ一變スベシ」大家論集ノ文章ト云ヘルニ基キタルナリ。ナリ其儘抜抄ス。

### (三)文學ノ起源發達

教授ジニブハ其著「希臘文學」ノ中ニ述ヘテ曰ク。世ニ文字アリテ然後眞正ノ文學アリ。未タ文字アラザル以前ハ眞正ノ文學ナキナリ。何トナレハ、文學ニハ確定セル形ナカルベカラザルニ、彼ノ記憶力ハ其作用ノ廣大ナルニモ拘ハラズ、獨リ口頭ノ傳説ノミニテハ、



確定セル形ヲ有シ難ケレバナリト。此説ニ據レバ、文字ノ發明ヲ以テ文學ノ起源ト爲シ、未タ文字ノ發明セラレザル以前ハ文學アラザルナリ。今他國ノ歴史ハ姑ラシ置キ、之ヲ希臘ノ歴史ニ徵スルニ、上古ノ詩歌ニハ口誦口傳ノモノ多カリシガ如クナレバ、氏ノ説必ラスシモ當レリトハ言ヒ難シ。然レトモ上古人智未タ開ケズシテ、何事モ簡易單純ナリシ時代ハ兎モ角モ、文化漸ク進ミテ、人事漸ク錯綜交互シ、人ノ思想モ亦緻密ト爲ルニ至リテハ、到底言語ノ符徵トスベキモノナカラザルベカラザルナリ。左レハ文字ノ發明ヲ以テ直ニ文學ノ起源ト斷定スルハ、少シク穩當ナラザルニモセヨ、其頃ヨリ漸ク体形ヲ具ヘリト稱シテ可ナルベキカ。左ニコリアノ英國文學史中ヨリ一節ヲ抄譯シテ泰西ニ於ケル文字ノ起源發達ヲ詳ニスベシ

上古草昧渾沌ノ世、無智ノ野民、蒼鬱タル林中ニ跪坐シ、左手ニ木葉ヲ執リ、右手ニ荆棘ヲ秉リテ、我カ獵獲セシ野獸、若クハ我カ使用セル弓矢ノ粗圖ヲ畫クヤ、著述事業、書籍編纂事業ノ端緒ハ茲ニ開ケタルモノト云フベキナリ。爾來進步ノ駭々タル、當時ト同日ノ論ニアラズト雖モ、「木ハ書籍ノ親ナリ」ト云ヘル舊キ事實ハ、今尙種々ノ言語ニ由リ

テ之ヲ証スルヲ得ベシ。例ヘバ、書籍ノ事ヲ羅旬語ニ *Libri* ト云ヒ、英語ニ *Book* ト云ヒ、又紙一枚ノ事ヲ英語ニ *Leaf* ト云ヘルガ、*Libra* ハ本來樹ノ内皮ノ義ニシテ、*Book* *beech* (山毛櫸)ノ轉訛セルモノナレバ、此一事ニ由リテモ、上古ノ人ガ山毛櫸ノ内皮ニ粗圖ヲ畫キシ事ヲ推知スルヲ得ベシ。又 *Leaf* トハ數枚ノ紙ヲ綴ヂ、若クハ膠ニテ着ケタルモノ、一枚々々ヲ指スガ故ニ、書籍ハ元ト野人ガ荆棘ノ尖頭モテ認メシ數葉ノ圖書ヲ、復タ此荆棘モテ一緒ニ綴ヂ合ハセタルモノヨリ起リシ事判然タリ。

然レトモ木葉ハ速ニ枯槁シ易ク、之ヲ永久ニ保存スルヲ能ハズ。故ニ戰爭ノ如キ、獸獵ノ如キ、陣營ノ移轉ノ如キ、將ヲ酋長ノ死去ノ如キ、上古單純ナル生活中ノ大事件ヲ後世ニ傳ヘテ永久ニ記憶ニ存セシメント欲セバ、更ニ一層存綴スベキ物品ヲ擇ハザルベカラズ。是ニ於テ樹木ヲ植エ、祭壇ヲ立テ、石塚ヲ造リ、以テ吉凶ノ出來事ヲ子孫ニ傳ヘントシタルモ、如何セン、數十百年ノ後ニ至リテハ、ソノ樹木祭壇石塚ハ存スルニモセヨ、肝腎ノ目的アル出來事、若クハ一個人ノ事蹟等ハ、ソノ人死亡シ、ソノ社會ノ變遷スルト同時ニ滅絶シテ、結局只無意義ノ記念物ヲ存スルノミ。

又國ニ依リテハ、結繩ヲ以テ記録ノ役ヲ勤メシメタル處アリ。例ヘバ、白露ノ如キハ結繩ノ色、結ヒ目ノ大小等ニ由リテ其意味ヲ異ニシ、之ヲ以テ國史ニ充テタリ。支那人及ヒ黑奴中ノ或ル種族モ亦結繩ノ法ヲ用ヰタリ。

文化漸ク進ムニ從ヒ、木葉ニ圖畫ヲ認ムルヲ止メテ、柔軟ナル木皮ヲ用ヰ、更ニ又木皮ニ代フルニ薄板ノ手冊ヲ以テシ、又永久ニ傳ヘント欲スル事項ハ、巖石ヲ薄板様ニ爲シタルモノニ彫刻スルカ、若クハ金屬板ニ彫刻シ、又ハ獸皮モテ製セル柔軟ニ認メシガ、其後復タ一變シテ羊皮紙、犢皮紙ニ認ムル事トハ爲レリ。此二紙ハ諸紙中ニ在リテ、最モ永久ニ保存シ得ベキヲ以テ、今日ト雖モ、猶代官人ノ事務所等ニ使用セラル、ナリ。是レ等ノ外、希臘羅馬ノ時代ニ在リテハ、通常ノ書籍ニハ、木板、象牙、薄蠟ヲ以テ覆ヒタル金屬等ヲ用ヰ、而シテ黃銅製若クハ鉄製ノ穿針ヲ用ヰテ所思ヲ記載シ、又現時ノ墨汁<sup>インキ</sup>ノ代ハリニハ、木炭又ハ樹脂煤ヲ入レテ黑色ト爲シタル護謨水ヲ用ヰ、蓋ノ截斷セルモノヲ洋筆<sup>ペン</sup>ニ代用シタリ。彼ノゼノフテン<sup>第二篇第二</sup>ヴァーヅル<sup>羅馬文學史ノ</sup>等ノ人々ハ、此筆ト墨汁トヲ用ヰテ、柔皮ノ上ニ流麗ナル歴史、爛燦タル詩歌ヲ記シタルナリ。

以上叙述シタルガ如キ古代ノ書籍ハ、(一)堅硬ナル材料ヲ角板ニ作リテ、或ハ今ノ歐洲ノ書籍ノ如ク開クカ、若クハ折屏風ノ如クニ開キ、(二)柔皮、リンチルノ如キ柔軟ナル材料ヲ軸ニ卷キテ掛ケ物、又ハ地圖ノ如クナラシムルモノナリ。

未タ文字アラザル以前ニハ、粗畫ヲ以テ思想ヲ傳フベキ器具ニ供シタルヲハ疑ノ容ルベキナシ。ソハ今日ト雖モ、書籍刊行物ニ於テ意味ヲ明瞭ニ傳ヘンニハ圖畫ヲ媒介物トナスニ由リテ推知スルヲ得ルナリ。尤モ此粗畫ヲ思想交通ノ器具ト爲シタルノ時代ヨリ、進ミテアルファベットヲ使用スル事ト爲リタルノ時代ニ至ル迄ノ沿革ハ、今詳述スルノ餘地ナキヲ以テ、只ソノ一二事例ヲ舉クルヲ留メン。

墨士哥王アカマビツツノ治世ノ出來事ト、ソノ諸方ヲ征服セシ顛末トヲ記セル粗畫ヲ一閱スルニ、其材料ハ赤黃青ノ三色ヲ施セル長方形ノ木綿ニシテ、左端ニ青色ノ幅廣キ堅ノ線アリ。横線ニ由リテ階梯ノ如ク十二區ニ分テリ。是レハ十三年ノ治世ヲ表スルナリ。而シテ每區記號(判シ物様ノモノ)ヲ以テ其年ノ出來事ヲ記セリ。災害ヲ表スル一花其二區ニ跨レリ。左レド重モナル出來事ハ中央區内ノ彩色ヲ施シタル部分ニ載セタリ。又此

中央區ニハ兩回國王ヲ畫ケルガ、其甲肖像ハ容貌矜嚴、軀幹短小ニシテ、顔面ト足トハ淡黃色ヲ帶ヒ、頭ニハ蛇冠ヲ戴キ、身ニハ白衣ヲ着シ、隻手ニ二本ノ矢ヲ持テリ。又王ノ前ナル卷物ノ頂上ニ一箇ノ楯ト數多ノ鎗ヲ一束シタルモノトアリ。又其乙肖像ノ前ニハ、四箇ノ稍々小サキ首アリ。其兩眼ハ閉チ、其唇ト頸トニハ血痕ヲ存ス。此血痕ハ敵ノ酋長四人ヲ捕ヘテ其首ヲ斬ルヲ表セリ。四箇ノ攻畧セシ都市ハ四壁ノ頽壞セルガ爲メニ屋脊ノ墜ツルヲ畫キ、又各市ノ傍ニ其位置ノ徵証トスベキ植物學上若クハ地理學上ノ或ル有様ヲ表スル記號アリ。其兩市ハ特異ノ樹木ヲ以テ之ヲ區別シ、第三市ハ湖上ニ位スルヲ明カニセリ。何トナレバ、同市ニ接近シテ水地アリ、而シテ二者密着ノ關係ヲ示サシガ爲メニ線ヲ以テ之ヲ聯絡シタレバナリ。

西班牙ノコルテズガ墨士哥國ヲ征討スルニ當リテヤ、墨士哥灣近傍ノ人民ハ、此報ニ接シテ大ニ驚キ、急ニ木綿ノ上ニ、若クハ蘆薈ノ葉ノ上ニ前號ノ如キ畫ヲ書キテ、コルテズト其部下ノ西班牙人トガ上陸セシ旨ヲ内地ニ報導シタリ。今其畫ヲ見ルニ、數多ノ大船、善鬚ノ白哲人、及ヒ火焰ヲ吹キ出シテ遠近ノ樹木ヲ裂ク所ノ大砲アリ。蓋シモンテ

ズマ一千四百八十年(?)生レ一千五百二十年死ス墨士哥帝ナリノ華麗ナル宮殿ニ蓄藏シアリシ畫卷中、之ヨリ恐ロシキモノハアラサルベシ。

此類ノ畫ヨリ漸ク進ミテ、今日ノアルファベットニ至リシ順序ハ如何ト云フニ、埃及人ノ使用セシ象形文字コソ、其中間ニ行ハレ、二者ノ間ヲ聯絡セシモノナラント思ハル、ナリ。偕此象形文字モ前記ノ畫ト同シク、天然物ヲ畫クト雖モ、其意味ニ至リテハ一層深長ニシテ、無形ノ思想ヲ表出スル力ヲ有セリ。例ヘハ雌蜂——蜂ノ女王——ハ九五ノ位ノ義ト爲リ、牡牛ハ力ノ義ト爲リ、駝鳥ノ羽ハ其絨緯ノ平滑ナルヨリ、眞實若クハ公正ノ義ト爲ルノ類是レナリ。加之ナラズ、漸ク年代ヲ經過スルニ從ヒテ、全体ヲ畫カズシテ只要部ノミヲ畫クコト爲リ、更ニ又線ノミヲ畫クコト爲レリ。此線ハ即チアルファベットニ進ムノ第一段階ナリ。例ヘバ、交戦ヲ表スルニハ、兩箇ノ腕ヲ以テシ、一腕ニハ楯ヲ執ラシメ、又他ノ一腕ニハ鎗ヲ秉ラシメ、又上下埃及ヲ表スルニハ、圓柱裝飾ノ代表物タル花、及ヒパピラス紙草ノ代表物タル羽ヲ冠セル一枝ヲ用ヰタルノ類是レナリ。

年代益々經過スルニ從ヒ、此象形的即チ繪畫的ノ仕組ハ漸ク聲音的ニ改マレリ。聲音的

ノ仕組トハ、事物ヲ代表セズシテ聲音ヲ代表スルヲ云フ。願フニフェニシア人ハ、上古ノ埃及人ト屢々通商往來シタルヲ以テ、同國ノ書記術ヲ採用スルニ當リテ、此繪畫的ノ仕組ヲハ取ラズシテ、只聲音的ノ仕組ノミヲ取り、而シテ此仕組ヲ基礎トシテ純粹ノアルファベットヲ作りシナラン。斯クテフェニシアヨリ此アルファベットヲ希臘ニ傳ヘ、(譯者曰ク。古來ノ傳フル所ニ據ルニ、フェニシア國ノ王子カドマス希臘ニ行キテ、アルファベットヲ授ケタリト云フ。今ソノ年代ヲ考フルニ、カドマスガ希臘ニ行キシハ、紀元前一千四百九十三年ノ事トス。爾來同國ニ留マルヲ六十二年ニシテ死セリ。然ラバ假リニ此傳説ヲ以テ信ナリトスルモ、希臘人ガ始メテアルファベットヲ傳習セシハ、紀元前一千四百年ノ末カ、同一千五百年ノ初ノ頃ニ在ルナリ。)希臘ヨリ羅馬ニ傳ヘ、羅馬ヲ經テ吾人(英人)ニ傳來シタルモノナラン。

偕又文學ノ發達ハ如何ト云フニ、何處ノ國ニ論ナク、先ツ韻文顯ハレテ後ニ散文興ルモノナリ。例ヘバ、希臘ニ於テハ、當初拙劣ナル神歌世ニ出テ、ヨリ、次テホーマー及ヒヘシオッド等ノ史詩、ヒンダー及ヒサツフ等ノ樂詩、エスキラス及ヒソフナクリス等ノ戯曲

相續テ起リ、然後始メテヒロドタス、プレト、アリストーツル等ノ散文顯ハレ、羅馬ニ於テハ、フェスセンニン歌ノ昔ヨリ、プロータス及ヒテレンス等ノ韻文ヲ經テ然後ケト、シセロノ散文ニ及ホシ、英國ニ於テモ亦ビオウルフ譚、ケッドモン創世歌ノ類顯ハレテヨリ、數年ノ久シキニ涉リテ後サクソン編年史等ノ如キ散文ノ世ト爲レリ。夫レ斯ノ如ク韻文ノ先ツ出ツル所以ノモノハ他ナシ。(一)上古ノ人ハ推理ノ力ニ乏シクシテ、想像ト感情トニ富ムガ故ニ、物ニ觸レ事ニ逢フ毎ニ、感情激發シ、想像叢生シテ詩歌ニ顯ハル、ト、(二)未ダ文字アラザル以前、口碑ニ由リテ事蹟ヲ後世ニ傳ヘンニハ、韻文ニ綴リテ吟咏ニ便ニシ、記憶シ易カラシメザルベカラザルトニ由リテナリ。

人智漸ク進歩シ、從前ノ如ク徒ニ見聞スル所ヲ想像ト感情トニ訴フルヲ止メテ之ヲ理性ニ訴フルニ及ヒテ、始メテ散文起ル。散文ハ理論ト事實トヲ旨トスルモノナルガ故ニ、彼ノ妄想ヲ逞フスル所ノ未開ノ世ニハ適セザルナリ。又此散文モ最初ノ間ハ歴史、傳記等ノ如キ單ニ事實ヲ記載スルモノ等ニ止マリタルモ、其後人智ノ開ケ社會ノ進ムニ連レテ、哲學科學等ノ如キ高尚ナルモノニ及ホシ、論文ナド顯ハル、ナリ。

要スルコ、文學ハ社會ノ變遷ニ伴フガ故ニ、社會ノ幼稚ナル間ハ、文學モ亦妄想感觸ノミヨリ成リ、社會ノ成年ニ達スル比ハ、文學モ理論ニ熟シテ正確ナルニ至リ、社會老耄スルキハ、文學モ衰弱スルナリ。其他社會鄙野猥褻ナレバ、文學モ亦鄙野猥褻ニ、社會殺氣ヲ帶ブレバ、文學モ亦殺氣ヲ帶フルト云フ如クニ、一トシテ甲乙相聯結セサルハナク、實ニ密着ノ關係ヲ有スルモノナリ。故ニ文學ノ起源發達變遷ヲ詳カニスルキハ、推シテ以テ社會ノ起源發達變遷ヲ詳カニスルヲ得ベシ。本書紙數ニ限リアリテ之ヲ詳論スルヲ能ハズ。只僅ニ十ヶ一ヲ述フルノミ。

#### (四)文學ノ種類

凡ソ文章ニハ散文韻文ノ二大別アリ。文學モ亦此二種ニ分ルベキモノト爲ス。散文トハ韻ヲモ押マズ、一定ノ字數モナク、自由自在ニ思想、感情、想像ヲ書キ顯ハシタルモノヲ云フ。只文學上ノ散文即チ散文學ハ俗文ト異ナリテ、多少ノ雅趣ヲ含ミ、快樂ヲ目的トスベキナリ。ソハ英文ニ就テ言ヘバ、マコトレ一卿一千八百五十九年死ス現世紀最モ有名ナル英ノ文學家ナリ本書第二卷英國文學史ノ部ニ詳ナリ國ノ文學家ナリ。本書第二卷英國文學史ノ部ニ詳ナリ。

英國史、サカレ一一千八百十一年生同六十二年死ス英國有名ナル小説家ナリノ虛築市中(ヴァニチー、フニアー)等ト英人日常ノ談話トヲ比較スルキハ自ラ明ナルヲ得ン。

散文ノ中ニモ亦種類多シ。英國ノ修辭家ベインハ之ヲ論、說、記、傳ノ四種ニ分ツ。ソノ他種々ノ別チ方アリ。左レド人ノ能ク知ル所ナレバ略ス。

韻文トハ即チ詩歌ノ謂ヒニシテ、或ハ韻ヲ押メルモノアリ、又ハ韻ヲ押マザルモノアリト雖モ、要スルニ散文ノ如ク自由自在ニ思想、感情、想像ヲ書キ顯ハスヲ能ハズ。一定ノ規則ヲ守ラザルベカラザルナリ。一定ノ規則トハ何ソ。發音ニ抑揚アル語ト、抑揚ナキ語トノ定數ヲ有テル句ヨリ成ルト云ヘル是レナリ。例ヘバ、

The mel' | -anchor' | -y day' | are come,' | the sad' | -dest of' | the year'; | of wail'  
 | -ing winds' | and ha' | -ked woods' | and mead' | -ows brown' | and sea'.

ノ如シ。

韻ヲ押メタル詩ハ、二箇以上ノ韻ヲ押メル句ヨリ成ルモノナリ。例ヘバ、  
 All are but parts of one harmonious whole.

Whose body nature is, and God, the soul.

ノ如シ。而シテ二箇ノ句ヨリ成ルモノヲ對句又ハ聯句ト云ヒ、三箇ノ句ヨリ成ルモノヲ三聯句ト云フ。

韻ヲ押マザル詩ハ、韻ヲ押マザル諸句ヨリ成ル。例ハ、

Now came still evening on, and twilight gray

Had in his sober livery all things clad;

Silence accompanied; for beast and bird,

They to their grassy couch, these to their nests,

Were slunk, all but the wakeful nightingale;

She all night long her amorous descant sing—Milton.

ノ如シ。

詩ハソノ体制ノ差違ニ從ヒテ、之ヲ史詩又叙事詩（エピック、ポエトリー）、樂詩又叙情詩（リ

リック、ポエトリー）、戯曲詩（ヅラマチック、ポエトリー）ノ三綱ニ分ツ。

史詩トハ最モ高尚ナル韻文ヲ用ヰテ、眞假ノ出來事（多クハ英雄ノ偉業）ヲ詠スルモノナリ云フ。詩中ノ最モ長篇ニ涉レルモノナリ。之ヲ小別シテ八ト爲ス。（一）大史詩又エピック即チ複雑セ

ル大事件ヲ叙述シタルモノ。ホーマーノイリアッド、希臘文學史 ヴァーギルノエニード、羅馬文學史 ミルトンノ失樂園英國文學史 ダンテ一千二百八十五年生、一千三百二十年死、伊太利ノ詩人ナリノデヴアイン、コメデー、

コペランゼンリード撒遜古代ノ詩ナリ、獨逸文學史ニ在リノ如キ是レナリ。（二）稗詩ローマンス即チ小説ヲ叙述シタルモノ。

エドマンド、スペンサーノ仙女傳、同上スコットノ湖上ノ美人同上ノ如キ是レナリ。（三）物語

類即チチヨーサーノカンターベリー譚英國文學史 バイロンノコルセーア同上ウチーヅウチースノ

ホワイト、ドー、オフ、ライルストーン同上ノ如キ是レナリ。（四）歌曲ハラッド即チ概テ短篇ニ且ツ

簡單ナル者ニシテ、ウラーヅウチースノラス英國文學史 シレルノダイヴァー獨逸文學史 ギョテノコ

リンズノ新婦同上ノ如キ是レナリ。（五）正史詩ヒストリカル、ボエム、メトリカル、ヒストリー即チ押韻セル歴史。ハーバーノブルース傳同上

警者ハーリーノウヲリツスヲ詠スルノ詩ノ如キ是レナリ。（六）半樂詩即チ樂詩ト史詩ト混

合セルモノ。バイロンノチャイルド、ハロルド同上ノ如キ是レナリ。（七）牧歌等。ヴァーヂ

ルノエタログス羅馬文學史 バーンズノ「小舎ニ於ケル土曜日ノ夜」英國文學史 テニンソンノ王ノ

歌同ノ如キ是レナリ。(八)散文作話即チ(二)以下ノ押韻セザルモノ是レナリ。

樂詩トハ、或ル烈シキ感情ヲ表出スルモノヲ云フ。而シテ之ヲ史詩若クハ戯曲詩ニ比スルニ頗ル短キヲ常トス。

(一)短歌 (甲)神歌即チ讚美歌、(乙)俗曲神歌ト區別スルガ爲メニ云フニ分チ、俗曲亦軍歌、戀歌、情歌、愛國歌、政歌等ノ數種ニ分ル。

(二)絶句 最モ高尚激切ナル感情ヲ表出スルモノニシテ、謠歌スベキニハアラズ。ハラム前ニノ説ニ據ルニ、ミルトン一千六百八年生、同七十四年死ス英國ノ詩傑ナリ英國文學史ノ部ニ詳ナリ「基督降誕ヲ祝スルノ絶句」ハ絶句中ノ無双ナルモノナリト云フ。

(三)悲歌 亦樂詩ノ中ニ編入スルヲ得ベク、短長歌モ亦此中ニ編入スルヲ得ベシ。悲歌ハ悲哀ノ情ヲ表出スルモノニシテ、短長歌ハ嘲笑ノ意ヲ表出スルモノナリ。彼ノ諷詩ハ短長歌ニ屬スルナリ。

(四)四行詩 簡單ニ感情ヲ述フルモノナリ

(五)簡單樂詩 バーンズノゼ、マウンテン、デーシー英國文學史ニ在リテニソソノセント、アグチ

ス夜祭同ノ如キ是レナリ。

戯曲詩即チ戯曲ハ、人生ヲ描寫シ、之ヲ劇場ニ演スルニ適セシメタルモノニシテ、一個人ノ性質、社交的ノ生活、自然ノ物象ノ活畫ナリ。而シテソノ物語ヲ包含スルノ點ニ於テハ史詩ニ似タリト雖モ、之ヲ口ニ述ヘズシテ之ヲ身ニ演スルニ至リテハ大ニ異ナルナリ。

戯曲ニ二種アリ。一ヲ悲哀戯曲ト云ヒ、一ヲ滑稽戯曲ト云フ。二戯ノ詳細ハ本書第一卷希臘文學史ノ部、及ヒ第二卷英國文學史ノ部ニ載セタルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス。

以上ノ三体ノ外ニ又教詩(マイダクナツク、ポエトリ)ト云ヘルモノアリ。倫理學上、哲學上、文學上ノ眞理ヲ教フルヲ以テソノ目的ト爲スモノニシテ、ポープロノ人論英國文學史ノ部ニ在リヲ一ツウヲ一スノ漫遊ノ詩同ノ如キ是レナリ。又ヘシオツド希臘文學史ノ部ニ在リノ作ニ係レル詩類モソノ目的ハ之ニ類似スルナリ。

以上(一)ヨリ(四)ニ至ル迄ハ、固ヨリ文學ニ關スル梗概ヲ叙述シタルニ過キズ。茲ニ漏レタル所ハ、下文ノ數篇數章ヲ閱讀スルノ際、自ラ明瞭ナルヲ得ベキナリ。

# 希臘文學史

幸福散史 澁江 保著

## 第一篇 上古ノ文學

### 第一章 總論

希臘ノ文學ハ泰西近世ノ文學ノ淵源ナリ  
ハ泰西近世ノ文學ノ淵源ナリ

希臘ノ文學ハ泰西近世ノ文學ノ淵源ナリ。故ニ乙ノ沿革ヲ詳カニセント欲セバ、必ラス先ツ甲ノ沿革ニ明カナラザルベカラズ。是レ著者ガ此泰西文學史ヲ編纂スルニ當リテ、首卷ニ希臘文學史ヲ置ク所以ナリ。本卷ハ同文學ノ梗概ヲ撮記シタルモノナレバ、其詳細ヲ知悉セント希望スル者ニ執リテ隔靴ノ憾アルベキハ、固ヨリ言ヲ待タザレド、只管簡單明瞭ヲ旨トシ、讀者ヲシテ頃刻ノ間ニ其一班ヲ窺フヲ得セシムルヲ期スルノミ。若シ夫レ精密ヲ究メタルモノハ、他日別ニ編纂シテ讀者ノ瀏覽ニ供スベシ。

希臘ノ文學ハ自家ノ原造ナリ。他國ノ糟粕ニアラザルナリ。抑モ韻文<sup>ポエトリー</sup>中ノ



希臘ノ文學  
ハ自家ノ原  
造ナリ他國  
ノ糟粕ニア  
ラザルナリ

重モナルモノ即チ史詩、樂詩、戯曲詩、及ヒ散文中ノ重モナルモノ即チ歴史文、哲學文、演說文ハ、今日ノ如キ普通一般ニ行ハル、ノ時代ヨリ之ヲ見レバ、自ラ此世ニ存在スルニ似タリ。然レドモ其實決シテ然ラズ。泰西ノ文學ハ多ク希臘人ノ腦裏ヨリ造リ出ス所ナルガ故ニ、希臘以前ニ在リテハ或ハ全ク存在セザルカ、又ハ假令ヒ存在スルトモ、幼稚ニシテ取ルニ足ラザルナリ。左レバ其種類ノ韻文ナリ、散文タルヲ問ハズ、又史詩ナリ、樂詩ナリ、戯曲ナリ、歴史ナリ、哲學ナリ、演說文タルニ論ナク、之ヲ言文ニ表出スルノ必要アル毎ニ、希臘人ノ天才ニ由リ、其原造力ニ由リテ、漸ク原造セラレ、漸ク完璧ノモノトセラレタルナリ。希臘ノ文學ヲ以テ泰西近世ノ文學ノ淵源ナリト云フ所以ノモノハ之ガ爲メナリ。尤モ或ル場合ヨリ言ヘバ、羅馬ノ文學ガ泰西近世ノ文學ニ及ホセル影響ハ、希臘ノ文學ガ及ホセルヨリモ一層直接ナルニ相違ナシ。然レトモ此影響ノ生スル所以ヲ尋チタランニハ、必ラス希臘ニ遡ラザルヲ得ザラン。

希臘人ハ文章ヲ作ルニ對稱恰好ヲ旨トス

希臘人ハ文章ヲ作ルニ對稱恰好ヲ旨トス。希臘人ハ機敏ニテシ風致ニ富メリ。故ニ何事ヲ爲スニモ恰好ヲ旨トシ、對稱ヲ失ハズ。例ヘバ、神社ヲ建ツルニ、一方大ニ過ギ

テ一方小ニ過グルガ如キナク、又裝飾ヲ施スベカラザル箇所ニ裝飾ヲ施スガ如キナシ。彼ノ雅典ノパーセノン女神ミナールノ社ノ如キハ其質素ニシテ雅趣アル、其各部ノ能ク對稱セル、眞ニ神社中ノ最モ完璧ニ近キモノト云フベシ。又彫像ヲ造ルニ當リテモ、四肢百骸ノ相對稱スルコトニ注意シ、勉メテ非常ナルコトヲ避ケリ。文章ニ於ケルモ亦然リ。作文ノ際常ニ恰好ノ二字ヲ心目ノ前ニ置キテ、之ヲ嚮導ト爲シ、言フ所フ、思フ所ヨリモ大ナルカ、若クハ故カラニ奇言ヲ吐クガ如キハ、之ヲ對稱ヲ失ヘルモノト考ヘ、文章ノ拙ナルモノト定メ、又甲種ニ適好セル文体モ乙種ニハ適好セザルコトヲ知レリ。殊ニ以爲ラク、「著述家ハ明瞭ヲ專一トセザルベカラズ。假令ヒ巧ニ字句ヲ排列スルトモ、肝腎ノ意義ニシテ明瞭ヲ欠ク片ハ、裝飾ヲ施スベカラザル箇所ニ裝飾ヲ施シタルト何ソ擇ハント。是ヲ以テ吾人ハ希臘諸大家ノ著述ヲ閱讀スルニ當リテ、概テ左ノ二項ヲ認識スルヲ得ベシ。

(一)文章ノ種類ヲ異ニスル毎ニ其文体ヲ異ニシ、而シテ其文体ハ其種類ト相適應スル事。例ヘバ、韻文ニ就テ言ヘバ、史詩ハ樂詩ト異ナリ、散文ニ就テ言ヘバ、歴史ハ演說文ト同シカラザルノ類、(二)著述家ハ明瞭ヲ專一トスルガ故ニ、思想ノ爲メニ言語ヲ擇フモ、決シテ

希臘語特得ノ長所

思想ヲシテ言語ノ奴隸ヲラシメザル事是レナリ。

希臘語特得ノ長所 希臘人ハ美ヲ愛スルノ天性、美形ヲ創製スルノ能力、他邦人ニ勝グレタリ。而シテ同國ノ言語ハ其ノ創製セシアテユル美物中ノ冠タルモノナリ。俾何故ニ希臘語ハ斯ノ如ク美中ノ美ニ達スルヲ得タリヤ。願フニ希臘人ノ敏捷活潑ナル事物ノ意義ヲ精細ニ區別シテ、隱微ヲ漏ラサズ。國語モ亦隨テ簡單ナル字句ノ中ニ此精細ナル區別ト隱微ノ點トヲ表出スルヲ得テ遺憾アルコトナキニ由リテナリ。左レバ、甲句ヲ以テ同意義ノ乙句ニ代用シ、若クハ文章中ノ姿勢聲調トモ稱スベキ——演說ニ譬ヘテ言ヘバ——分詞ノ助テ假リ、又ハ章句ノ順序ヲ聊カ變更シテ以テ其傳ヘント欲スル所ノ意義ヲ詳示シ、自在ニ言語ヲ屈伸スルヲ得ルガ如キハ、則チ希臘人特得ノ長所ニシテ、希臘語ノ感賞セラル、所以ナリ。泰西人常ニ曰ク、「希臘文學ヲ知ラザル者ハ人話ガ完全ナル機關タルコトヲ理會スル能ハズ」ト。

希臘文學沿革ノ概略

希臘文學沿革ノ概畧 希臘語ハホーマー第二章ニ詳ナリ以前ノ上古ヨリ今日ニ至ル迄、其大體ニ於テハ常ニ同一ナリトス。——假令ヒ少許ノ變化ハアリシニモセヨ——而シテ其文學

ハ三千年ノ間連綿タリ。今此永年間ノ文學ヲ大別スレバ大約左ノ三期ニ歸スベシ。

(第一)古代ノ文學 ホーマー 紀元前九百四十年ヨリ紀元後五百二十九年——即チシヤスチニア

ン帝 四百八十二年(?)生レ五百六十五年死ス羅馬皇帝ナリノ勅令ニ由リテ異端哲學ノ學校ヲ閉チシ時ニ——至ル。

(第二)中古ノ文學 即チビザンチン文學ナリ。紀元後五百二十九年ヨリ同一千四百

五十三年土耳其人コンスタンチノープルヲ征服セシ時即チ東帝國ニ至ルニ至ル。

(第三)近世ノ文學 マニユエル、コムチナス帝一千百二十年(?)生レ一千百八十年死ス羅馬皇帝ナリマニユエル一世ト稱スノ治

世——自一千百四十三年至一千百八十年——ニ僭セオドラス、プロドロマス俗語ヲ以テ

諷詩ヲ作リシヨリ今日ニ至ル。

(十八世紀ノ末葉ニ、希臘ノ愛國者ニシテ且ツ學者ナルコレースハ、自ラ先例ヲ出シテ、文學語ノ擾亂シ、若クハ外國語ノ混和シタルヲ一洗スルコトニ勉メタリ)、

古代ノ文學

古代ノ文學 前項述フルガ如ク、希臘ノ文學ハ、古代、中古、近世ノ三期ニ分ツト雖

モ、本書ハ只古代ノ文學ノミヲ説カントス。而シテ此古代ノ文學ハ亦之ヲ小別シテ(一)上古ノ文學、(二)雅典ノ文學、(三)衰世ノ文學ト爲スナリ。

上古ノ文學

(第一)上古ノ文學　ホーマーノ時ヨリ紀元前四百七十五年ノ頃ニ及フ。此時期ニハ史詩隆盛ヲ極メタリ。又悲歌、エレジー、アイラムヒック、ボエトリ短長詩、第一音ハ短ク第二音ハ長キニ音ノ詩ヲ云フ樂詩ハ此時期ニ起レリ。散文モ亦此時期ニ小亞細亞ナルアイオニアニ住スル希臘人中ニ起リタレド、猶未タ巧ナルニ至ラズ。

雅典ノ文學

(第二)雅典ノ文學　紀元前四百七十五年ノ頃ヨリ同三百年ノ頃ニ至ル。此際雅典ニ於テ、戯曲ハ悲哀戯曲、滑稽戯曲共ニ完全ノ域ニ達シ、散文モ亦歴史ニ、演説文ニ、哲學ニ、各々充分ニ發達シタリ。文學ノ隆盛茲ニ至リテ極マレリト云フベク、希臘人ノ天才茲ニ至リテ其美形ヲ造ルノ業ヲ完フシタリト云フベシ。然レドモ又一方ヨリ言フキハ、舊時ノ元素、政治上ノ自由ハ此時期ヨリ漸ク致動ノ源ヲ失ヘリ、又韻文散文共ニ創業ノ時期ヲ過ギテ、守成ノ時期トハ爲レルナリ。

衰世ノ文學  
— 歷山時期

(第三)衰世ノ文學　別チテ二期ト爲ス。

(甲) 歷山時期

紀元前三百年ヨリ同百四十六年希臘ガ羅馬ニ降服セシ時ニ至ル。

(乙) 希臘羅馬時期

紀元前百四十六年ヨリ紀元後五百二十九年異端哲學ノ學校閉止ノ

希臘羅馬時

時ニ至ル。

希臘ノ文學  
ハ自然ニ發達セリ

希臘ノ文學ハ自然ニ發達セリ　希臘ノ文學ハ人爲ニ由リテ發達シタルニアラズ。希臘人ノ生活ヨリ自然ニ發達シタルモノナリ。今其自然ニ發達シタルヲ証センガ爲メニ、之チ一年ノ季節ニ譬ヘテ言ハンニ、梅花先ツ開キテ後ニ櫻花ニ及ホシ、若クハ桃實先ツ熟シテ後ニ柿實ニ及ホスニ均シク、希臘ノ文學モ亦韻文先ツ完全ヲ極メテ後ニ散文起リ、若クハ史詩先ツ巧妙ト爲リテ後ニ戯曲現ハル、ト云フガ如クニ、各々ソノ成長シ、答フ生シ、花ヲ開キ、又凋衰スルノ季節ヲ異ニシ、同時ニ盛衰セザルハ則チ希臘文學ガ自然ニ發達シタルノ徵証ニアラスシテ何ソヤ。假リニ若シ之チシテ外國ノ模範ニ倣ヘルモノヲラシメバ其韻文散文ニ論ナク、如何ナル種類ヨリ始ムルモ隨意タルベク、或ハ百種ノ文學ヲ同時ニ旺盛ナラシムルモ勝手タルベシト雖モ、希臘人ハ決シテ他國ニ模範ヲ有スルニアラズ。自ラ詩文ノ諸体ヲ逐次ニ發明シテ、漸ク之チ完全ナラシメタルモノナレバ、其成長發達ハ精神及ヒ社會ノ成長發達ト共ニ着々歩テ進メタルナリ。辭ヲ換ヘテ之チ言ヘバ、希臘人種ノ三大派各ソノ自然ノ順番ニ由リ、其特得ノ長所ニ從テ文學上ニ各異ノ力ヲ盡シ、之チ發達セシメ

タルナリ。

希臘人種ノ三大派 エオリヤ人種、ドリアン人種、アイオニア人種、之ヲ希臘人種ノ三大派ト云フ

エオリヤ人種 本來小亞細亞ナレエオリヤニアニ住セシ故ニ此名アリ 文學史ノ初二當リテ、セサリー、ポーシア、エー

トリア、アカーナニア。以上希臘ノ地 ペロポネチサス半島 希臘最南部ノ半島 中ノアカーヂア、エリス、アカ

イア。小亞細亞ノ西北海岸。レスボス島。イーシアン海中ノ大島 及ヒ伊太利東南海岸ナルマグナ、グレ

シアニ於ケルクロトンノ如キ大屬地ニ住シタル人種ナリ。

ドリアン人種 本來ドリリスニ住セシ故ニ此名アリ ペロポネチサス半島中ノアリゴリス、メッセニア、ラコ

ニア、コリンズ。メゲイラ。小亞細亞ノ西南海岸ニ於ケル屬地。クレイト島。ローヅ島。

西々里ノ東南海岸ニ於ケルシラキユニス及ヒ自餘ノ屬地。マグナ、グレシアニ於ケルタル

ンナム及ヒ自餘ノ屬地ニ住シタル人種ナリ。

アイオニア人種 本來小亞細亞ノアイオニアニアニ住セシ故ニ此名アリ 其アツチカ 雅ニ屬スル部分ニ就テ言ハバ、アツ

チカ。ユーベアニ住シ、其他ニ就テ言ハバ、小亞細亞ノ西海岸ナル、北ハエオリヤ人種ノ住所

ニ接シ、南ハドリアン人種ノ住所ニ接シタル地。サモス島、シオス島。イーシアン諸島ノ

大半。及ヒ伊太利、西々里ノ諸市府。ユーキシシ海上ノ諸市府ニ住シタル人種ナリ。

以上ノ三大派各々自家特別ノ言語ヲ有ス。此言語ヲ名ケテ方言ト云フ。此方言ニ各々長短

得失アリ。文學ノ發達トシノ時期トニ大關係ヲ有セリ。然レドモ長文ニ涉ルニ厭フテ茲ニ

之ヲ略ス。毎篇閱讀ノ間ニ自ラ明瞭ナルヲ得ベケレバナリ。

上古文字ノ有無 教授シエフ言ヘルコトアリ曰ク。「世ニ文字アリテ然後真正ノ文學

アリ。未タ文字アラザル以前ハ真正ノ文學ナキナリ。何トナレバ、文學ニハ確定セル形ナカ

ル可ラザルニ、彼ノ記憶力ハ其作用ノ廣大ナルニモ拘ハラズ、獨リ口頭ノ傳説ノミニテハ、

確定セル形ヲ有シ難ケレバナリト。此言ノ當否ハ姑ラシ置キ、希臘ニハ上古ヨリ文字アリ

シヤ否ヤ。此問題ヲ定ムルハ容易ノ事ニ非ズ、今猶未定ノモノタリ。古來ノ傳説ニ據ルニ

「フエニシア國ノ王子カドマス、希臘ニ來リテ、アルファベットヲ授ケタリ。カドマスハ紀元前

希臘ニ來リ同國ニ留マルコ六 左レバコソ希臘ニテハ、當初アルファベットヲフエニシア記號ト稱

ヘタリト云フ。此說ニ據レバ、希臘ニハ上古ヨリ文字アリシナリ。願フニ此說或ハ信ナルベ

シ。何トナレバ。其頃——少ナクトモ紀元前一千百年以前——フェニシア國ノ海港シドンハ  
 通商航海ノ二權ヲ掌握シタルガ上ニ、希臘國ハ數百年間其織物金器ヲ頒賣シ、其國人ノ伶俐  
 ナルヲ感賞シ、之ヲ以テ貿易上ノ好敵手ト爲シタルニ、敏捷ナル希臘人ガ永年ノ間更ニ文字  
 ナ傳習セザルノ謂ハレナケレハナリ。史家ヒロドタス 第二卷第三章ニ詳ナリ ハ紀元前四百四十年ノ頃、  
 我が著書中ニ假定スラク、「希臘人ガ充分ニ文字ヲ熟知セシハ今ヨリ ヒロドタスノ時ヨリ 數百年以前ニ  
 在リ」ト。夫レヒロドタスハ古事鑑定家ニ非ズト雖モ、能ク希臘人ノ生活ヲ詳カニシ、其記録  
 ナ考究シ、殊ニ聰明ナル人ニシテ、且ツ漫遊ノ大家ナレバ、若シ同國人ハ數百年以前ヨリ既  
 ニ文字ヲ知リシト云フ事ガ、當時學者ノ定説ニアラザリシナランニハ、斯ル言ヲハ發セザル  
 ベシ。蓋シ希臘國ニハ彼ノ上古ノ文學ナルモノ、顯ハル、以前ヨリ必ズ文字アリシナラン。  
 左レド紀元前七百年ノ頃ヨリ以前ニ之アリシト云フハ、今之ヲ証明スル能ハサルナリ。  
 公衆一般ガ文字ヲ知ルニ至リシハ、晩年ノ事トス。當初文字ヲ知レル者ハ只僅カニ詩人ト僧  
 侶トノミ。又場所ニ就テ言ヘバ、上古知字ノ中心ハデルファイノ神社 デルファイハ希臘ノ地ナリ  
 神社トハ同國ノ神アポロノ  
 神社ナリ ナルベシ。尤モ雅典ニテモ、ペロポネサス戰——紀元前四百三十一年ヨリ同四百

四年ニ至ル——ノ頃、市場ニ數多ノ書肆アリテ書籍ヲ賣買セリ。而シテ其書 當時ハ皆ハ奴隸  
 寫本ナリ ノ筆ニ成リ、且ツ寫字料甚廉ナルガ故ニ、隨テ書籍——即チ卷物——ノ價モ亦甚廉ナリ。  
 然レドモ多ク之レヲ藏スルハ諸神社ト僅々ノ學者トニ過ギザリキ。埃及王トレミー一世  
紀元前三百六十七年(？)生レ同二百八十五年死ス。歴山大王ノ部下  
 ニ屬スル將軍ノ一人ニシテ紀元前三百六年ニ埃及王ノ位ニ即ケリ ノ時ニ及ヒテ始メテアレキサンドリア府  
 埃及ノニ希臘書籍館ヲ建設シタリ。  
 海峽

ホーマー以  
 前ノ希臘詩

ホーマー以前ノ希臘詩——當初ハ宗教的ナリ。希臘ノ文學ハ實ニホーマーヨ  
 リ始マレリ。然レドモ、ホーマーノ二詩即チイリアツド及ヒオヂセー 二詩共ニ第二章ニ詳ナリ ハ、他國  
 ノ簡單ナル歌曲ト全ク異ナリテ、一点ノ申分ナキ完全ノモノナレバ、此ノ詩ノ出ルニ先チ  
 テ、永ク稍々卑近ナル詩ノ輩出スルナクンバアルベカラザルノ理ナリ。只如何セン、今一  
 モ存スルモノナキヲ以テ、其大体ニ就テ考察スルノ外他ニ詮術ナキノミ。故ニ其趣ヲ英國  
 文學史ニ譬ヘテ言ヘバ、恰カモ十四世紀ニ於テチヨーサー 一千三百二十八年(？)生レ一千四百年死  
 ス。英國四詩傑ノ一人ニシテ英詩ノ鼻祖ト  
 稱ト共ニ突然英國文學ノ起レルガ如ク、チヨーサー以前ノ文學ビオワルフ物語 六千句以上ニ  
 涉レル無名氏  
 ノ詩ナリアンケロ、サクソン時代ノ作ニシテ世ノ傑作ト稱ス丁抹軍人ビオワルフ  
 ト云ヘル英雄ヲ主人公トシ其危險ヲ冒シテ事業ヲ爲シタル顛末ヲ叙述セルモノナリ 若クハケツドモン創世歌 ケ

ドモンハ紀元後六百八十年死スアングロ  
 サクソンノ詩人ニシテ創世歌ヲ作リタリ 又ハ其他ノ宗教的舊詩ニ就テハ只徒ニ其名ヲ知ルノミニ  
 詩歌其物ノ存スルヲナキガ如シ。實際只名ノミ存スト云フニハアラズ譬ヘテ云フナリ詳  
 細ハ本書第二卷英國文學史ノ部ニ於テ知ルベシ 但シ上古ノ希臘  
 詩ニ關シテ吾人ノ確カメ得ベキ事實ハ只一アリ。即チ其ノ希臘宗教ト密着セシト云ヘル是  
 レナリ。

歴史ガ吾人ニ告クル所ニ據ルニ、曾テ書契以前ニ在リテ、今ノ歐米人ノ祖先ハ、當時ノ波斯  
 人、印度人、及ヒ奴隸等ト共ニ中央亞細亞ニ棲息シ、而シニ太陽、東雲、大地等ノ如キ目  
 以テ見ルヲ得ベキ致動力ヲ崇拜シタリシガ、既ニシテ以爲ラク「是レ等ノ諸力ハ恰カモ人  
 類ト均シキ心身ヲ有スルナラント」。依テ太陽ヲ以テ火車ニ駕シテ諸天ヲ周行スル所ノ男神  
 ト爲シ、東雲ヲ以テ暗黒上ニ紅色ノ手指ヲ置ク所ノ女神ト爲シ、又大地ヲ諸神ノ母ト爲セ  
 リ。然レドモ當初ノ如ク只自然力ヲ崇拜シタルヨリ、之ヲ男女諸神ナリト想像スルニ至リタ  
 ル迄ノ間ノ變化ハ漸チ以テ生シタル者ニシテ、決シテ一朝ニシテ生シタルニ非ズ。變化ノ初  
 ノ頃ハ口ニハ自然力ヲ呼フニ人名ヲ以テシツ、モ、心ニ於テハ自然力ナリト云フヲ忘レ  
 ズ。人名ヲ附スルハ管ニ便利ノ爲メノ符徴ニ過ギズト爲セリ。夫ノヴギドマス即チ印度婆

羅門教ノ神歌中ニハ此時代ノ根迹ノ存スルアリ。此神歌ハホーマーノ詩ヨリモ一層舊ク、而  
 シテ希臘人、印度人共ニ中央亞細亞ニ棲息セシ際ノ上古ノ宗教ノ精神ニ一層近キモノナ  
 リ。又希臘ノ古歌即チリナスノ歌、アイアリーマス詩神カリアーノ子ニシテノ歌、ハイラス  
 不運ナル諸者ナリノ歌、ハイラス  
 ノ歌ノ如キ、今ハ只其名ノミヲ存スルモノ、中ニモ、亦同時代ノ根迹ヲ存セシナラント思  
 ハル。斯ル歌類ハ概シテ横死セシ美少年ヲ弔セシモノナリ。世ニ傳フル所ニ據レハ、ハイ  
 ラスハ。マイシア及ヒメテダイスノ王シオダマスノ子ナリ。ハイキユルス之ヲ奪フテ、  
 アーゴ船(アーゴ船ハ古代有名ナル船ナリ)ニ乗セ、コルシス(亞細亞ノ國)ニ伴ハントス。  
 亞細亞ノ海岸ニ至ルニ及ヒ、舟人等新鮮ナル水ヲ得ントテ上陸セリ。時ニハイラスモ、亦共  
 ニ上陸シテ泉ノ邊ニ行キ、甕中ニ水ヲ滿タシメントシテ、誤テ泉中ニ陥リ、溺死セリ。然ルニ  
 詩人ハ強附會ノ說ヲ爲シ、ハイラスノ溺レタルハ、河ノ女神ガ其美少年ナルヲ見テ、之  
 ニ戀着シ、之ヲ伴ヒ去リシナリト云ヘリ。又傳フル所ニ據レバ、リナスハ神ノ子ニシテ、  
リナスニ就テハ種々ノ說アリテ一  
 定セズ又同名ノ人モ數名アルナリ 羊欄ニ成長シ、犬ノ爲メニ寸斷セラレタリ。左レバ、人之ヲ憐  
 ミテ歌ヲ作り、之ヲ弔セリト。

神ニ捧ケタル歌

希臘人ハ美形ノ感覺鋭敏ニ、殊ニ人間ノ美形ニ對スル感覺最モ鋭敏ナルヲ以テ名アリ。左レバ、其中央亞細亞ヲ去リテ歐洲ニ移ルニ及ヒテハ印度ノ鬼神ノ醜惡奇怪ナル形狀ニ満足スルヲ能ハズ。依リテ漸ク其鬼神ヲ説クニ美麗ナル男女ナリト云フヲ以テシ、美麗ナル諸種ノ肖像ヲ造リテ、之ヲ各異ノ鬼神ナリトセリ。而シテ言ヘラシ、我カ男女ノ諸神ハ、印度人ガ所謂諸神ノ如キ醜惡奇怪厭フヘキモノニアラズ。人類ト同様ナル形狀ヲ有シ、セサリ希臘列國ノ一ノ北方ニ聳ヘタルオリムパス山ノ頂上ニ棲息スルモノナリト。諸者ハ神歌ヲ作りテ、是レ等ノ諸神中ノ或ルモノヲ讚美シタリ。今ソノ讚美セラレタル諸神ノ重モナルモノヲ舉レバ左ノ如シ。

アポロ 光明清潔ノ神ナリ。音樂、豫言、醫藥ヲ司ル。人之ニ向テ健康ヲ祈ル時ニ、若クハ健康ニ復シタルヲ謝スル時ニ、健康ノ歌ヲ謠フ。  
 デメター 大地ナリ。母ナリ。穀物ヲ人ニ與フル女神ナリ。之ニ捧ケタル歌ハ、其美麗ヲ頌シ、其女ペルセフチンガ地獄ニ墜タルプルト神ニ奪去ラレタルチ云フヲ弔シ、又其再ヒ恢復シ得タルヲ祝シタルモノ等ナリ。

ダイオナイサス 酒、遊戲、宴樂、及ヒ人心ヲ刺衝スベキ肉体ノ快樂ヲ司ル。此神ト、デメタートハ亦他界ヲ司ル。

シビール 小亞細亞ノフリシア人ガ「諸神ノ母」ナルモノニ與ヘタル名ナリ。コリバンツト稱スル諸僧鑿鼓ヲ鳴ラシ、笛ヲ吹き、粗舞ヲ爲シテ之ヲ祭ル。

物語ヲ謠ヘル樂人

希臘ノ古語ヲ謠ヘル樂人中ノ最モ舊キモノヲオルフエアス

ト爲ス。此神人或ハ詩ノ女神カ、オプノ子ナリト云ヒ又ハアポロノ名ハ印度ノリブユーチ希臘語ニ改メシモノナリリ。リアユーチハ、印度神歌中ニ大名匠トシテ最モ著シク、且ツ神ト爲リシ人ノ最モ舊キモノナリ。又オルフエアスハ他ノ上古ノ謠師ト同シク、スレース人ナリト云フ。是レ彼レガ詩ノ女神ミューーセスミューセストハ詩ノ女神ト云フ義ナリオルフエアスハ前ニモ註解セル如クノ崇拜ト密着ノ關係アルノ意ヲ含ムナリ。詩ノ女神カリオプノ子ナルガ故ニ其崇拜ト密着ノ關係アリト云フナリ拜ト密着ノ關係アルノ意ヲ含ムナリ。詩神ヲ崇拜スルノ風習ハ、スレース人ニ始マリテ、ヒーリア希臘列國ノ一ナルセサリア東北隅ノ一地方ナリニ於ケル希臘人ニ傳ハリ、ヒーリアヨリ南方ニ傳播シテ、フナシスナルパーナサスパナサス山ハミユボトシアナルヘリコンニ及ホセリ。ミューーセアス(ミューセスノ臣)ハ亦スレース人ニシテ、或ハオルフエアスノ徒弟ナリト稱ス。スレース

人ユ一モルフアス(唱歌ノ名人)之ヲ崇拜セリ。ユ一モルフアスハ、ユ一モルビデアノ僧侶ガ其祖先ナリト主張スル所ナリ。又樂人サミラスハスレーズ人ノ一ナリ。始メテアポロニ捧ケタル神歌ハ、ライシア人オレンス、クレイト人クリソセミス、デルフアイノフ井ラモン之ヲ作りシト云フ。次テフリジア若クハクレイトノ樂人ハ、シビールノ爲メニ神歌ヲ作レリ。其作者ハマーシアス——アポロト音樂ノ巧拙ヲ較ベテ敗テ取リ、生キナガラ皮ヲ剝ガレシト云フ人——ノ徒弟オリムパス及ヒハイアグニス等ナリ。

斯ク上古神歌ノ世ニ出テタル時代ハ、希臘人ガ其本國ナル亞細亞ヲ去リタルノ時代ト相距ルヲ遠カラズ。故ニ神歌ノ出ルニ當リテ、猶スレーズ、マセドニアヲ經テ旅行シツ、アリシ者アリ。又ハイーシア島ニ移住シツ、アリシ者アリ。猶亞細亞ニ留マレル者アリタリ。是ヲ以テ上古ノ希臘詩ニハ三大派アリ。(一)スレーズ詩即チ北詩、(二)フレジア詩、(三)クレイト詩是レナリ。

婚姻ノ歌及ヒ哀悼ノ歌　ホーマーノイリアッド中ニハ、新婦ガ新夫ノ家ニ歸ゲル時

婚姻ノ歌及ヒ哀悼ノ歌

ニ謠フベキ婚姻ノ歌、及ヒ死者ヲ弔スル時ニ謠フベキ哀悼ノ歌ヲ載セタリ。借上古ノ印度ニ於テハコノ二歌共ニ宗儀ノ一部トシテ、僧侶ノ謠フ所タリ。希臘ニ於テモ亦曾テ然リシナラン。然レドモイリアッド編纂ノ頃ニ及ヒテハ、二者皆俗人ノ普通ニ謠フ所ト爲レリ。是ニ於テカ吾人ハ知ル、希臘人ハ禮拜式ノ一部タル此類ノ歌ヲ、夙ニ尋常一様ノ俗歌トナスベキ傾向ヲ有セシ事ヲ。

第二章

史詩

又叙事詩ト譯ス

ホーマー及ヒ其正「イリアッド」并ニ「オヂメー」紀元前九百四十年乃至同八百五十年ノ頃ニ出ツ  
 トロイ史詩家及ヒ其作 紀元前七百七十六年乃至同五百五十年ノ頃ニ出ツ  
 ヘシオツドノ詩 紀元前八百五十年乃至同八百八十年ノ頃ニ出ツ  
 ホーマー風ノ神歌 紀元前七百七十六年乃至同五百五十年ノ頃ニ出ツ

武將ヲ詠スル歌——音樂師 前章既ニ述ヘシ如ク、夙ニ神歌ノ行ハル、ソ時ニ當リテ、又其傍ニ武將若クハ其戰功ヲ詠スル、歌漸ク興レリ。今其一例ヲ舉レバ、ホーマーノイリアッド中ニ在ル、トロイノ英雄ガ此種ノ歌ヲ謠ヒ、殊ニイリアッド及ヒオヂセー其者

武將ヲ詠スル歌——音樂師



ハ亦此種ノ古歌ヨリ成レルノ類是レナリ。又オヂセー中ニハ、音樂師ガ斯ル歌ヲ君主ノ前ニ謠ヘル顛末ヲ載セタリ。今之ヲ畧叙センニ、君主ノ大宴會ヲ開クヤ、先ツ式部官、侍從ニ命シテ所謂「神ノ如キ音樂師」ヲ招請セシム。

因ニ云フ、之ヲ「神ノ如キ音樂師」ト云フ所以ノモノハ、神ガ人類ヲ喜ハシムルガ爲メニ、此音樂師ニ數多ノ歌ヲ與ヘタリトノ説ニ基クナリ。又此音樂師ハ概テ盲人ナルガ故ニ、當時ノ説ニ、詩神ミユース之ヲ鐘愛シテ之ニ禍福ヲ降シ、之ヲ眼ヲ奪フト同時ニ、之ニ美音ヲ與ヘタリト云ヘリ。

愈々音樂師ノ入り來ルヤ、侍從ハ豫メ設ケタル座席ニ導ク。此座席ハ宴席ノ中央ナル柱ノ側ニ在リ。茲ニ銀釘ヲ以テ飾レル椅子ヲ安置シ、其頂點即チ音樂師ノ頭上ナル木釘ニ清調ナル縦琴ノ懸レルアリ。侍從ハ盲人ヲ導キテ其手ヲ之ニ觸レシム。盲人既ニ座席ニ着ケバ、酒食ヲ滿載セル食卓ヲ其傍ニ据ニテ之ヲ饗シ、酒宴畢レバ、音樂師ハ琴ヲ彈シテ謠フナリ。但シ君主ハ之ヲ藝人視セズ、神託ヲ受ケタル者ナリトシテ之ヲ優待セリ。傳ヘ聞ク、マイセチア王アガメハトロイ征伐ノ時ニ際シ、宮廷ニ奉事スル音樂師ニ、皇后クリテームチストラノ節操如何ヲ監督スルノ任ヲ囑シタリト云フ。亦以テ其尊敬セフレタルヲ察スベキナリ。

史詩

史詩 斯ノ如ク音樂師ガ琴ニ和シテ唱ヘシ歌ハ史詩ノ濫觴ナリ。而シテ爾來多年ノ星霜

ヲ經、數多ノ詩人ノ手ヲ過ギテ漸ク真正ノ史詩ト爲レリ。紀元前七百年以前ノ希臘詩ニシテ、今現存スルモノハ、獨リ此史詩アルノミ。尤モ晩年ニ至リテハ、學問ヨリ出テタル絶妙ノ史詩モ全ク無キニアラザレド、本章ニ於テハ、只上古ノ史詩即チ當初ノ史詩ノミニ就テ説クベシ。此上古ノ史詩ヲ代表スルモノハ、(一)ホーマーノ作ニ係レルイリアッド及ヒオヂセー、(二)トロイ史詩家ノ作ニ係レル詩ノ碎片、(三)ヘシオッド後ニ在リノ作ニ係レル詩、(四)ホーマー風ノ神歌トス。逐次之ヲ叙述セン。

ホーマー

ホーマー 希臘ガ遠キ神代タリシ昔ハ措テ問ハズ。其入代ト爲リテヨリ以來、氏ヨリモ

舊キ著作家ハアラザルナリ。然レドモ氏ノ生死ノ年代ト其經歷トニ至リテハ、諸説區々ニシテ一定セズ。今先ツ生死ノ年代ニ就テ言ハンニ多數ノ説ニ據レバ、氏ハ紀元前一千四十四年ノ頃——即チアイオニア人ガ小亞細亞ニ移住セシ頃——ノ人ナリト云ヒ、若クハ其後百年以内ノ人ナリト云ヘリ。哲學ノ大家アリストーツル第二篇第三章ホーマー批評家アリス

ターカス紀元前百五十年ノ頃ニ生死セリ等皆此説ナリ。四年ノ頃ノ人ナリト云ヘリ只史家ヒロドタス第二篇第二章ハ、當時ノ人々ト意見ヲ異ニシ、ホーマーハ、紀元前八百五十年ノ頃ノ人ニシテ、ハ

シオツド後ニ在リト時ヲ同フスト云ヘリ。又氏ノ出生地ニ就テ言ハンニ、希臘ノ一短歌ハ云ク。  
 スミルナ小亞細亞ノ地ノ人ハホーマーヲ以テスミルナノ出產ナリト主張シ、シオスイオン海ノ島ノ人  
 ハシオスノ出產ナリト主張シ、其他コロフチンアイオニアノ府アイオニアサカアイオニア海ノ府パイラスメッセニアノ府  
 トゴスペロポネサスノ府ノ首府ヘロポンテサス雅典ノ人々皆己レガ地ノ出產ナリト主張セリト。然レドモスミル  
 ナニ生レタリト云フヲ以テ最モ正確ナリトスベキガ如シ。蓋シ(一)古昔ヨリホーマーノ綽  
 名チ「メレシゼンス」即チ「メレスノ子」ト云ヘルガ、メレスハ、エオリアト、アイオニアト  
 ノ國境ナルスミルナスミルナハ本來エオリアノ一都ヲ稱斷スル河ノ名ナリ。(二)イリアツドハ、  
 エオリアノ事ヲ叙述セルアイオニアノ詩ト云フ義ナレバ、此二項ニ由リテ考察スルキハ、氏  
 ハスミルナニ生レタリト云フ正確ナルベシ。又ホーマーノ經歷ニ至リテハ、逸トシテ詳  
 細ヲ知ル能ハス。或ハ曰ク。氏ハ盲目ノ老人ニシテ、且ツ彈シ、且ツ謠ヒツ、諸方ヲ  
 遍歴シ、金錢飲食ヲ乞ヘリト。コハ氏ノ作ニ係レリト稱スル「デロスノアポロニ捧クル神  
 歌」中ニ、自ラシオスニ棲息スル盲目ノ老人ト言ヘルヨリ生セシ説ナラン。古人ハ此歌ヲ  
 以テ氏ノ作ナリト信シタルガ故ニ、斯ル説モ生シタルナレ。今日ニ至リテハ、學者多ク氏

ノ作ニアラズト爲シタレバ、此説モ隨テ信據スルニ足ラザル事トハ爲レリ。又シクレーデ  
 ス群島イオン海ノ中ニ在リノ一ナルイオスト云ヘル小嶋ニハ、氏ノ墓地アリト言ヒ傳フレド、其眞ニ氏  
 ノ墓地ナリヤ否ヤハ保シ難シ。又ホーマリーデホーマーノ子孫ト云フ説?即チ氏ノ子孫ナリト主張ス  
 ル一族ハ、皆アイオニアナルシオス嶋ニ棲息シタルニ由リ、史詩ヲ作ルハ同家ノ世襲ナ  
 リト思考セラレタレド、是レ亦果シテ氏ノ子孫ナリヤ否ヤ疑ハシ。プレト第二篇第三章ノ説ニ  
 據レバ「ホーマリーデ」ハ、ホーマーノ學生ト云フ義ナリト云フ。  
 諸又イリアツド及ヒオチセート稱スル二詩ガ、ホーマート稱スル一詩人ノ著作ニ係レリト  
 云フハ、十八世紀ノ末葉ニ至ル迄、万人ノ均シク信スル所ナリシカド、今日ニ至リテハ  
 斯ル名ノ詩人スラ果シテ此世ニ出テシコアリヤ否ヤ、甚曖昧トナリタレバ、况シテ此二詩  
 ガ同氏ノ作ナリナド、云フハ、雲ヲ櫻ムガ如キ説ト云ハザルヲ得ザルニ至レリ。尤モホー  
 マーナル名ハ、ヘシオツドノ或ル詩中ニ見ユト雖モ、其詩ハ後人ノ偽作ニ成リタルモノニシ  
 テ信ヲ置クニ足ラズ。ホーマーナル名ノ見エタル信憑スベキ書籍中ニ就テ、最モ舊キモノハ  
 紀元前五百年ノ頃ニ生活セシ哲學者兼詩人ゼノファニーズゼノファニーズハ紀元前五百七十年  
 (?)生レ四百八十年(?)死ス第三章ニ

評ナルノミ。

紀元前百七十年ノ頃、文法家ヘラニカス及ヒゼノット云ヘル人々、ホーマーハ、イリアツドノ作者ナルモ、オヂセーノ作者ニアラズト主張セリ。是レ等ノ人々ト其派ノ徒弟等トハイリアツド、オヂセートヲ分離シタルガ故ニ分離者ト稱セラル。諸希臘古代ノ人々ハ、只管兩詩共ニ一作者ノ手ニ成レルモノト確信シ、別ニ何ノ意見モナカリシカド、實ハ此問題ガ起ルノ一事ノミニテモ、疑フベキ理由ノ存スルヲ知ルベシ。左レド其頃ハ此問題ニ耳ヲ傾クル者殆ントナク、アリスターカス前ニ在リハ書ヲ著ハシ、ゼノンノ説ノ奇怪ナルヲ駁シ、羅馬ノセチカ羅馬文學史ノ部ニ在リハ其著書「露ノ命」ノ中ニ、此問題ハ短命ナル我レ々々ノ論スベキニアラズト云ヘリ。

十八世紀ノ初葉ニ、チープリス人ヴヰーコ一千六百八十八年生レ一千七百四十四年死ス伊國ノ哲學者ナリ其著書「新智原論」ハプリンシブルス、オフ、ニウ、ノーレツヂニ於テ主張シテ曰ク、「古代ニ於テハ、立法ノ大家ト詩ノ大家トハ、本名ヲ用ヰズシテ符號ヲ用ヰタリ。左レバ、ホーマートハ希臘史詩ト云フ義ニシテ、ホーマーノ詩ハ數多ノ詩人ノ相續テ著作スル所ナリ。而シテ當時ハ只口ニ之ヲ

誦シ、口頭ノ傳説タリシノミ。又オヂセーハ之ヲイリアツドニ比スルニ、少ナクトモ百年以後ノ著作ニ係レリ」ト。尤モヴヰーコハ、此説ヲ主張スルモ、別ニ證據ヲ有セザリシガ、其後フリドリツヒ、アウガスト、ウルフ一千七百五十九年生レ一千八百二十四年死ス獨逸ノ古典學者ニシテ批評家ナリ始メテ證據ヲ與ヘタリ。氏ハ一千七百九十五年ヲ以テ、ホーマーノ詩篇ヲ出版シ、之ニ緒言ヲ附記シテ云ヘラク。「イリアツド及ヒオヂセー共ニ本來各々一詩トシテ著作セラレシニアラズ。二詩共ニ數多ノ不文ノ詩ヲ纂輯シタルモノ、ミ。故ニ皆數多ノ作者ノ手ニ成リテ其根據ヲ一ニセザリシナリ。又之ヲ纂輯シタルハ、ピシストラタス紀元前六百十二年生レ同五百二十七年死ス雅典ノ政治家ニシテ同國ノ總裁タリノ時ノ編纂委員ニシテ、編纂ノ事ハ後文「ホーマー作詩初年ノ歴史」ト題スル標目ノ部ト參看スベシ此時二詩始メテ筆ニセラレタリ」ト。ウルフノ此説ハ頗ル二詩ノ起源ヲ明ニセルヲ以テ、獨逸人ノ同意ヲ促カセリ。ウルフ以後ハ、別ニ詳密ナル議論モ出テザレド、只益々此説ニ同意スル者ノ數ヲ増スベキ傾向ヲ有スルナリ。

以上叙述スル所ニ據レバ、ホーマート云ヘル一詩人ガアリシト云フ事ハ到底疑ヲ容レザルヲ得ズ。随テイリアツド及ヒオヂセーハ數人ノ手ニ成リシト云ヘル方、眞ニ近キガ如シ。

今先ツ二詩其物ニ就テ説キ、次ニ再ヒ二詩ノ歴史ニ就テ説カン。

イリアツドノ結構

イリアツドノ結構　イリアツドハ、小亞細亞ノ西北マイシアノ府イリオン即チト

ロイノ詩ト云フ義ナリ。而シテ此詩ハ希臘人ガ十年間トロイ圍繞中ニ起レル出來事ノ一部ヲ叙述シタル者ナリ。今トロイ戰ノ起源ト、イリアツドノ結構トノ大略ヲ擧レバ左ノ如シ。

(トロイ戰ノ起源)トロイ王プリアムノ子パリスハ、別名アレキサンダー)スバルタ王メネテロスノ皇后ナル娼婦タルヘレンヲ奪ヒ去レリ。初メヘレンノ未タメテロースニ嫁セザルヤ、數多ノ求婚者ハ、其絶世ノ佳人ナルヲ喜ヒテ、頻リニ媚ヲ呈ス。時ニヘレンノ父チングレアス是レ等ノ求婚者ニ向テ言ヘラク、「他日ヘレンガ人ノ妻タルノ後、万一腕力ヲ以テ彼女ヲ奪フ者アラバ、君等願ハクハ、相共ニ同心戮力シテ之ガ讐ヲ復セラレヨ」と。遂ニ求婚者ヲシテ之ヲ誓ハシメタリ。左レバ今回ノ變ニ、マイセチア王アガメンノンハ、是レ等ノ求婚者ト、其他ノ首長トヲ希臘各地ヨリ召集シ、數多ノ船ヲ乘シテ、トロイ征伐ニト赴ケリ。借此戰爭ハ十年ノ久シキニ添ルモ、トロイ猶降ラス。左レド希臘ノ軍中ニ一人ノ英雄アリ。トロイ第一ノ勇士ヘクタート雖モ、此英雄ニハ遜居スルホドナリシカバ、況シテ其他ノ者共ハ之ヲ恐ル、ト鬼神ノ如ク、トロイ全軍中肯テ出テ戰フ者トテハ、一人モナカリキ。此英雄ノ名チエチルスト云フ。海ノ女神セチストセサリ一國フシオナス王ヘレアシトノ間ニ生レタル子ナリ。然ル二十年間ノ圍繞ノ後、アガメンノン王ハ、エチルスノ捕獲セシ處女アリセースヲ奪ヒ去リシカバ、エチルスハ大ニ怒リテ言ヘラク、「我カ希臘ノ爲メニ戰フモ最早只今限リナリト」。軍ヲ去リテ海岸アル我カ天幕ヘト退キヌ。

タルヨリ起リシ事項トニ在リ。(此二事ハ、實ニトロイ圍繞第十年、即チトロイノ滅亡ニ垂ントスル最後年ノ數日間ノ全体ノ出來事ニ關係ヲ有スルモノナリ。)而シテ全部二十四卷ノ中、初ノ十五卷ハ、エチルスノ憤怒セシヨリ起レル結果、即チトロイ軍ガ出テ、戰ヲ挑ムニ至リタルヲ叙シ、今ハ希臘軍ガ勝色ヲ呈ハスカト思ヘハ、忽チニシテトロイ軍ノ勝色ニ變シ、又忽チニシテ希臘軍ノ勝色ニ變スルナド、勝敗更ニ定マラサルノ狀、希臘ノ勇士ガトロイノ勇士ト接戦シテ之ヲ殺セバ、トロイノ勇士モ亦希臘ノ勇士ト接戦シテ之ヲ殺スノ狀、男女ノ諸神中、或ハ一方ニ左祖スル者アレバ、又ハ他方ニ左祖スル者アルノ狀ヲ記セリ。又終ノ九卷中ニ記セル大畧ヲ舉ニ、既ニシテ希臘軍ハ敵軍ノ爲メニ烈シク迫ラレテ、進迫殆ント谷マリシカバ、エチルスノ友パトロクラスハ、エチルスニ説キ勸メテ言ヘラク、「今ヤ吾子出テズンバ、我カ希臘軍ヲ如何セン。將々吾子若シ希臘軍ノ敗戦ヲ傍觀シツ、猶強テ出ルヲ拒ミタランニハ、吾子ハ將來必ラズ神罰ヲ免カレザルベシト。エチルス猶出テ、戰フヲ好マズ。只パトロクラスニ我カ甲冑ヲ貸シテ、敵ニ我レナリト誤想セシメ、又我カ從者ミルミドンスヲ從ヘシム。然ルニパトロクラスハ、ヘクターノ爲メニ殺サレシニゾ、エチルス之ヲ聞キテ大ニ驚キ、是ニ於テ始メテ自ラ突進シテ、トロイ軍ヲ其胸壁内ニ驅逐シ、其維一ノ柱石タルヘクターヲ殺シ、屍ヲ我カ車ニ繋ギテ船ニ歸ル。

倍又イリアツドノ大團圓ニ方テハ、プリアム王我カ子ヘクターヘカターアム王子ナリノ死屍ヲエチルスニ請フ。エチルス其請ヲ許シテ之ヲ與フ。是ニ於テ兩國和ヲ講シ、トロイ人ハヘクターヲ祭リヌ。

オヂセーノ結構

オヂセーノ結構　オヂセートハ、オヂシアス(羅馬人ノ所謂ユリッセス)ノ詩ト云フ

義ナリ。而シテオヂシアスハ、イサカ王ニシテ、彼ノトロイ戰ニ從事セル希臘諸王中ノ最

モ敏捷伶俐ナル人ナリト云フ。今オヂセーノ結構ヲ左ニ舉ケン。

トロイ戰ノ局ヲ結フヤ、オヤシアスト其部下ノ諸將トハ、本國イサカヘト航シタリシニ、道ニ難風ニ遭フテ一鳴ニ漂着セリ。此鳴ノ住民ハ、サイクロプストテ、一目ノ巨人ノミナリシガ、是レ等ノ殘忍ナル怪物ハ、オヤシアスノ部下ノ士六人ヲ食ヒ殺セシカバ、オヤシアスハ大ニ怒リ、懲誠ノ爲メニトテ一巨人ボリフエマスノ眼ヲ抉リ去レリ。左レバ其父ナル海神ポセイドン、オヤシアスノ無情ヲ怒ミ、ソガ復讐トシテ、オヤシアスシテ海上ヲ漂流シ、遠近諸地ヲ遍歴セシメタル。

以上ハオヂセーノ發端ヲ記セルナリ以下ノ本文ニ移ルベシ。

オヂセーノ叙事ハ、トロイ戰爭後十年ヨリ始マル。當時オヂシアスハ、猶海ノ中央ナルオジニア島ニ在リ。此島ハ本國イサカヨリ遙カニ距タレルモノナリ。左レド海ノ女神カリソバ、オヂシアスヲ愛シ、強テ七年ノ間、其鳴ニ滞留セシム。偶々此時本國ニ於テハ、國王既ニ死没セシト思ヘルモカラ、百名以上ノ人々類リニ皇后ハ子ローフニ婚ヲ求メ、甚シキハ無法ニモ宮中ニ於テ酒宴ヲ張リ、傍若無人ノ体ナルニゾ、皇后ハ自製ノ華麗ナルマキヌ死屍ヲ包ムキヌヲ織リ畢リタルノ後、何人ナカ新夫ニ擇ハントノ口實ヲ設ケ、姑ラク好機會ノ來ルヲ待チニキ。兎角スル間ニ三年ヲ経過セシモ、猶國王ノ歸リ來ルベキ様子ナカリシカバ、求婚者等ハ益々得意ト爲リ、ソノ厚顔憎ムベキノ舉動ハ以前ニ倍シメ。偕又王子テレマチユスハ其親友ナル女神アセンニ勸メラレテ父王ノ行衛詮索ノ爲メニ、ペロポン子サス鳴中ノピラスニ至リ、茲ニ同國王子スターノ歐待スレ所ト爲リ、又スバルタニ至リテ、メチロース王ノ客ト爲レリ。

話頭轉換、オヤシアスハ猶オジニア島ニ在リシガ、ヘームス神即チマ即チマ即チシユシテ夫ノ主宰ナリノ命ヲ受ケテ、女神カリソバニ、オヤシアスヲ歸ラシムベキ旨ヲ告ケ、カリソバ亦之ニ從ヒシカバ、オヤシアスハ同鳴ヲ去リ、自製ノ筏

ニ乘リテ歸途ニ就ケリ。此時其舊敵タル海神ポセイドンハ又怒ヲ報セントテ、破船セシメシカド、海ノ女神イノ、オヤシアスニ魔術ノ肩掛ナ與ヘシカバ、オヤシアスハ此肩掛ニ由リテ海上ニ浮ヒ、安全ニフエーシア島ニ着セリ。此鳴民ハ

富裕ニシテ奢侈ヲ極メ、幸福圓滿ト稱セラル。鳴王アルシナス、オヤシアスヲ歐待要應シ、オヤシアスモ亦同ニ應シテ我力危険ニ遭遇セシ頭末ヲ落チナク述ヘリ。今ソノ述フル所ヲ畧舉スレバ、オヤシアスハ、カリソバ女王ノ領鳴ニ漂着

セシ前ニ宛女サースノ住スル鳴ニ到リシガ、時ニ宛女ハ、オヤシアスノ從者ヲ悉ク豚ニ變セシメシカド、オヤシアスハモリート名クル藥草ノ爲メニ其尖ヲ免カレ、却テ宛女ヲ説服シテ、從者ヲ悉ク以前ノ人類ニ恢復セシメタリ。

(サースハ、ソル及ヒボースト云ヘル夫婦ノ間ニ生レタル娘ニシテ、魔術ニ由リ、有毒ナル年草ヲ作ルコトニ巧ナリ。曾テサーマシアノ君ニ嫁シタレモ、其國ヲ奪ハンガ爲メニ之ヲ殺セリ。然レドモ臣民ノ爲メニ追放セラレ、去リテ伊太利

ノ近海ナルエート鳴ニ住ス。オヤシアスガトロイ征伐ノ歸路、此鳴ヲ過ギリシ時ニ、其同行ノ人々ハ、快樂ニ耽リテ送ニサースノ飲料、年草ヲ以テ製シタルノ爲メニ豚ニ變セラレシカド、オヤシアスハ豫テモリート稱スル消毒劑ヲ所持シ居ルガ故ニ、更ニ其毒ニ感染セズ。サース亦オヤシアスニ從ヒシヲ以テ、一年ノ間オヤシアスハ、サースヲ愛シ愉快ヲ盡セリト云フ。) 問答ミルト

其後又美音ナルサイレンスノ住スル海岸サイレンスハ地中ノ某鳴ニ住スヲ過ギリ、

(サイレンスハ三箇ノ海神神ナリ。一チメーセノフト云ヒ、二チリセイアト云ヒ、三チリウコシアト云フ。其音

聲極メテ美ナリ。聽者感實ノ餘リニ恍惚トシテ心ヲ奪ハレ、他事ヲ忘レテ遂ニ餓死スルチモ心付カザリシト云フ。) 同

又オヤシアスノ從者等ハ、日神ノ聖牛ヲ殺セシ罰ニ由リテ悉ク死セリト。

オヤシアスハ以上ノ談話ヲ終リシ後、フエーシア島ノ一水夫ニ護送セラレ、船ニ乘シテ本國イサカ島ニ歸リメ。

王ノ本國ニ歸ルヤ、女神アセンノ勸告ニ從テ乞兒ノ裝ヲ爲シタレバ、忠實ナル牧豚者ユリタスハ王ナルヲ知ラズ。左レド王ノ愛セシ老犬アীগスハ、一別以來二十年ノ久シキニ涉レルニモ拘ハラズ、能ク見覺エ居リテ尾ヲ掉リ、耳ヲ垂レ、喜悅ノ餘リニ死セリ。兎角スル中ニ、王子テレマチユスハ、父王穿鑿ノ途ヨリ歸リ、アセンノ紹介ニ由リテ、父子對面ヲ得タリシカバ、相共ニ求婚者復讐ノ策ヲ講シ、王ハ猶乞兒ノ裝飾ヲ爲シテ、皇后ハ子ロープニ謁シ、夫王ノ起居ヲ告ケ奉ラント述フ。老保姆ユークレーア、乞兒ノ足ヲ洗フニ當リ、其疵ノ有無ニ由リテ王ナルト否トヲ確定セントシタレド能ハザリキ。

皇后ハ子ロープハアセンノ勸告ニ從ヒ、令ヲ發シテ言ヘラク。何人タリトモ、我カ家祖先傳來ノ什物タル勇士ユーリサスノ弓ヨリ矢ヲ放チ、十二戰斧ノ柄孔ヲ經テ、甲冑院ヨリ乙冑院ニ至ルヲ得セシムル者アラバ、妾ハ之ト婚ヲ結ハント。求婚者ノ中一人モ之ヲ爲シ得ル者ナシ。獨リ彼ノ乞兒ノミハ、容易ク之ヲ爲シ得タリ。此時早シ、彼時遲シ、豫テ期シタル事ナレバ、乞兒タル王ハ直ニ求婚者等ノ方ニ數矢ヲ雨注シ、テレマチユスト兩忠僕トハ之ヲ助ケテ、遂ニ悉ク求婚者ヲ殺セリ。是ニ於テ乞兒ハ始メテ皇后ニ向テ、已レハ王ナリト告ケ、旅行中ノ一伍一什ヲ述ヘリ。

又同書ノ末卷則チ第二十四卷ニハ、ハームス神ガ求婚者輩ノ幽魂ヲ地下ニ誘フ事、オゲシアス、イサカ嶋ニ在リテ我カ父レアーツニ知ラル、事、求婚者ノ親戚ハ王ニ向テ復讐ヲ謀ルモ、王ハ之ニ勝ツ事、王ガ人民ト和睦スル事等ヲ叙述セリ。

## 兩主人公

兩主人公 イリアツド及ヒオヂセーノ主人公タルエナルスト、オヂシアストハ、希臘

人ノ想像裏ヲ常ニ填充スル所ノ人物ナリ。抑モ希臘人ノ意中ニ於テ完全無疵トスル所ノ人物ハ美麗聰慧ニシテ、高尚ナル態度ト、深謀遠慮トヲ兼テタル者ナリ。而シテエナルスノ態

度ハ高尚ニ、オヂシアスノ徳ハ深謀遠慮ナリ。尤モオヂシアスハ剛勇ナラザルニアラズ。然レドモ之ヲ剛勇ナリト頌讚センヨリハ、寧ロ敏捷機巧ナリト頌讚スルヲ穩當トスルナリ。蓋シ希臘人ノ重大ナル過失ハ單ニ敏捷機巧ヲ感賞シテ誠實忠直ヲ等閑ニ附スルニ在リ。左レバホーマーガオヂシアスヲ畫ク時ノ概念ハ頗ル高尚ナリシナレド、惜ムベシ、後年ノ詩人ハ漸ク此高尚ヲ卑劣ニ變更シ、專ラソノ敏捷機巧ノミヲ述ヘテ、遂ニハ不知不識ノ間ニ一身ノ利益ノミヲ謀レル惡人ト爲セリ。

ホーマーノエナルスニ對シテハ、毫モ前記ノ如キ汚点ヲ附スル能ハズ。夫レ氏ガエナルスノ性行ヲ叙スルヤ、之ヲ以テ無双ノ力量ト武勇トヲ有スル者ト爲シ、其感情ハ激烈ニ、其感覺ハ鋭敏ニシテ神子タルニ耻チズト爲シ、又其愛情ハ婦人ノ愛情ニ優レリト爲シ、殊ニ其多幸多福ノ最中ニ、自ラ其天死ヲ先見シタルガ如キ、凡テ希臘人ヲシテ武俠ノ摸範トシテ欽慕措ク能ハザラシム。彼ノ歷山大王ガホーマーノ二詩ヲ愛讀シテ手ニ卷ヲ釋カズ。夙ニ氏ノ想像ノ產物タルエナルスノ爲メニ其大望ヲ旺盛ナラシメタルガ如キハ即チ之ガ爲メナリ。左レハ二詩ガ希臘人ノ生活上ニ、將ク其歷史上ニ及ホシタル影響ヲ知ラント欲セバ、

トロイニ於ケル少壯ナル希臘ノ勇士エチルスガ東洋ニ於ケル少壯ナル希臘ノ戰勝者歴山大王ヲ指スニ於ケル戰勝者ト云フナリヲ感嘆セシメシ狀ヲ見ルニ如クハナキナリ。

ホーマー詩  
中ノ諸神

ホーマー詩中ノ諸神 オデセーガ、イリアッドヨリモ晩年ノ作ニ係レル事ハ、各種ノ徵証ニ由リテ明カナリ。然レドモ、其年代ニ先後ノ別アルニモ拘ハラズ、猶二詩ガ描寫セル所ノ年代ノ相貌ハ大体ニ於テ同一ナリ。即チ二詩共ニ遠ク距リタル過去ノ英雄時代ヲ描寫シツ、稍々現時ノ觀念ヲ交ニタルモノナリ。

イリアッド中ノ諸神ハ、巨大ナル男女ニシテ、人類ヨリモ剛勇ニ、且ツ美麗ニ、不思議ヲ行フニ適シ、其所好ニ任カセテ如何ナル姿ニモ變化スルニ適ス。然レトモ万能ヲ有セズ。無限ノ權力ヲ有セズ。時ニ或ハ不死タル能ハザルコトアリ。是レ等ノ諸神ハ四時白雪ヲ戴ケルオリムプス山ニ住スルヲ以テ、オリムプス諸神ト稱ス。今此諸神ヲ舉レバ左ノ如シ。

ジユース(即チジユビター)ハ情慾ヲ具有スル愉快ナル人ナリ。其父クロナス(サターン)オリムプス朝ノ首長タリシニ、ジユース其位ヲ顛覆シ、代リテ諸神ノ首長ト爲ル。ジユースニ次デ四大神アリ。(一)皇后ヘア。(二)ジユース屢々之ト争ヘリ。(三)アポロ。

(二)アセン(智力ヲ代表ス)。(四)ポセードン即チ海神是レナリ。此他ノ諸神時ニジユースニ叛キテ其位ヲ篡奪セントシタリシカド、ジユースハ恐喝ニ由リ、若クハ腕力ニ由リテ。之ヲ鎮定セリ。又是レ等ノ諸神ハ、或ル手段ヲ用ヰテ人身ニ快樂ヲ與ヘ、若クハ害ヲ加ヘ、而シテ人類ヨリ美酒佳肴ノ供物ヲ得ント期待ス。

オデセーニ於テハ、一層宗教的ノ概念顯ハレ、オリムプス山ハ今諸神各別ニ住居スル所ノ蒼蔚タル遠隔ノ場所ト爲リ、ジユースハ今無限ノ君主ト爲リ、諸神ハ今人身ニ作用ヲ及ホスヲミニ止マラズ、主トシテ其精神上ニ作用ヲ及ホスヲ得、又姿ヲ變シテ地上ヲ徘徊シ、人類ノ正邪ヲ監査ス。抑モホーマーノ詩ハ、鬼神ノ本体ヲ定メ、地方ニ由リテ崇拜ノ法ヲ異ニスルノ弊ヲ改メシメタル事ニ與カリテカアリ。然レドモ宗教ヲ造リタルニハアラズ。宗教ハ遠キ以前ヨリ存在シタルナリ。

ホーマー詩  
中ノ道德

ホーマー詩中ノ道德 ホーマー詩中ノ諸神ハ、或ル手段ニ由リテ、己レニ背キ、己レニ敬禮ヲ怠リタル人ヲ罰シタリト雖モ、必ラスシモ不徳ノ行ヲ爲シタル人ヲ罰スルニアラズ。然ラバ鬼神ヲ畏敬スル念ハ如何ニ切ナリトモ。道德ノ點ニ至リテハ猶足ラザル所アリ。

ホーマー詩  
中ノ政治

故ニ氏ハ宗教ノ外ニ亦道德ノ法則ノ必要ヲ感シ、依テイリアッドノ勇士中ニハ、希臘人ノ所謂「エードス」即チ吾人ガ「廉耻心」ト稱スルモノニ畧々類似シタルモノヲアラハサシメ、之ト相伴フテ又一ノ道ヲ立テリ。此道ハイリアッド中ヨリモ、オヂセー中ニ於テ一層明瞭ナリトス。道トハ何ツヤ。希臘人ノ所謂「チメシス」即チ不正ヲ怒ルノ感情——道德上ノ憤怒是レナリ。チメシスハ又復讐ノ義ナリ要スルニ、他人ノ非難ヲ恐レテ「エードス」ノ感ヲ起シ、我カ正理ヲ犯サレタル時ニ「チメシス」ノ感ヲ起スノ仕組ニジテ、オヂセー中ニ於テハ、イリアッド中ニ於ケルヨリモ、道德上ノ感情一層成熟シ、道德上ノ憤怒ヲ表出スル言語亦一層多シ。然レトモホーマー詩中ノ道德ハ之ヲ其宗教ニ比スレバ高尚ナリト雖モ、其義務ノ感情ハ同胞ニ對シテ懷クニアラズシテ、主人タリ、從者タリ、客人タリ、歎願者タルノ關係ヲ有スル人々ニ對シテ懷クナリ。ホーマー詩中ノ政治 イリアッド及ヒオヂセーノ二詩ハ、吾人ニ上古ノ政治主義ノ概畧ヲ示ス。而シテ其政体タルヤ、帝王、貴族院、衆議院ノ三大成分即チ立君政治、貴族政治、平民政治ノ萌芽ヲ有セリ。

詩中ノ王(ハシレアス)ハ、戰時ニ於テハ大元帥タリ、平時ニ於テハ裁判長タリ、又公ノ祭祀ニ當リテハ其首長タリト雖モ、元來僧侶ニアラザルヲ以テ、私ノ祭祀ニ當リテハ只一家ノ首長タルノミ。又鬼神ヨリ世襲ノ權ヲ授ケラレタルモ、其權力ハ三様ノ方法ニ由リテ制限セラル、ナリ。(一)王ハ人民ノ習慣口碑ニ從ハザルベカラズ。習慣口碑ハ相集リテ不文現行法ノ一体ヲ爲シ、而シテ公義ノ基礎タレハナリ。(二)王ハ貴族元老ニ諮詢セザルベカラズ。(三)王ハ其政策ヲ民會ニ提出シ、人民全体ノ制裁ヲ仰ガザルベカラズト云ヘル是レナリ。但シ民會ハ政策ヲ提出シ、若クハ之ヲ討議スルヲ能ハズ。只可否ノ議ヲ決スルヲ得ルノミ。イリアッド中ニ在ル大膽ナルサーサイツハ討議ヲ爲サント試ミタルモ、オヂシアスニ制セラレテ黙セリ。左レドオヂセー中ニ於テハ民會ハ斯ル被動的ニ止マラズ、却テ王位ハ之ヲ世襲スベキニアラズ、貴族ヲシテ之ヲ嗣カシメテ可ナリトノ議論ヲ爲セル向キモアリタリ。

ホーマー詩  
中ノ風俗

ホーマー詩中ノ風俗 即チホーマー詩中ノ政治ヲ、社會ノ一方ヨリ觀察セルモノナリ。抑モホーマー詩中ノ政治的生活ハ、立君政治風ニシテ、社會的生活ハ、族長政治風ナ



リ。故ニ社會的生活ニ於テハ、族長ハ君主ガ臣民ヲ監督スルニ均シク、從者ヲ監督ス。首長同士の交際ハ上流武門ノ禮儀中へ、奇妙ニモ殺伐ノ氣ヲ含ミシモノナリ。例ヘバエチルスハ、希臘武士ノ雛形ニシテ、其プリアム王ヲ待遇スル所、充分ニ武士ノ價值ヲ存スレド、何處ヤラニ猛獸的ノ感情ヲ帶ビ、若シ彼ニ於テ、露聊カタリトモ疎暴ノ言語ヲ發スルコトモアラハ、我レハ憤怒ノ念ノ制シ難クシテ、思ハズ此老客ヲ殺スコトモアラシカト自ラ氣遣ヘルガ如ク、只プリアムト己レノ父トガ互ニ饗應ヲモ爲シ合ヒシ程ノ仲合ナルニヨリ、接客ノ作法ト、亡父以來ノ舊誼トニホダサレテ飽ク迄モ慰勸ヲ旨トシ、款待ヲ全フスルコト得タルナリ。又當時旅客ニ對シテ、接客ノ作法ヲ守ルベキコトハ、一ノ義務トシテ認了セラレタリ。何トナレバ、「旅客ト乞兒トハ、シウス神ノ送遣スル所ナリ」トノ信仰、一般ニ行ハレタレバナリ、左レド、眞ニ「凡テノ來客ヲ款待シタル」人ハ只一人アルノミ。而シテイリアツドハ極メテ其徳ヲ讚美セリ。

此頃ノ婦人ハ、晩年ノ歴史時代ニ於ケルヨリモ、其地位一層高ク、自由ヲ享クルコト一層多ク、一夫多妻ノ制ハ、希臘人ノ夢ニダモ知ラザル所ナリ。而シテ正式結婚ノ神聖ヲ冒セル

者ハ殆ンドナカリキ。オヂセー中ノアルシナス王フエーシナアレト皇后アルシナスノ家内ノ

生活ハ、近世家族團樂ノ快樂ヲ畫ケルガ如ク、ノーシツカアルシナスアレトトノ間ニ生レタル

ガシアス子テレチマヨリモ、高尙ニ、且ツ羨マシキ處女ノ肖像ハ、詩中見ルヲ得ザル所ナリ。

又イリアツド中ノ感觸ハ、寡婦生活ヤモメクラフノ真相ヲ寫シ、——子女養育ノ爲メニ些少ノ貸銀ヲ得

ントテ、終日齷齪タル誠實ナル寡婦ノ真情ヲ叙述セリ。

君主ガ田舎住居ノ鬱散ハ、遊獵。耕作。園藝。若クハ投鎗、投環ノ如キ遊戲。又ハ晚餐後

ニ音樂師ノ歌ヲ傾聽スル等トス。又凡テ家婦タルモノハ日常侍婢ヲ對手トシテ、織物又ハ

縫箔ニ従事スルノ慣習ナリ。彼ノ皇后アレトハ皇女ノ一シツカガオヂシアスニ與ヘシ衣

服ヲ作り、ノーシツカハ母后ノ家事ヲ助ケテ、一切ノ洗濯ヲ爲セルガ如キ是レナリ。又奴

隸ノ中ニハ往々素性モ正シク、相應ノ教育ヲ受ケタル者アリ。戰爭ノ俘虜、若シハ幼時ニ

誘拐セラレタル者等ハ此類例トス。オヂシアスノ忠實ナル牧豚者ユーマエアスハ此乙ノ部

ニ屬スルモノナリ。而シテ主人ト老僕トノ關係ノ密着ニシテ、互ニ相信スルノ篤キハ、此

一事ニテモ知ルヲ得ベシ。イリアツド中ニハ質素愉快ナル生活ノ一斑ヲ示セリ。即チ族長

ハ喜色満面ニ溢レツ、<sup>カキテ</sup>、苜蓿等ノ傍ニ黙立スル間ニ、食物ハ樹下ニ調理セラレ、一群ノ葡萄収納者ハ、且ツ踊リ、且ツ謠ヒツ、葡萄園ヨリ葡萄ノ籠ヲ持來リ、新婦ノ一行ハ結婚ノ詩ヲ謠ヒ、新夫ノ友人ハ、笛ト縦琴トノ調子ニ合ハセテ踊リ、毎戸ノ主婦ハ、其通行ヲ見物セントテ戸口ニ出テ、處女ハ美服ヲ着シ、少年ハ音樂師ノ調子ニ連レテ踊リツ、群集ノ中ヲ通行セリ。

ホーマー詩  
中ノ技藝及  
ヒ智識

ホーマー詩中ノ技藝及ヒ智識 抑モ文化ノ進否ヲ徵スベキモノ多シト雖モ、其一ハ用キテ以テ器械ヲ製造スル所ノ材料如何ニ在リ。例ヘハ石ノ時代去リテ後ニ金屬ノ時代來リシガ如シ。然レ共金屬ノ時代ニモ數等アリ。第一期ニ在リテハ、箇々別々ニ金屬ヲ使用シ、又ハ假令ヒ一緒ニ之ヲ鍛鍊スルモ、之ヲ溶解シ一層堅牢ナラシムルノ法ヲ知ラズ。ホーマーノ詩ハ此第一期ノ末葉ニ屬スルヲ以テ、次期即チ銅ト錫トヲ溶解混和シ青銅ヲ作ルノ期ニハ未ダ達セザルナリ。又ホーマーノ書中ニ擧ケタル金屬ヲツノ價値ニ從テ擧レハ(一)黃金、(二)銀、(三)錫(四)鉄、(五)銅、(六)鉛是レナリ。金屬製ノ美器ハ甲冑、皿、井、鉤卸、飾針、頸環等ノ如キ概チフニニシテ製ノ者タリ。又金錢ナルモノナク、罰金

ハ黃金ト銅トヲ以テ之ヲ拂ヒ、一ノ場所ニハ黃金ノ量目ニテレントチ以テ賞典トシタルヲ記セリ。然レトモ價値ノ標準ト爲シタルハ只牛ノミ。左レバ馬鹿氣タル貿易トテ、牛九匹ノ價値アル甲冑ト、牛百匹ノ價値アル甲冑トヲ交換シタルノ條アリ。又窈窕タル淑女ニハ、求婚者ヨリ牛ヲ携來リテ其兩親ニ送レリ。ホーマーノ時代ニ文字アリシヤ否ヤハ、今之ヲ確ムルコト能ハズ。然レトモイリアツド第七章百七十二節ニハ、勇士等ガ各自ノ股分ニ目標ヲ認メタル事ヲ記シ、第六章百七十二節ニハ、折手本ノ上ニ記號ヲ認メタルヲ記セリ。此記號ハ願フニアルフアベツトナルガ如シ。又如何ナル場合ニ論ナシ、ホーマー自ラ書キ能ハザリシト假定スベキ理由ナキナリ、オヂセーニ於テハ「専門家」、即チ醫師、卜者、音樂師、毛布匠、金匠等アリ。大地ハ、平扁ナル卵形ニシテ、周圍ニ大洋アリト想像セラル。イリアツドノ作者ハ、小亞細亞及ヒ其嶋嶼ノ海岸ヲ知レルモ、希臘本部ノ景色ヲ叙述セズ。又東南ノ陸地モ、只風説ニ由リテ知レルノミ。オヂセーノ作者ハ、願フニ、イサカ若クハソノ近隣ノ嶋嶼ヲ見シコナク、只セロポンチサスト、希臘本部ノ東部トヲ知レルノミナラン。

ホーマーノ  
詩ノ初年ノ  
歴史

ホーマーノ詩ノ初年ノ歴史

イリアツド並ニオヂセー共ニ小亞細亞ナルアイオニ

アノ海邊ヨリ起リ、希臘本部ニ傳ハレリ。スパルタ人ノ説ニ據ルニ、其立法者ライカイガ  
 スハサモスニ於ケル詩人ノ一家族ヨリ完全ナルホーマーノ詩稿ヲ得テ之ヲ希臘ニ傳ヘタリ  
 ト云フ。雅典ハ、イリアツドノ始メテ歌ハル、ニ當リテ、葦爾タル小國ナリシカバ、同詩  
 中ニモ只一回「善ク建設セラレタル都府」ト記サレシノミ。又雅典ノ勇士ハ只一人ノミ同  
 詩中ニ記サレタルモ其名ハ世ニ知ラレズ。斯ノ如ク雅典ハホーマーノ始メテ世ニ出テタル  
 頃ハ、鎖々タル小國ナリシニモ拘ハラズ、希臘本部ニ於テ始メテ此詩ヲ愛翫セシハ同國ニ  
 シテ、スパルタニアラザルナリ、口碑ニ據ルニ之ヲ愛翫スルニ至リシハ、紀元前六百年ノ事  
 ニシテ之ヲ傳播スルニ與カリテカアリシハ、立法者ソロン、第三章ニ在リ總裁ビシストラタス紀元前六  
 百十二年生レ五百二十七年及ヒ其子ヒツパーカス父ニ次テ雅典トス。ピシストラタス其治世ノ晩年ヒシ  
ラタスノ治世ハ五百三十七年ニ始リ五百二十七年ニ終ルニ、ホーマーノ詩篇編輯ノ任ヲ學者ニ囑シ、オノマクリタス雅典ノト  
紀元前五百十六年ノ頃ノ人ナリオルフエアスノ作アルゴ遠征ノ其委員長タリシト云フ。現今歐洲學者社會  
詩ハ其實此人ノ作ナリト云フ後ヒツパーカスノ爲メニ述ハル一般ノ信スル所ニ據ルニ曰ク。當時イリアツド及ヒオデセーハ此編輯以前ニ既ニ筆ニセラ  
 レアリタルモ、其順序頗ル錯雜シタルノミナラズ、兩詩中ニ入ルベカラザル他人ノ筆ニ成

リタルアイオニア派ノ史詩、若クハ其碎片モ、ホーマーノ名ヲ冒セシモノ少ナカラザリシカ  
 バ、ピストラタス之ヲ愛ヒテ、編輯ノ事ヲ委員ニ托シタルナリ。故ニ委員ノ事業ハ只ホーマ  
 ーノ諸詩ヲ悉ク編纂シテ一体ト爲スニ在リタルノミト。然レトモ此一話ハ信ヲ置キ難シ。  
 尤モピシストラタスノ治世ニ、ホーマーノ詩ヲ保存スルノ法ヲ講セシト云フコトハ、有リ得  
 ベカラザル事ニアラズ。又紀元前六百年ノ頃ニ、ホーマーノ詩ヲ誦スル人々ガ報賞ヲ受ケ  
 テ之ヲ完全ナルモノトナセシト云フ事ハ確實ナルベシ。

史詩吟咏者

史詩吟咏者(ラプソヂスト) 是レ等ノ諸誦者ヲ名ケテラプソヂスト、云フ。ラプ

ソヂスト、ハ直譯スレバ「歌ヲ縫合ス人」ト云フ義ナリ。故ニ流麗ナル長歌即チ史詩ヲ織  
 リ成ス人——辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、スラ々々ト停滯ナク吟咏スル人——ナ云フナリ。抑  
 モ詩人ト吟咏者ト、性質ハ常ニ相聯結スルモノニシ、當初ハ古代ノ音樂師ノ如ク作者ニシ  
 テ誦者ヲ兼スルアリ。次テホーマリデア解前ニ在リノ如キ世襲ノ詩人出テ、己レノ作ヲ誦ヘリ。  
 史詩吟咏者ノ出ルニ及ヒテハ、徒ニホーマリデアノ名ヲ得ルモ只詩人ノ記號タル桂ノ枝ヲ  
 携ヘテ史詩ヲ吟咏シタルノミ。

希臘ニ於ケル  
ホーマーノ  
詩ノ講究

### 希臘ニ於ケルホーマーノ詩ノ講究

希臘人ガホーマーノ詩ヲ尊重スルコトハ自餘

ノ國民ガ自國ノ詩ヲ尊重スルヨリモ優レリ。蓋シ自餘ノ國民ハ漸ク文化ノ進ムニ從テ、其幼

稚ノ際ノ詩ヲ擯斥シ、甚シキハ全クソノ自然ノ消滅ニ任カセタリ——シセロ羅馬文學史ノガ

羅馬上世ノ神詩ノ滅ヒタルヲ慨キタルガ如キ。パーシー一千七百二十八年生レ一千八百十一年死ス、英

古來ノ歌曲ヲ網羅セリ、スコット等ハ是等ノガ英國歌曲ヲ編纂シタルモ、只僅ニ其數ノ十分一ニ過ク

ルコト能ハザリシガ如キ、ウラルター、スコット一千七百七十一年生レ一千八百三十二年死ス、蘇國ノ詩人ナリ

ナリ委シクハ本書第二卷蘇國邊境ノ音樂ヲ著ス即チ蘇國ノ小説ヲ編纂解釋セシモノ

英國文學史ニ載セアリ。ガ畢竟只邊境ノ音樂中ヨリ其殘餘ヲ保存スルヲ得タルニ過ギザリシガ

如キ是レナリ——ト雖モ、ホーマーノ詩ハ平易ニシテ快活ニ、夙ニ人氣ニ投合スルニ適シ、

又開明時代ノ人々ヲ樂マシムルニ足ルベキホドノ妙ヲ極メリ。故ニ兒童ハ學校ニ在リテ熱

心ニ之ヲ學ビ、僧侶ハ鬼神ヲ感動セシメンガ爲メニ之ヲ引証シ、道德家ハ之ヲ拔萃シテ金

言ト爲シ、政治家ハ之ヲ用ヰテ議論ノ材料ト爲スナド、何人モ皆之ニ由ラザルハナク、紀

元前四百五十年ノ頃ヨリ、每都市公費ヲ以テ之ヲ出版シ、以テ公宴ノ用ニ供セリ。左レハ

マツシリアノ出版、シオスノ出版、シノーブツ出版、アルゴスノ出版、サイアラスノ出版、

クレートノ出版ナド其數夥多シ。其他ニ又數多ノ私版アリ。以テ吟咏ノ用ニ供ス。而シテ

其最モ著名ナルチアリストーツルガ其門弟歷山大王ノ爲メニ備ヘシモノトス。之

チ「贗本」ト云フ。コハ大王ガ東洋遠征ノ際、常ニ玉匣中ニ入レテ携帯シタルニ由リテ、

此名アルナリ。

トロイ史詩家サイクリツク、ポエト トロイ戰ニ關シ、イリアツド及ヒオデ

セーニ載セザル事項ヲ叙述セル數多ノ短歌古話アリ。皆紀元前七百七十六年ヨリ同五百五

十年ニ至ル迄ノ間ニ、アイオニア派史詩家等ノ著作ニ係リ、イリアツド及ヒオデセート聯

絡シテ、或ハ之ガ發端ト爲リ、又ハ之ガ續篇ト爲ラントノ趣意ヨリ成レルモノナリ。後年

歲月ノ先後ニ由リテ之ガ順序ヲ定メ、之ヲ編纂シテ一團ト爲シ、エピツク、サイクルト

ロイ史詩ト稱セリ。彼ノ今世傳ハル所ノ希臘鬼神傳ノ如キハ、是レ等ノ史詩ヨリ拔萃シ

テ散文ニ改メ作リタルナリ。

希臘ノ文法家プロクラス紀元前百四十年ノ頃ノ人ハ其著書「文學ノ庫」リテラリー、ツ

レヲユリ中ニ、トロイ史詩ノ名ト主旨トヲ記載セリ。今其大意ヲ畧記スレバ左ノ如シ。

(一) サイアラス神詩 (セ、サイアリアン、レース) 作者スタシナスガ、サイアラス人ナルニ由リテ此名アリ。トロイ遠征ノ準備ト、其圍繞ノ初年トニ關スル顛末ヲ叙述シ、イリアツドノ發端トスベキモノナリ。

(二) エシオピア神詩 (レー、オフ、エシオピア) ミレタスノアークチナスノ著作ニ係ル。エシオピアノ君メムノソヲ主人公トナセルガ故ニ此名アリ。此詩ハ女人國ノ人々ガトロイニ到リシ事、エナルスイリアツド中ノ主人公ガ其女王ヲ殺セシ事、エナルス遂ニトロイノ太子パリスニ殺サレシ事等ヲ叙述シ、以テイリアツドニ連續セリ。

(三) トロイ攻畧詩 (サツク、オフ、ツロイ) 亦アークチナスノ作ニソ前者ニ連續セリ。

(四) 小イリアツド詩 (リツツル、イリアツド) ミチレンノレスチニスノ著ス所タリ。

ホーマーノイリアツドニ續キテ、トロイ滅亡ノ顛末ヲ記シ、アジャツクストロイ戰ノ希臘勇士中エナルスニ次ナル人ナリ及ヒフホロクテート亦トロイ戰ノ勇士ナリソフナリノ功ヲ叙セリ。

(五) 歸途ノ旅行 (ホームウワード、ヴチエーシ) ツローゼンノアジアスノ著ス所タリ。

トロイ戰爭後問モナク、種々ノ勇士ガ危険ニ遭遇シタル狀ヲ叙シ、ホーマーノイリアツ

ドト、オヂセートノ間ニ挿マレル十年間ヲ填塞セリ。

(六) テレゴナス神詩 (レー、オフ、テレゴナス (テレゴニア)) トロイ史詩家中最後進者ノ一人ナルサイレンノユーガムモン (紀元前五百六十六年ノ頃ノ人) ノ著ス所タリ。此詩ハ魔女サースト、オヂシアストノ間ニ生レタルテレゴナスガ、サーストノ勸メニ由リ、父ニ對面センガ爲メニ本國ヲ出立シタル事、イサカ島ニ於テ圖ラズ父ヲ殺シタル事等ヲ叙述セリ。

(オヂシアス、エー島ニ漂着シ、茲ニ滯留スルニ當リテ、同嶋ノ主、魔女サーストヲ愛シ、兩人ノ間ニ、テレゴナス生ル。オヂシアスハ、テレゴナスノ幼時ニ本國イサカニ歸リタルバ、テレゴナスハ之ニ對面セントテ、エー嶋ヲ出立ス。道ニシテ破船シ、食物ヲ失ヒタルガ爲メニ、止テ得ズシテ、イサカノ住民ヨリ之ヲ奪フ。オヂシアス及ヒ其子テレマチユス強奪者ヲ捕ヘント出來ル。テレゴナス、オヂシアスヲ我カ父ナリト知ラズシテ之ヲ殺セリ。)

又ヒーパン、サイクル (齊武史詩) ナルモノアリ。著者ノ何人ナルヲ知ラズ。其中セバイ

スト題スルモノハ、トロイ戦争ノ事ヲ記セズシテ、寧ロアーゴスト齊武トノ戦争ヲ記シ、又エビゴニト題スルモノハ、セバイス中ニ記セル勇士ノ子孫ガ再ヒ戦ヲ交ユルノ顛末ヲ叙述セリ。乙ハヒロドタス第二篇第二章ニ詳ナリノ時代ノ頃迄ハ、ホーマーノ作ナリトナシタリ。又エーカリア攻畧(テーキング、オフ、エーカリア)ト題スルモノハ、ヘラクリス希臘神代ノ事蹟ノ勇士ヲ叙セリ。凡テ「サイクリック、ポエム」トロイ史詩又ハ齊武史詩ト譯シタルモノハ、彫刻師ノ爲メニ、將タ雅典戯曲家ノ爲メニ、作り物ノ無盡藏タルナリ。

ヘシオツド

希臘人ノ口碑ニ據レバ、ホーマーノ外、他ニ一ノ史詩派ヲ鼻祖ト稱スル大詩人アリ。之ヲヘシオツドト云フ。氏ノ傳記ハ氏ノ著作ナリト稱スル詩篇中ニ散在スルモノヲ纂輯スルノ外他ニ據ルベキモノナキヲ以テ、姑ラク之ニ從ハン。氏ノ父ダイアスハ本來小亞細亞エオリスノ一都サイムノ人ナリシガ、後希臘本部ナルエオリア人ノ舊郷里ニ出テ、ポーシア國ヘリコン山近傍アスクラ村ノ高圃ニ住セリ。何故ニ斯ク移住セシヤト云フニ、彼レハ小亞細亞ニ於テ煩忙ナル商業世界ニ身ヲ立ツルニ適セザルヲ知り、舊郷里ニ退キテ農業ニ從事シ、以テ一ニハ貧ヲ醫シ、又一ニハ心身ヲ安セント欲シテナリト。ヘシ

オツドハ、此地ニ在リテ父ノ爲メニヘリコン山上ニ羊ヲ牧シ、遂ニ詩人トシテ世ニ出テリ。晩年、ロクリスナルコリンズ灣上ノパクタスニ移リ、斯クテエオリア邊境ヨリドリアン邊境ニ轉セリ。左レバ氏ノ著書ニハ、ドリアンノ感化力ヲ受ケタル証跡歷々トシテ見ルベシ。世ニ傳フル所ニ據レバ、氏老後ニ、一ミレシア人ヲ同居セシメシガ、此人或ル少婦ニ凌辱ヲ加ヘタルヲ以テ、婦ノ數名ノ兄弟ハ、氏ヲ其連累者ナリト誤認シ、彼ノミレシア人ト併セテ氏ヲ殺セシト云フ。又氏ノ遺骸ハ初メノパクタスニ葬ラレシガ、後年ポーシアナルオーコメナスニ移サル。

氏ノ生死年月ハ、得テ詳ナラズト雖モ、其イリアツド時代、即チアイオニア史詩隆盛ノ時代ヨリモ、八十年若クハ百年後ニ在リト云フハ確實ナリ。左レド、又一方ヨリ言フ片ハ歴史ノ將ニ起ラントスル頃、即チ紀元前七百年代ノ詩人ヨリモ著シク早カリシニ相違ナシ。此事ハ特別ナル事實ニ由リテ明白ナルノミナラズ、又希臘著述家ノ記載スル所ニ由リテ明白ナリ。ホーマート、ヘシオツドトハ、希臘口碑ガ常ニ最モ舊キ詩ヲ代表スルトシテ聯結スル所ナリ。願フニ、ヘシオツドハ紀元前八百五十年乃至八百年間ノ人ナリト云フニ正シ

ホーマー体  
及ヒヘシオ  
ツド体ノ史  
詩

トセン。

ホーマー体及ヒヘシオツド体ノ史詩

ヘシオツドハ自テ其詩人ト爲リシ頃末ヲ

叙述セリ。今其言ニ據ルニ、氏ガ猶父ノ爲メニヘリコン山ニ羊ヲ牧セシノ日、詩神神女ミユ

ーセスゼウスノ娘ニシテ姉妹九神アリ各々九科ノ文學ノ一ヲ管理ス即チクリオハ歴史ヲ管理シユエータープハ樂詩ヲ管理

シサリアハ滑稽劇ヲ管理シメルホメンハ悲哀劇ヲ管理シタープサイコアハ舞踏ト詩トヲ管理シエラトハ情詩

ト悲歌トヲ管理シポリヒムニアハ讚美歌ヲ管理シユエー姿ヲ現シ、且ツ曰ク。「噫々、家ナキ牧人ヨ。我レ

々々ハ固ヨリ眞實ヲシキ虚言ヲ吐クヲ得ルモ、又眞實ヲ吐クノ法ヲ知ラザルニアラズ」ト。

遂ニヘシオツドニ已レ等ノ託宣者タルベキ事ヲ命ジタリシカバ、是レヨリヘシオツドハ、

詩ノ與義ヲ窺フヲ得タリト。左レバ、ヘシオツドノ事業ハ、眞實ヲ述フルニ在リ。而シテ

之ヲホーマーノ詩ト比較スルニ、ホーマーノ詩ハ、既往ノ勇士ノ幻影中ニ發動シ、之ニ理

想的後光ヲ與ヘタルモノニシテ、ヘシオツドノ詩ハ現實中ニ發動セルモノナリ。ヘシオツ

ドノ詩ハ人生日常ノ事、人間ノ實務、宗教上ノ智識ヲ構成スベキ鬼神ト勇士ノ事實ヲ叙述

セリ。又ヘシオツドノ詩ノ根本タルポーシアノ生活ハホーマーノ詩ノ根本タルアイオニア

ノ生活ト甚異ナレリ。即チポーシア住民ノ日々ノ常規ハ安靜ナル内地ノ農耕ニシテ、アイ

オニア港ガシドソ、又ハナイルト通商貿易ニ忙ハシキトハ同シカラザルナリ。

然レトモヘシオツドノ詩ハ、只村落ノ勞働社會ヲ目的トスルニアラズ。之ト同時ニ又貴族

ヲモ目的トシ、万人ヲ目的トシテ、之ニ我が最も重要トスル所ノ道德上及ヒ宗教上ノ教訓

ヲ授クルナリ。

ヘシオツド作「ウナークス、アンド、デーヌ」(著書ノ名ニテ事業ト日柄

ト云ヘル義ナリ)ヘシオツドノ詩中ノ重モナル者ヲ「ウナークス、アンド、デーヌ」

トス。而シテ其「ウラーッス、アンド、デーヌ」ト名クル所以ノモノハ、農夫ノ爲スベキ事業ト

之ヲ爲スガ爲メノ吉凶日トヲ述ブレバナリ。抑モ眞ニダイダクツク、ホエトリ教 詩 ノ名ヲ下スベキモノハ

或ル學藝上ノ事實ヲ韻文ニ綴リ、而シテ想像若クハ感情ノ美ヲ以テ之ヲ圍繞スルニ在リ。

ヘシオツドノ詩ハ、此種ノ最モ舊キモノナリ。然レドモ後世ノ所謂教詩ナルモノト混同ス

ベカラズ。何トナレバ、後世ノ所謂教詩ナルモノハ其作者、韻文ヲ嗜ムガ爲メニ、或ハ故

サラニ散文ヲ捨テ、韻文ヲ擇ンカ、否レバ、既ニ散文ニ於テ述ヘラレタル事項ヲ只韻文ニ

綴リ替ヘタルモノナルニ、ヘシオツドノ時ニ於テハ、散文ナルモノアルナク、若シ我が

ヘシオツド  
作ウナーク  
ス、アンド、  
デーヌ

思想ヲ公衆ニ聽カシメント思ハ、韻文ニ訴フルノ外ナケレバナリ。左レバ氏ノ目的ハ決シテ後世ノ如ク風韻風致ノ心ヨリ出テタルニアラズシテ、實際ノ必要ニ供スルニ在リ。而シテ其詩ハヴァーシル羅馬文學ノセオジツクスノ如キ、文學上ノ妙作ト類ヲ均シクスベキニアラズノ、寧ロ十六世紀ノサツフチークノ農夫トマス、タツサー一千五百二十三年ノ頃死ス英國農詩ノ作者ナリガ世ノ農夫ニ裨益ヲ與ヘンガ爲メニ著ハシタル「良耕五百科條」ト類チ均シクスベキモノナリ。

ウチークス、アンド、デース(事業ト日柄)ハ三部ヨリ成レリ。(一)弟パーセスニ宛テタル序「(二)「事業」ノ本文、(三)「日柄」即チ曆書是レナリ。傳ヘ聞ク、ヘシオツドハ、弟パーセスト共ニ父ノ遺産ヲ配分セシニ、パーセスハ狡猾ニモ判事ニ賂フテ餘分ニ之ヲ受ケ、懶惰ニ、奢侈ニ、生活セシノミカ、剩ヘ再ヒ訴訟ヲ起シテ、ヘシオツドノ得シ遺産ヲモ併セテ奪ハントシタリシカバ、ヘシオツドハパーセスト腐敗セル裁判官等トヲ誡ムルニ、此世ニ於テ正理ニ背ク者ハ、必ラズ正理ノ父祖タルソウスノ罰ヲ蒙ルベシト云フチ以テシ、「鷹ト鷲」ノ寓言ヲ以テ之ヲ論セリ。是レ即チ希臘文學ニ於ケル寓言中ノ最モ舊

キモノナリ。

同書ハ鷹、鷲ヲ攫取ス。鷲苦情ヲ唱フ。然ルニ鷹ハ之ニ答ヘテ、「腕力ハ權利ナリ」ト言ヒタリトノ趣意ヲ敷衍セルモノナリ。

ヘシオツド又本書ニ於テ世界ノ時代ヲ、黄金時代、白銀時代、青銅時代、勇士時代即チ半神時代(ホーマーノ勇士ノ時代ナリ)、鐵時代ノ五項ニ分チ、己レハ鐵時代ニ棲息スルノ不幸ニ遭遇スト云ヘリ。氏又正理ヨリ更ニ趣旨ヲ一轉シテ、事業ニ移リ、「勞働セヨ、馬鹿ラシキパーセスヨ。鬼神ガ汝ノ爲メニ備ヘタル事業ノ爲メニ勞働セヨ」ト云ヘリ。又云ク。「凡ソ勞働セント欲スル者ハ、自ラ家屋、牛、眷屬ヲ速ニ備ヘザルベカラズ。猶豫スルハ穀倉ヲ充實セシムルヲ能ハザルナリ。夫レ鶴聲ハ耕耘セヨトノ合圖ナレバ之ヲ聞クト均シク、直ニ鋤ヲ手ニセザルベカラズ。主人ハ奴隸ニ先チテ野ニ出テ、第一着手トシテ天地ヲ祈リタルノ後、瞬間ノ猶豫ヲ爲サズシテ直ニ耕耘ニ從事セザルベカラズ。奴隸ハ主人ニ次テ種子ヲ蒔クベシ」ト。コノ趣旨ヲ説キ畢ルヤ、次ニ凡テノ事業ニ對スル法則ト農業ノ氣候トヲ述ベ、最後ニ至リテ、曆日即チ吉凶日ノ表ヲ掲ケ、「日ハ時ニ繼母ナルヲアリ。時ニ實母



ナルヲアリ。故ニ其繼母ト實母トヲ識別シ、我カ事業ヲ是レ等 爲メニ妨碍セラレザルヲ得ル者ハ幸福ナリ」ト云ヘリ。

鬼神ノ起源

セオゴニー(「鬼神ノ起源」) 一千二十二句ノ詩ナリ。其詩タルヤ、今ハ前後錯乱セリト雖モ、案スルニ大体ハヘシオツドノ作ル所ナラン。(古人モ概テ斯ク信セリ)抑モ世界ハ一ノ至高力ノ造ル所ナリトノ信仰ハ、上古ヨリ東洋人ノ懷抱スル所ニシテ、且ツ廣ク社會ニ傳播シタリト雖モ、希臘人ハ決シテ之ヲ知ルヲナク、造化ノ造ル所ナリトハ思考セズシテ、豫在ノ元素ヨリ生シタルモノト思考スルノ傾向ヲ有セリ。勿論希臘人ハ、鬼神ヲ以テ永久不滅ノモノト爲シタルニハ相違ナケレド、鬼神ガ限リナキ上古ヨリ生存シタルト云フヲ信セズ。故ニヘシオツドノ「鬼神ノ起源」ハ、希臘人風ノ信仰ニ基キテ大要二項ニ別レタリ。(第一)目以テ見ルヲ得ベキ自然ノ秩序ハ如何ニ起リシカ、(第二)鬼神ハ如何ニ生レシカト云ヘル是レナリ。

其(第一)ノ説ニ云ク。渾沌即チ乱推セル無數ノ極微分子ヨリ地、地獄、愛戀、夜、晝ヲ生シ、地ハ天ト海トヲ生セリ左レバ、同書ノ重モナル觀念ハ光ハ暗ヨリ成長シ、形ハ無形

ヨリ成長シタルト云フニ在ルナリ。

其(第二)ノ説ニ云ク。地ト其子天トハ、今人体ヲ爲セル鬼神ノ父母ト爲リ、先ツ年長ノ諸神ト、巨大ナルタイタンストヲ生ミ、又年長諸神ノ一ナルクロナスハ、ジウスヲ生メリ。ジウス師ヲ興シテ其父クロナスヲ伐テ之ヲ滅シ、オリムピア諸神ノ王ト爲レリト。諸歌ノ發端ハ茲ニ局ヲ結び、末項ノ八十句ハ人間ト女神トノ間ニ生レタル英雄ノ系譜ヨリ始マル。

「鬼神ノ起源」ノ根據及ヒ其勢力

セオゴニーノ根據及ヒ其勢力 ヘシオツドガ「セオゴニー」ヲ作ルニ當テリ根據トセシ所ノ重モナルモノハ神社ニ保存セラレタル舊キ讚美歌ト、世人ノ口碑ニ存シタル野乗トナリシナラン。故ニ氏ハ新ニ仕組ヲ爲セシニハアラズ、只舊キ仕組ノ諸片チ一纏メトナシタルノミ。希臘人ノ鬼神ノ事ヲ叙述シ、若クハ教フル者ハ常ニ氏ノ「セオゴニー」ニ則レリ。然レトモ此書ノ人心ニ及ホセル勢力ヲ印度若クハ波斯ノ聖書ガ及ホセル勢力ニ比較スルハ誤レリ。希臘ニハ決シテ聖書ナルモノナカリシヲハ、猶其決シテ僧族ナルモノナカリシニ均シ。希臘人ハ時ニ其心ヲ神宣説ニ傾ケタルヲナキニアラザルモ、徹頭徹尾僧侶ノ

管轄ニハ抵敵シタルナリ。

ヘラクリスノ楯

ヘラクリスノ楯 此詩ハヘシオッドノ作ニハアラズシテ、稍々晩年ノ作ナルベシ。而

シテ此詩ハ四百八十句ヨリ成レル史詩ニシテヘラクリスシウスノ子ニシテ人ト、シクラスノ軍陣エ

ノ子トノ戦争ノ顛末ヲ記セルモノナリ。シクラスハ、草賊ニシテ、巡禮者ガセサリーヨリデ

ルフアイナルアポロノ神社ニ詣ルヲ路ニ要シテ、之ガ所持品ヲ掠奪スルヲ事トセル者ナリ。

楯此戦争ハ、セサリーナルバガセーニ於ケルアポロノ聖界ニ起リ、ヒレクルスハ、シクナ

スヲ殺シ、シクナスノ父エーアス神ハ、オリムパスニ逃ル。左レド、此戦争ハヘフェース

タス神ガ、ヘラクリスノ爲メニ楯ヲ造リタル事ヲ述ベンガ爲メニ設ケタルモノナリ。而シ

テ此記事ハ、イリアッド第十八卷ニ、エチルスノ楯ノ事ヲ叙述シタルニ倣ヒシモノナレド、

彼レニ劣ルヲ數等ナリ。ホーマーノ詩ハ、自己ノ想像ヲ主トシ、ヘシオッドノ詩ハ事實ヲ

本トシ、之ヲ戯曲風ニ爲シタルモノナリ。ヘラクリスハ、尋常ノ勇士ノ甲冑ヲ着ス。左レ

ド夙ニ紀元前六百四十八年ニ於テ史詩家ヒーサンダーハ始メテヘラクリスガ獅子皮、棒、

弓ヲ携フルノ例ヲ置ケリ。ヘラクレウス島ニ於テ紀元前四百五十年若クハ四百年頃ノ作ト覺シキ一大瓶發見セラレ

テ作リシ人ハ必ラスヘシオッドノ詩中ヘラクリスノ甲冑ヲ着セリト云フ。此種ノ簡單ナル史詩ハ、樂詩ノ始メテ起

ト戦争ノ狀トヲ見テ楯ノ事ヲ記載スル部分ヲ見ザリシナラント此種ノ簡單ナル史詩ハ、樂詩ノ始メテ起

リシ頃、同詩家ノ屢々摸倣スル所ナリ。

ホーマー風ノ四大神歌 其第一ハ二種ノ唱音ヨリ成ル。甲ハデロスノアポロ

ニ捧ケタルモノニシテ、乙ハパイリンノアポロニ捧ケタルモノナリ。甲ノ中ニハ、アポロ

ガ、デロス嶋ニ生レシ顛末、並ニ其地ニ大祭ヲ行フノ理由ヲ述ベ、乙ノ中ニハ、アポロガ

神座ヲ求メンガ爲メニ、ヲリムパス山ヨリ地上ニ下リシ顛末、諸方ヲ遍歴ノ末、デルファ

イニ至リテ、神社ト僧侶トヲ發見セシ顛末ヲ述ヘリ。其第二ハ、狡猾ナル一小神ヒーリア

山ヨリアポロノ家畜ヲ盜ミ、我ガアーケヂアノ牧場ニ伴ヒシ事ヲ述ベ、第三ニハ、トロイ

ノ幼主アンナセスガアイダ山上ニ於テ、家畜ヲ看護スルニ際シテ、美麗ナル女神ニ逢ヒシ

事、並ニ女神ハオリムパス山ニ歸ルニ先チテ、兩人ノ間ニ擧クベキ子息エーチアスノ將來

ノ運命ヲ預言セシヲ述ベ、第四ニハプルト神ガ、パイセフチンアメタートツユーストノ間ニ生レ

ヲ樹蔭ニ伴ヒ去リシガ爲メニ、デメターパイセフチンノ母ナリニ之ヲ搜索シ、不圖エリウシスアツチ

ニ到リテ同地ノ人ノ爲メニ崇拜セラレ、其娘ヲ恢復シタルヲ述ベリ。

ホーマー風ノ四大神歌

第三章

悲歌

短長歌

樂詩

又叙情詩  
ト譯ス

- ・ (一) 悲歌及短長歌 紀元前七百年ヨリ同五百年ニ至ル
  - コリリナス 同六百九十年ノ頃ノ人
  - ターテアス 同六百七十五年ノ頃ノ人
  - アーチロカス 同六百七十年ノ頃ノ人
  - アモীগアスノシモニダス 同六百六十年ノ頃ノ人
  - ミムナーマス 同六百二十年ノ頃ノ人
  - ソロン 同六百三十八年ノ頃生レ五百五十八年ノ頃死ス
  - セオグニス 同五百四十年ノ頃ノ人
  - フチシリダズ 同上
  - セノフアニーズ 同五百十年ノ頃ノ人
  - ヒボナツクス 同五百四十年ノ頃ノ人
  - シオスノシモニダズ 同四百八十年ノ頃ノ人
- ・ (二) 樂詩 紀元前六百七十年ヨリ同四百四十年ニ至ル
  - (甲) エオリア派
    - アルケアス 同六百十年ノ頃ノ人
    - サツフチ 同上
  - (乙) ドリアン派
    - アナクレオン 同五百三十年ノ頃ノ人
    - アルクマン 同六百六十年ノ頃ノ人
    - ステシコラス 同六百二十年ノ頃ノ人
    - アリオン 同六百年ノ頃ノ人
    - イピカス 同五百四十年ノ頃ノ人
  - (丙) 形狀ドリアンニシテ精神國民ナル樂詩
    - シオスノシモニダス 前ニ在リ
    - ヒンダール 同四百七十年ノ頃ノ人

新體詩ノ起源

新體詩ノ起源

紀元前七百五十年ヨリ同五百年ニ至ル迄ノ間ニ希臘全國ニ一大變化

ヲ生セリ。今之ヲ畧述センニ、初メ立君政治亡ヒテ、寡人政治之ニ代リ、次テ多クノ場處ニ於テハ、寡人政治亦亡ヒテ、擅制政治——他ノ國々ノ擅制政治ノ如ク、君主擅制政治ニハアラズ。別ニ國王ナル者ナク、時ノ總裁ガ擅制スルノ政治ヲ云フ——之ニ代リ、最後ニ又多クノ場處、殊ニアイオニアニ於テハ、擅制政治亡ヒテ、平民政治之ニ代レリ。然リ而シテ是レ等ノ革命ト、其伴隨物タル擾乱トニ連レテ、人心頓ニ激昂シ、ソノ經驗頓ニ増大シ、

從來選ハレテ公共ノ事ニ與カレル者モ、討議ノ際、可否如何ヲ詰問セラレテ其答辨ニ究スルヲ普通ノ事ト爲シタリシニ、今ヤ一私人ト雖モ、漸ク獨立ノ思想ヲ懷キ、獨立ノ運動ヲ行ヒ、其勢力ハ益々範圍ヲ廣クシ、其事業ハ益々高尚ニ達シ、其快樂ハ益々雅趣ニ赴キ、之ニ由リテ其精神ヲ獎勵シ、其想像ヲ激烈ニシ、又其智識ハ逐日増大シ、美術ハ逐日練熟シ、理學ハ將ニ興ラントシ、人生ハ逐日熱度ヲ加ヘテ逐日圓滿ニ近ヅカントセリ。然レトモ此際猶未タ散文ナルモノアラズ。故ニ我カ思想ヲ他人ニ傳ヘント欲セバ、固ヨリ韻文ニ頼ルノ外他ニ方便ナキナリ。是ニ於テヤ、社會ノ變遷ハ韻文ニ反映シタリ。蓋シイリアツドハ其年代尙早カリシヲ以テ、殆ンド此反映ヲ蒙ラザリシト雖モ、オヂセーハ稍々之ヲ蒙レルガ如ク、ヘシオツドノ詩ハ益々之ヲ蒙リ、而シテ本章叙述スル所ノ多望ノ天明トモ稱スベキ年代即チ紀元前七百年ノ頃ニ至リテハ、我カ思想感情ヲ以テ他人ヲ感動セントノ計畫ハ、始メテ判然トシテ詩ニ現ハル、ニ至レリ。而シテ其表出ノ形狀ニ二種アリ。(一)悲歌、(二)短長歌是レナリ。此二詩ハ殆ント同時ニ興リタルモノナリ。

悲歌的韻脚

悲歌的韻脚

悲歌ハ元來小亞細亞ノカリア及ヒローヂアニ於テ、笛ニ合ハセテ悲哀ノ

歌ヲ詠ヒシヨリ始マル。然レトモ希臘ニ行ハレタル悲歌ハ、之ニ一種特別ナル韻脚ヲ適用シタルモノナリ。即テ上古ノ六韻脚史詩ヨリ韻脚ヲ借り來リタルヲ以テ、亦六韻脚ナルナリ。其例左ノ如シ。

1 2 3 4 5 6  
 O let us | try, he | answered, the | waters them | selves will sup | port us, |  
 1 2 3 4 5 6  
 You very | ripples and | waves will | from to a | boat under |neath us. |

右ノ例ノ第二句ニ於テ、若シ第三段ノミニト第六段ノミトヲ略シタランニハ、最早六韻脚詩ニハアラデ、五韻脚詩ト爲ルナリ。何トナレバ、waves 及ヒneath ナル兩奇數字ハ一韻脚トシテ計算スベケレバナリ。ソハ姑ラク置き、前例ノ兩句相合シテ悲歌的聯句ヲ構成ス。斯ル聯句ヨリ成レル詩ハ則チ悲歌ナリ。

悲歌ノ性質

悲歌ノ性質

コルリツヂ一千七百七十二年生レ一千八百三十四年死ス英國詩人ナリ本書第二卷英國文學史ノ部ニ詳カナリ曰ク。「悲歌ハ心ガ反省

スルホニ自ラ生スベキ詩體ナリ」。又曰ク。「悲歌ハ己レニ關シテハ如何ナル趣意ヲ述フルモ心ノ儘ナリ」。ト。希臘ノ悲歌ハ則チ此証例ト爲スヲ得ベシ。抑モ希臘ノ悲歌ニハ種々ア

リテ、或ハ自國ヨリ興セル戦争ニ就テ、——或ハ市民中ニ起レル政治上ノ爭論ニ就テ——  
 或ハ實行セラレノコヲ希望スル所ノ法律若クハ主義ニ就テ——當時ノ風俗徳義ニ關スル自  
 己ノ意見ニ就テ——愉快ニ世ヲ渡ルベキ最良法ニ關スル自己ノ意見ニ就テ——祝祭ニ就テ  
 ——死者ヲ弔スルコトニ就テ——凡テ詩人及ヒ其朋友ガ常ニ思考シ、談話スル所ノ万事ニ就  
 テ述フルナリ。然レトモ其趣旨ノ如何ニ論ナク、此上古ノ希臘悲歌ハ常ニ二様ノ通性ヲ有  
 ス。(一)作者ノ思想感情ヲ表出シテ社會ノ同感ニ訴フル事、(二)此表出スル所、固ヨリ自  
 由ニ、充分ニ、快活ニ、熱心ナルニモ拘ハラズ、猶ソノ感情ヲ喚起スルノ點ニ於テ適度ヲ  
 超過シ、乱暴ニ渉ルガ如キコトナシト云ヘル是ナレリ。晩年歷山時代ノ希臘詩人ハ氣力ニ乏  
 シキ精緻ナル戀愛ノ悲歌ヲ作り、悲歌ヲ以テ學識ヲ顯ハスノ機關ニ供シ、羅馬ノ悲歌ノ作  
 者ハ、主トシテ此歷山体ニ倣ヘリ。故ニ華美ハ則チ華美ナリト雖モ、惜ムベシ希臘初年ノ  
 悲歌ノ特質タル快活ニシテ感情ヲ喚起スルノ長所ハ殆ント失フタルニ似タリ。

短長歌

短長歌 短長韻脚即チ(—)ノ原語「アイアムバス」ハ本來希臘語ノ「アイアプト」  
 即チ射ルト云フ語ヨリ轉訛シタルモノニシテ、誹謗嘲笑ノ義ト爲ルナリ。左レバコソ、輕

快銳利ナル短長韻脚ハ當初デメター祭ノ節ノ道化ニ用ヰタルト恰カモ近時戒食節天主教ニ於テ齋(四十日ノ齋)ノ前ニ行ヘニ之ヲ用ユルガ如クナリキ。諸コノ嘲笑スル所以ハ如何ト云フニ、昔者デ  
 メターガ其娘ヲ失ヒテ悲哀ニ堪エザリシ時、宮女アイアムブノ諧謔ニ由リテ始メテ莞爾タ  
 リシト云フノ古事ヨリ起レルナリ。

(デメター 羅馬人ノ所ハ穀物ト收穫トナ司ル女神ナリ。ジユリス 羅馬人ノ所置ト婚シテプロサイビナト名クル娘ヲ生  
 謂セレス 謂セレスノ弟アルト之ヲ奪ヒ去ル。デメター 悲歎ニ堪エズ。時ニエリユーシス王セレアスノ皇后メタニラノ宮女ア  
 ム。ジユリスノ弟アルト之ヲ奪ヒ去ル。デメター 悲歎ニ堪エズ。時ニエリユーシス王セレアスノ皇后メタニラノ宮女ア  
 イアムブ道化ニ由リテ、聊カ其心ヲ慰メタリ。是レヨリシテ諧謔ノ歌ヲアイアムビツク、ホエトリート云ヒ、嘲笑ノ事ヲ  
 「アイアプト」ト云フナリ。)

普通ノ短長韻脚ハ短長六韻脚ノ韻文、若クハ短長三韻脚ノ韻文ナリ。雅典悲哀戲曲ノ對話  
 ハ此短長三韻脚ヲ以テ綴リ、シエクスピア一千五百六十四年生レ一千六百十六年死ス英  
 國無双ノ詩人ナリ英國文學史ノ部ニ詳ナリハ急口ナル對  
 話、若クハ反論ニ於テ屢々之ヲ用ヰタリ。

短長三韻脚ノ例ハ左ノ如シ。

Then let's — make haste — away — and look — unto — the main.

此韻脚ハ當初嘲笑ニ用ヰタレド、或ル諷刺ノ意ヲ表スルニ適スルヲ以テ、之ヲ寓言ニ用ヰ、

又之ヲ通常ノ悲歌ヨリモ一層嚴格ニ、一層激烈ニ反省スル片ニ用ヰケリ。此悲歌ト初年ノ短長詩トハ、相合シテ史詩ノ時代ト樂詩ノ時代トノ間ニ插マレル文學發達ノ一段階ト見做シテ可ナリ。

コリーリナス

コリーリナス 紀元前六百九十年ノ頃ノ人ニシテ、エフエサスアイオニアノ府ニ棲息セリ。希臘悲歌作者中ノ最モ舊キ人ナリ。抑モリーデア王アーヂスノ世ニ、北歐ノ殘忍ナル種族シムメリア人、小亞細亞ヲ伐チテ、サーヂスヲ取り、又アイオニアヲ襲フ。後ツレアスト稱スル他ノ蠻族又之ヲ追尾シ、之ヲ驅逐シタリシカド、此間アイオニアハ永クシムメリア人ノ爲メニ苦メラレヌ。コリーリナスノ韻文中、今現存スルモノハ、振ヒテ此襲撃者ヲ逐攘ハンコヲ、アイオニア人ニ勸ムル過激ノ歌ナリ。

ターテアス

ターテアス 第二メツセニア戰(自紀元前六百八十五年至同六百六十八年)ノ頃ノ人ニシテ、スパルタニ棲息ス。左レド本來ハ、アイオニア人カ、否ラザレバ雅典人ナルベシ。氏ノ時ニ、スパルタ人中、前記ノ戰爭ノ爲メニ領地ヲ掠奪セラレシ者、新ニ土地ヲ分配セラレン事ヲ喋々シツ、アリシカバ、氏ハ「良政府」(ユーノミア)ト題スル一詩ヲ作り、彼

レ等ニ向テ、スパルタノ法律ハアポロ神ノ制定スル所ナリトノ旨ヲ注意シ、カヲ戮ハセテメツセニア人ヲ逐攘スベシト慫慂セリ。是ニ於テスパルタノ兩王其頃スパルタニハト元老衆議常ニ二人ノ王アリ兩院トハ、團結シテ、メツセニア人逐攘ノ事ヲ謀レリ。氏又「獎勵」(エクザイテーシヨンス)ト題スル數首ノ慫慂スベキ悲歌ヲ作りテスパルタ人ハメツセニア人ト死戰スベシト促カセリ。後年スパルタ人ハ是レ等ノ歌ヲ陣中晚餐ノ際ニ誦フタリト。氏又進軍ノ歌ヲ作ル。是レ亦スパルタ人ガ進軍ノ際ニ誦フ所ト爲リタリト云フ。

アーチロカス

アーチロカス 紀元前六百七十年ノ頃ノ人ナリ。本來パロス嶋ノアイオニア人タリシモ、後殖民ト共ニサソス嶋ニ移住ス。人ト爲リ氣力ニ富ム。當時ノ希臘人ハ氏ヲ以テ一機軸ヲ出セル文學大家ノ一人ナリト尊崇シ、ホーマー前ニピンダー後ニソフクリス在リト並在リベ稱セリ。サソス島人ノ屢々大陸ナルスレハ人ト戰チ交ユルニ當リテヤ、氏ハ諸種ノ悲歌ヲ作りテ戰爭ヲ詠シ、曾テ妹ノ良人、海ニ溺レテ死セシ時モ、亦華美ナル悲歌ヲ作りテ之ヲ弔シタリ。左レド氏ノ最モ長スル所ハ短長歌ニシテ、雷名ヲ轟カセシモ亦此歌ニ在ルナリ。

傳へ聞ク、ライカムベスト云へル人一旦其娘ニオビユールヲ氏ニ嫁セシメシカバ、氏ハ一ノ短長諷詩ヲ作リテ、後其約ヲ破リテ、地位財産ノ氏ニ優レル人ニ嫁セシメシカバ、氏ハ一ノ短長諷詩ヲ作リテ、甚ク之ヲ諷刺シ、ニオビユールト其姊妹トナシテ慚愧シテ自殺セシメタリト云フ。一説ニ父ライカム ベス慚愧シテ 此説固ヨリ實説トハ定メ難シ。然レトモ氏ノ諷詩ガ血性ノアイオニア人ヲ充分ニ刺衝スルノ力ヲ有シタルコトハ此一話ノ世ニ行ハル、ヲ以テモ推知スベキナリ。

アモーガス  
ノシモニザ

アモーガスノシモニザス 紀元前六百六十年ノ頃ノ人ニシテ、短長諷詩ノ作者ナリ。氏ハ個人ニ向テ諷刺ヲ試ミズシテ、一般ニ向テ之ヲ試ミタリ。而シテソノ最モ長篇ニ涉レルハ女性ノ事ヲ述ヘタル奇異ナル諷詩トス。ソノ趣旨ハ鬼神ガ女性ヲ造ルヤ、之ニ狐猫等ノ如キ動物ノ性質ヲ賦與スト云フニ在リ。

スミルナノ  
ミムナーマス

スミルナノミムナーマス 紀元前六百二十年ノ頃、小亞細亞ノスミルナニ住ミタル人ナリ。悲歌ヲ作リテ退化シタル優柔不斷ナルスミルナ人ノ真相ヲ寫セリ。氏ハスミルナ人ガリーヂア人ヲ逐攘セシ當時ヲ追懷シテ感慨ニ堪ヘズ。自ラ慰メテ曰ク。「人生少壯ノ期ヲ過グレバ、最早價值ナシ。六十ニ至ラバ、此世ヲ去リテ疾病掛慮ノ苦痛ヲ免カレン」ト。氏ハ太陽ガ

日々攷々トシテ世界ヲ照ラスヲ憐メリ。

ソロン

ソロン 雅典立法ノ大家ナリ。コロリナス前ニターテアス上ノ風ニ倣フテ 悲歌ヲ作レリ。後文ニ詳記スルガ如ク、雅典人ヲシテ會稽ノ耻ヲ雪クヲ得セシメシモ、一ニ氏ノ悲歌ノ力

ニ由ルナリ。氏ハ政治上ニ偉業ヲ奏シタルガ爲メニ、隨テ悲歌ノ品位ヲ高クシ、又之ヲ德育ノ機關ト爲セリ。世人氏ヲ呼ヒテ希臘七賢人ノ一ト爲ス。下文ニ記スル所ハ氏ノ小傳ナリ。

ソロンハ、紀元前六百三十八年ノ頃、サラミス島ニ生ル。父エセトスタイヅハ閭閻ノ人ナルモ、其家産ハ甚乏シ。故チ以テ、ソロンハ幼少ノ時ヨリ、我カ資財ヲ造ラシガ爲メニ、時間ノ大半ヲ商業ニ費サレテ得ザリキ。氏ヲシテ絶大ノ立法家タルヲ得セシメハ、蓋シ之ニ基因スルナラン。何トナレバ、氏ハ商業ニ由リテ各國ヲ訪問シタルガ爲メニ、其人情風俗ヲ觀察スルノ機會ヲ得、且ソ社會經濟ノ實況ヲ目撃スルノ利便ヲ得タレバナリ。ソロン人ト爲リ、聰慧機敏、詩ヲ好クス。少時、雅典ガメカレンシヤ人トサラミス島ヲ爭フニ合ス。兵結テ連年解ケズ。人民大ニ之ヲ厭ヒ、法令ヲ發シテ曰ク。「何人タリトモ、サラミス嶋回復ノ師ヲ興サント議スル者アラバ、死刑ニ處セント」然レドモ久シカラズシテ此法ヲ制定シタルヲ悔ヒ、頻リニ其廢止ヲ希望スト雖モ、之ヲ主張スル者ハ刑辟ニ觸ルヲ以テ、如何トモスベキナシ。事情斯ノ如キノ時ニ當リテ、ソロンハ賢クモ一計ヲ按出シ、我身、禍ヲ蒙ルコトナクシテ人民ヲ希望ヲ満足セシムルヲ得タリ。

其法如何ト云フニ、氏ハ先ツ伴リテ狂人ト爲リ、世人ヲシテ真正ノ狂人ナリト思ハシメタル後、竊カニサラミス賦ヲ詠スルノ詩ヲ作り、市場ヲ狂ヒ廻リツ、雜選ノ間ヲ高聲ニ放歌シタリ。左レバ、最初ノ程ハ、數多ノ人々ソレ狂人ヨトテ、氏ノ周圍ニ群集シタリシカド、漸ク其吟スル所ヲ聽クニ從テ、漸ク之ガ爲メニ感動セラレ、感動ノ極ニ夫法令ヲ全廢セシノミカ、兼テサラミス征討ノ議ヲ決シ、ソロンヲ擢ンテ、之ニ大元帥ノ印綬ヲ授ケタリ。此役ニ、ソロンノ權謀百發百中シ、數月ノ間ニサラミスヲ雅典ニ回復シタリ。之ヲソロンガ雅典ノ爲メニ奏セル第一回ノ功績トス。

是時ニ當リテ、雅典ニ於テハ、貧民ノ生計頗ル切迫シ、今ニモ一揆ヲモ起スベキ情態ナリシカバ、ソロンハ茲ニ臨機應變ノ策ヲ運ラシ、負債主ヲシテ從來ノ負債ヲ一切債主ニ償フニ及ハザラシメ、又債主ニ命シテ自今負債ヲ償還スル「能ハザル者ヲ奴隷ト爲スヲ禁シタリ。左レド此第一法一負債主ヲシテ從來ノ負債ヲ一切債主ニ償フニ及ハザラシメタルノ法一ノ如キハ、眞ニ事情止ヲ得ザルニ出テタルモノニシテ、平凡ノ政治家ガ猥リニ行フベキモノニアラズ。ソロン能ク之ヲ知レド、故ニ是レヨリ數年ノ後、裁判官ニ決シテ斯ル法ヲ行ハザルベキヲ誓ハシメタリト云フ。ソハ兎モ角モ、是レ等ノ處置ニ由リテ、頗ル貧民ノ不満ヲ慰メ、其動搖ヲ鎮定スルヲ得タリ。之ヲソロンガ雅典ノ爲メニ奏セル第二回ノ功績トス。

ソロンガ第三回ノ功績ハ、則チ氏ノ功績中ニ在リテ最モ著シク、且ツ今日ニ至ル迄、人口ニ増大セルモノナリ。讀者ノ知ラル、如ク、ゾラコ（雅典ノ立法家）ノ法律ト云ヘルハ、過嚴過酷ニシテ、如何ナル輕小ノ罪ト雖モ、苟クモ罪タル以上ハ悉ク死刑ニ處シタルガ故ニ、人民之ニ堪ユルコト能ハズ。是ニ於テソロンハ實感其要ニ適セル法律ヲ制定シテ以テゾラコノ法律ニ代ヘ、人民ヲシテ大ニ安堵セシメタリ。是レソロンノ功績中ノ尤ナルモノトス。猶此他ニ種々ノ要項アレ

ド之ヲ畧ス。

ソロン雅典ノ爲メニ力ヲ竭シタルノ後、官ヲ辭シテ（ソロン是迄撰ハレテ「アークオン」ト世界漫遊ノ途ニ就キ、先ツ當時文化第一ト稱スル埃及ニ航シテ、其地ノ學者僧侶ト哲學上ノ問題ヲ對話シ、次ニサイプラスノ一鳴ヲ訪ヒ、幼主ヲ非ロサイプラスノ需ニ應ジテ、市府ヲ設取リテソリアト稱スノ學ヲ助ケ、更ニ小亞細亞ナルリテア國ニ到リテ、其王クリサスニ見ユ。クリサスハ富裕ヲ以テ古今ニ名アリ。今日猶「クリサスノ富」トテ歐米各國ノ俚諺ニ唱ヘラル、人ナリ。王、ソロンニ誇ルニ驕奢ヲ以テシ、且ツ問フ。「世上其華麗ヲ極ムル、予ニ優ルモノアリヤ」。ソロン答フ。「然リ、雞、雉、孔雀ハ陛下ニ優レリ。何トナレバ、彼等華麗ハ自然ニ有スル所ニシテ、陛下ノ他ヨリ借ルトハ同ヨリ同日ノ論ニアラザレバナリ」。

王又問フ。「古今嘗テ予ヨリモ幸福ナルモノアリヤ」。

答フ。「有リ」。

ソロン又語ヲ次テ曰ク。「人事ノ盛衰轉變ハ極メテ大ナルガ故ニ、何人モ棺ヲ蓋ヒシ後ニアラザレバ幸福ノ稱ヲ下シ難シ」ト。王之ヲ聞テ頗ル不満ナリキ。然レドモ晩年波斯王サイラス（古今大戦勝者ノ爲メニ滅サル、ニ及ヒテ、始メテソロンノ名言ヲ想起シ、覺エズ「ソロンヨ！ソロンヨ！」ト叫ヒシト。）ノ一人ナリ。

ソロン齡八十餘歳ノ高年ニ達シ、紀元前五百五十八年ノ頃サイプラス嶋ニ於テ死セリ。

セオグニス アカイアノ一府メガラニ住スルドリアンノ貴族ニシテ、紀元前五百四十年ノ頃ノ人ナリ。大約一千四百許ノ悲歌ヲ作ル。左レド今ヒヒテ傳ハラズ。只アレト（後ニ在リ）及ヒ其他ノ希臘史家、哲學者ノ書中ニ散在スルヲ以テ之ヲ窺フヲ得ルノミ。後平民黨ノ爲メニ國ヲ逐ハレ、ユーピア、西々里ヲ遍歴シ、波斯戰ノ暫時前ニ至リテ、始メテ本國ニ歸ル



ヲ得タリ。氏ハ貴族の論者ナリ。常ニ言ヘテク、「貴族ハ善良ナル被造物ニシテ、平民ハ卑賤ナル被造物」ナリト。

フナシリヂ

ズ  
フナシリヂズ 紀元前五百四十年ノ頃、人ニシテ、亦道德的悲歌ノ作者ナリ。ミレタスニ住ス。其簡單ナル金言頗ル人氣ニ投合セリ。氏又數多ノ六韻脚詩ヲ作ル。今存スルモノ若干アリ。左レド其中「マキシムス」(金言ノ意)ト題スル二百三十句ノ詩ハ、紀元後一世紀ノ頃、アレキサンドリア府ニ住セシ一猶太人ノ僞作ナラントノ説アリ。

ゼノフアニ

ズ  
ゼノフアニーズ 紀元前五百十年ノ頃ノ人ニシテ、コロフアンアイオニアノ一府ニ住ス。悲歌的哲學ノ鼻祖ナリ。悲歌ニ由リテ哲學的思想ヲ表出セリ。氏ハホーマー前ニ在リヘシオツド同上ガ鬼神ニ不徳義ノ行爲アリトシタルヲ非難シ、且ツ言ヘテク、「斯ル妄誕ノ説ヲ流布シテ神徳ヲ潰ヤシヨリハ、寧ロ實説ヲ述ヘテ其功德ヲ傳フルニ如カズ」ト。氏ノ目的ハ俗詩ヲ排斥シ、詩歌ヲ改良スルニ在リ。而シテ其詩ハ古代希臘人ノ間ニ喝采ヲ博シタリ。

シオスノシ

モニヂズ  
シオスノシモニヂズ 悲歌的碑文ヲ作リテ以テ彼波斯戰ニ討死シタル希臘人ヲ弔セリ。句々皆華美ニシテ愛スベシ。然レトモ氏ハ悲歌ノ作者トシテヨリモ、樂詩ノ作者トシテ一層有名ナリ。後文樂詩ノ部ニ至リテ更ニ再ヒ詳叙スベシ。

ヒポナツク

ス  
ヒポナツクス 紀元前五百四十年ノ頃ノ人ナリ。エフエサスニ住ス。退去ノ命ヲ蒙リテ、クラヅメテアイオニアノ一部ニシテイニ移轉シ、頗ル貧困ヲ極ム。人ト爲リ短小醜陋。曾テ一彫刻師ノ爲メニ戯畫ヲ書カル。是ニ於テ珍奇ナル跽跛ノ短長歌ヲ作リテ甚ク彼レ等ヲ嘲笑シ以テ其讐ヲ報セリ。此詩最モ世ニ稱セラル。

樂詩

樂詩(リ、ツク、ポエトリー) 近世普通ノ意味ヨリ言ヘバ、樂詩トハ、音樂ニ和シテ謠フコトヲ得ルモノヲ云フ。然レトモ希臘ノ樂詩ハ獨リ音樂ニ和シテ謠フコトヲ得ルノミニ止マラズ、音樂ト分離スルコト能ハザルナリ。何トナレバ、希臘ニ於テハ詩(ポエトリー)ト音樂(ミウジツク)ト相合シテ一語ヲ組成シタルレバナリ。左レハ希臘ノ樂詩家ハ皆必ラス多少音樂ニ達セザルヲ得ザリキ。

八音ノ發明

希臘ノ琴ハ當初四絃ナリシガ、紀元前六百六十年ノ頃ターペンダーナル者出テ、之ヲ七絃ニ改メ、始メテ音樂ニ一大紀年ヲ與ヘタリ。而シテ氏ガ七絃琴ヲ作リシハ八音ヲ發見シタルニ由リテナリ。斯ク言ハハ或ハ疑問ヲ起スナラン。八音ヲ發見シタルニ七絃琴ヲ作リシ

トハ何故ゾト。此疑問ハ一應尤ナルニ似タリト雖モ、元來第八音ハ單ニ第一音ヲ反覆スルニ過ギサルガ故ニ、七絃ヲ以テ全音階ヲ悉ク表出スルヲ得ルナリ。爾來希臘人ハ三種ノ主部調名ト四種ノ從部調名トヲ區別シ、七絃琴ヲ以テ此七調名ニ合ハセヨリ。又此主部調名ト從部調名トノ區別ハ、今ノ西洋音樂ニ所謂長音階ト短音階トノ區別ニ同シク、調名ト調名トノ差ハ今ノ八音中ノ半音ト同シ。

又ドリアン調名(今ノ短音階)ト、フリジア調名(亦短音階ニ屬ス)ト、リーヂア調名(長音階)トアリ。ドリアン調名ハ、熱心ヲ顯ハシ若クハ戰爭ノ狀態ヲ述フルニ適シ、フリジア調名ハ、喜怒哀樂ノ情ヲ述フルニ適シ、リーヂア調名ハ優美ナル人情ヲ述フルニ適ス。

エオリアノ樂詩

エオリアノ樂詩 レスボス島ニ住スルエオリア人ハ、夙ニ音樂ト樂詩トヲ以テ名アリ。傳ヘ聞ク、音樂師オルフェアスガスレーズノ醉客等ノ爲メニ寸斷セラレシ時、醉客ハ其首ヲ斬リテ、琴ト共ニヘブラス河ニ投シタリシカド、首ハ僧美妙ナル唱歌ヲ其口ヨリ絶タズシテ、レスボスナルアンチツサノ海岸ヲ漂漾シタルニツ、同地ノ人ハ之ヲ取リテ近傍

ニ埋葬シ、又ソノ琴ハアポロノ神社ニ納メタリト云フ。推シテ以テエオリア人ガ音樂ニ巧ナリシヲ知ルベキナリ。只ソノ土音ハソノ數稍々少ナク、且ツ粗暴ナルヲ以テ優美ナル音樂ニ適セズ。隨テドリアンノ樂詩ノ如ク一般ノ人氣ニ投合スルヲ能ハザリキ。今エオリア樂詩家中ノ重モナルモノヲ擧クレバ左ノ如シ。

アルケアス

アルケアス ミヤレンニ住セシレスボスノ華族ニシテ、紀元前六百十一年ノ頃ニ生レ、同五百八十年ノ頃ニ死セリ。レスボスノ華族ト平民トノ間ニ爭テ生シタルニ當リテ、并ニレスボスト雅典トノ間ニ戰ヲ交エタルニ當リテ、一方ノ首領タリ。平民黨ノ一人ナルピツタカスガ、レスボス島ノ總督ニ任スルニ及ヒテ、島外ニ逐ハレ、東洋ニ留マルヲ數年。後本國ニ歸ルヲ得タリ。

著ハス所、神歌、政歌、戰歌、戀歌アリ。今殆ント存セズ。

サツフナ

サツフナ 紀元前六百十年ノ頃ニ生活ス。詩才ニ富ミ、愛美ノ念ト形聲均整ノ感情トヲ吟咏スルヲ長シタル婦人ナリ。抑モアイオニア種ニ屬スル希臘人ニ在リテハ、婦人ニシテ詩歌ニ長シタル者ハ一モアルヲナク、エオリア種若クハドリアン種ノ婦人中ト雖モ、サ

ツフチヲ除クノ外、詩歌ニ託シテ思想感情ヲ表出シタル者アルヲ聞カズ。紀元前五百九十六年ノ頃、鄉里ミチレンヲ去リテ西々里ニ到リ、同地ニ晩年ヲ送レリ。著ハス所今多ク傳ハラズ。

アナクレオン

アナクレオン アイオニア海岸ノ一府テオスノ人ナリ。紀元前五百三十年ノ頃ニ生活ス。主トシテ、アイオニア語ヲ以テ吟咏セリ。然レドモ樂詩ノ資料ト体裁トニ至リテハ、エオリア派ノ樂詩ニ似タリ。初メサモスノ擅制總裁ホリクレイツニ優待セラレ、又雅典ノ擅制總裁ビシストラタスノ子ヒツパーカスニ禮遇ヲ受ケ、其後セサリニ到リテ亦敬重セラレタリト云フ。氏ハ快樂ヲ咏スル詩人ナリ。戀ト酒ト音樂トヲ最モ好ミ、生涯平和安樂ニシテ、敬視スル人モナク、亦敬視セラル、人モナシ。著ハス所、今僅ニ神歌、戀歌、交際歌ノ少許ヲ存スルノミ。彼ノ氏ノ筆ニ成レリト稱スル「アナクレオンタ」ハ紀元前五百年ノ頃ノ偽作ナルヲ疑フベクモアラズ。

ドリアンノ樂詩

ドリアンノ生活ト、エオリア人ノ生活ト相似タル所アリ。即チ二者共ニ貴族武斷政治ノ下ニ棲息シタリト云フノ一事是レナリ。然レドモエオリア州ハソノ

人民浮薄過激ナルガ爲メニ動搖止ム時ナク、アルケアスノ所謂暴風雨中ノ船舶モ管ナラザリシニ、之ニ反シテ、ドリアン州ハ敬神保守ノ習慣ニ由リテソノ基礎ノ堅固ナルヲ大磐石ニ譬フベシ。左レバ、ドリアン共和國民ハ軍律ニ由リテ結合セル堅固ナル團體ニシテ各個人ハ皆國家ノ爲メニ一身ヲ願ミザルノ氣風ヲ養成セラレタルヲ以テ、其樂詩ノ如キモ亦凡テ公共心、愛國ノ衷情ヲ表出シ、彼ノエオリアノ樂詩ガ自己ノ感情ヲ述フルトハ頗ル逕庭アリ。

ドリアン詩ノ性質タル前陳ノ如シ。故ニソノ詩人モ一人々々ニ就テ言フ所ハ、アルケアス前ニサツフチ 同上二人共ニエノ如キ名家ヲ出スヲナシト雖モ、時々ノ詩人ヲ一括シテ考フル所ハ、歲月ノ經過スルニ從テ漸ク詩歌其物ノ進歩シタルヲ知ルヲ得ルナリ。

アルクマン

アルクマン 紀元前六百六十年ノ頃ニ生活ス。スパルタノ人ナリ。種々ノ神歌ヲ作ル其中ニハ神社參詣ノ行列中ニ謠ハルベキモノアリ。殊ニ處女ニ由リテ謠ハルベキモノアリ。鬼神ニ向テ健康ヲ與ヘンヲ乞フモノアリ。其健康ヲ與フベキ力ヲ有スルヲ讚美シタルモノアリ。結婚ノ歌アリ。戀歌アリ。氏ハ始メテ合唱樂詩ヲ改良セシ人ナリ。

ステシコラス 紀元前六百二十年ノ頃生活ス。西々里ナルヒメラノ人ナリ。本名ヲダ  
 ステシコラス。左レド其詩歌ニ巧ナルガ爲メニ、ステシコラスノ名ヲ得タリ。ステシコ  
 ラストハ「合唱連ノ元帥」ト云フ義ナリ。氏ハ合唱樂詩ヲ完成シ、又トロイ物語ノ如キ史  
 詩ノ範圍ニ屬スベキモノヲ、樂詩モテ述ヘタリ。世ニ傳フ。ステシコラスハ、詩ヲ作リテ  
 此頃女神ト爲リシヘレンヲ誹リシガ爲メニ、其怒ニ觸レテ明ヲ失ヒシガ、後前言ヲ改メシ  
 ニ由リテ再ヒ明ヲ得タリト。願フニ後人ノ作話ナラン。

アリオン

紀元前六百年ノ頃ニ生活ス。其出生地ハレスボス島ナルモ、其技藝ニ於テ  
 ハ、寧ロドリアン派ニ屬セリ。氏ノ一大事業ハ、ダイオナイサス

酒ノ神ナリ第二篇雅典ノ文學ニ  
第一章戯曲ノ部ヲ參看スヘシ

合唱神歌ヲ捧呈シタル事トス。ソノ歌ハ今傳ハラズ。今現存スルハ、海神ポセイドンニ  
 宛テタル詩ノ碎片ノミ。同詩ハアリオンガ海上ニ於テ路ヲ失ヒタルニ當リテ、ポセイドン  
 ノ從僕タル數多ノ海豚ノ爲メニ嚮導セラレ、安全ニ上陸スルヲ得タルノ頃末ヲ叙述セルモ  
 ノナリ。世或ハ傳フ。當時惡シキ水夫等ハアリオンヲ海中ニ投シタルモ、偶々數多ノ海豚  
 氏ノ名吟ニ感動シ、遂ニ氏ヲ助ケタリト。左レド固ヨリ信ヲ置キ難シ。

イビカス

紀元前五百四十年ノ頃ニ生活ス。南伊太利ナルレシアマノ人ナリ。合唱神  
 歌ヲ作り、勇士ノ戰フ狀ヲ咏シ、史詩的樂詩ヲ作り、戀歌ヲ作レルナド、詩人トシテハ、ス  
 テシコラスト酷ダ相似タリ。口碑ニ據ルニ、氏ガ海上ヲ航スルニ當リ、數多ノ鶴群遙カニ  
 追ヒ來リテ之ヲ殺シタリ。蓋シ神罰ナリト云フ。ソノ眞偽ハ固ヨリ保セザレド、此古事ヨ  
 リ「イビカスノ鶴」ト云ヘバ、神ニ代リテ罪スルモノ、義トハナレルナリ。

波斯戰ノ結果

波斯戰ノ起ルヤ、希臘人ハ始メテ各州一体ト爲リテ外敵ニ抗シ、遂ニ寡ヲ以テ衆ヲ逐ヒ斥  
 ケシカバ、是レヨリ國內益々安寧ニ、都會ノ地ハ益々繁昌ヲ極メ、西々里ニ、亞細亞ニ、  
 其他到ル處ニ散在スル希臘人ヲシテ、我レ々々ハ皆利害ヲ均フスル一体ノ人民ナリト  
 ノ感情ヲ喚起セシメタリ。之ヲ同戰ヨリ生シタル結果ノ一ト爲ス。更ニ又他ノ結果アリ。  
 雅典ヲシテ頓ニ希臘各都府中ニ於テ最モ強盛ニ、最モ名望アル都府タラシメタル事是レ  
 ナリ。抑モアツチカ即チ雅典ノ人ハ、アイオニア人種中ノ最モ英才ナルニ、搗テ、加ヘテ  
 今政治上ニ於テ要地ヲ占メタレバ、隨テソノ英才モ俄カニ長足ノ進歩ヲ爲スコトハ爲リヌ。  
 シオスノシモニダズ アイオニア島中シオスノ人ナリ。紀元前五百五十六年生レ、

形ハドリ  
 的ニシテ  
 精神ハ家  
 的ナル樂  
 詩

シオスノシ  
モニダス

同四百六十八年死ス。ヒツパーカスノ治世ニ、雅典ニ住シ、後セサリニ到リ、同四百七十八年ノ頃、復ビ雅典ヲ訪ヒ、最後ニ、シラキユースノ擅制總裁ヒエロンノ朝ニ事ヘリ。氏ノ雷名ヲ轟カセシハ實ニ波斯戰ノ時（紀元前四百八十年ヨリ同四百七十八年ニ至ル）ニ在リ。氏ハドリアン語ヲ以テ數多ノ樂詩ヲ作りタレバ、樂詩ニ關シテ言フハ、ドリアン合唱派タリト雖モ、本來アイオニア出生ノ人ニシテ、アイオニア語ヲ以テ數多ノ悲歌ヲ作り、而カモソノ雷名ハ雅典ノ令聞ト密着ノ關係ヲ有セリ。二者共ニ波斯戰ニ際シテ名聲ヲ博シタルヲ云フナリ是レヲ以テ氏ノ一身ニ就テ考フルハ、アイオニアノ天才ト、ドリアンノ技藝ト雅典ニ會合シタリト言ハザルベカラズ。又氏ハ一ノ新紀年ヲ作りタルモノト言ハサルベカラズ。何トナレバ、其源ヲ將來希臘智力ノ中心タルベキ雅典ニ發シツ、希臘全國ニ宛テタル樂詩家ノ嚆矢ハ實ニ氏ナレバナリ。

氏ノ著作ハ今ソノ碎片ヲ存シ、完璧ノモノハ凡テ傳ハラズ。コノ碎片ヲ閱スルニ、神歌アリ。凱歌アリ。遊戲ニ勝テタル者ヲ咏スル絶句アリ。哀悼歌アリ。其他種々ノ樂詩アリ。殊ニセルマビレ及ヒサラミス軌レモ波ノ新戰ナリノ役ニ戰死セル者ヲ弔スル悲歌巧妙極ム。然レト

モソノ妙絶佳絶ト稱スベキハ、ダテアト稱スル一女子ヲ弔スル哀悼歌ナラン。ダテアハ其父アクリシアスニ別テ告ケ、幼兒バ；セアスヲ抱キテ海上ヲ航シ、懸テ一天磨墨ヲ流スガ如ク、暴風雨ノ起ルニ當リテ、幼兒ノ熟睡スルヲ咏メツ、船中ニ獨坐セリ。

バクシライ  
ヅ

バクシライヅ シモニダスノ甥ナリ。叔父ト同シク、ヒエロンノ朝ニ事ヘ、合唱樂詩ヲ作ル。今存スルモノ多シト雖モ、皆僅カニ碎片ニ過ギズ。

ピンダ

ピンダ 紀元前五百二十二年ノ頃、ポーシアナル齊武近傍サイノセフアレア村ニ生ル。彼ノ上世スパルタ戰ニ關係セシエーシデアト稱スル舊家ノ苗裔ナリ。故ニ其成長ノ地ハエオリアナルモ、其血統ニ於テハ、ドリアン人ト言ハザルヲ得ズ。家世々吹笛ヲ善クス。是レ當時希臘ノ貴族ハ音樂ヲ以テ神授ノ貴藝ト爲シテ之ヲ修メタレバナリ。傳ヘ聞ク、氏ハ少壯ノ時、齊武ノ女詩家コリンナト競争シテ敗ヲ取リタレハ、其後一心ヲ籠メテ齊武鬼神傳ヲ詩ニ咏シ、之ヲコリンナニ示セシニ、コリンナ一讀シテ其浮華ニ過キタルニ驚キ、「子ヨ、手ヲ用ヰテ詩カレヨ。囊ヲ用ユルコ勿レ」ト言ヒシト。其後ハミオンノ音樂師レサスニ就テ音樂ヲ修メ、二十歳ノ時、一絶句ヲ作りテセサリノ少年ガ競技ニ勝利ヲ得

タルヲ祝セリ。之ヲ氏ガ詩歌ヲ以テ名ヲ顯スノ端緒ト爲ス。爾來漸ク上達シテ遂ニ希臘全國第一ノ樂詩家ト爲リ、到ル處尊敬セラレザルハナキニ至レリ。紀元前四百四十三年死ス。享年七十九歳。

著ハス所頗ル多ク、各種ノ樂詩殆ント皆作ラザルハナシ。今ソノ現存スル碎片ヲ擧レバ左ノ如シ。

(一) 神ニ對スル讚美歌　ヘルスフチンニ宛テタルモノ、運命ノ神ニ宛テタルモノ、齊武及ヒ同國ノ諸神ヲ讚美シタルモノ。

(二) 凱歌　デルフアイノアポロニ捧ケタルモノ、及ヒトドマノジウスニ捧ケタルモノ。

(三) 合唱頌德歌(コーラル、ゲシラム)　ダイオナイサスニ捧ケタルモノ。

(四) 行列歌(アロセツシヨナル、ソング)　テロス及ヒエーヅナノ人民ノ爲メニ作リシモノ。

(五) 處女ノ爲メニ作レル合唱歌(コトラル、ソング)　アーカデアノ君バンニ宛テタルモノ。

(六) 合唱舞蹈歌(コーラル、ダンス、ソング)　活潑ナル舞蹈又ハ默戲(ダンマリ)ニ伴フモノナリ。

(七) 人ニ對スル讚美歌(エンコミア)　人ヲ讚美シタル歌ニシテ、祝宴ノ際ニ軍士ノ諺フベキモノナリ。

(八) スコリア　同上。

(九) 哀悼歌　合唱舞蹈ノ際當ニ合セテノ諺フベキモノ。

勝利ヲ祝スル絶句

右九種ノ碎片ノ外、他ニ四十四篇ノ全備セル「エピニシア」即チ勝利ヲ祝スル絶句アリ。皆國祭競技ノ際ニ勝利ヲ得シ者ヲ祝シタル歌ナリ。而シテソノ中十四篇チオアリムピア祭ニ於ケル競技ヲ祝シタルモノト爲シ、十二篇チデルフアイナルアポロ祭ニ於ケルピシアン競技ニ勝ヲ制セル者ヲ祝シタルモノト爲シ、七篇ハ子メアナルジウス祭ニ於ケル子メア競技ニ屬シ、十一篇ハコリンスノイスマスナルポセードン祭ニ於ケルイスマス競技ニ屬ス。是レ等ノ諸絶句ニ於テ、其最モ舊キ者ハ、紀元前五百二年第十ヒシアン祭ニ作リシ者ニシテ、最遲キ者ハ、同四百五十二年第五オリムピア祭ニ作リシモノナリ。抑モピシアンハ希臘詩人中ニ在リテ、最高地位ヲ占メタル者ノ一人ニシテ、ソノ名聲ハ今日ニ輝キ、不朽ニ傳フ。然リ而シテ氏トシモノチズトハ、樂詩ノ範圍ヲ廣クシ、ソノ体裁ハドリアン風ナルモ、ソノ精神ハ希臘全國ノ人ニ適合セシム。以上ハエオリア人、ドリアン人ノ韻文ヲ擧ゲタルモノナリ。爾來物換リ、星移リ、雅典ニ文學起リテ他州ヲ壓倒スルニ至レリ。請フ次篇之ヲ説カン。

# 第二編 雅典ノ文學

## 第一章 戯曲

### 悲哀戯曲家

エスキラス 紀元前五百二十五年生レ同四百五十六年死ス  
ソフテクリス 同四百九十五年生レ同四百五十五年死ス  
ユーリピデス 同四百八十年生レ同四百六十年死ス

### 古滑稽戯曲家

アリストファニス 同四百四十八年生レ同三百八十五年死ス  
中古滑稽戯曲 同三百九十年ヨリ三百二十年ニ至ル  
新滑稽戯曲 同三百二十年ヨリ二百五十年ニ至ル

雅典人ノ性質并ニ其國語

雅典人ハアイオニア人種ニ屬スト雖モ、自ラ一種固有ノ性質ヲ備フルヲ以テ、小亞細亞殖民地ノアイオニア人ト同シカラス。然ラバ如何ナル處ガ異ナリヤト云フニ、乙ハ柔弱ナルモ、甲ハ然ラザレバナリ。今左ニ之ヲ説カン。

アリストーツル本第三三章ニ在リ曰ク、「希臘人ノ性質ハ同國ノ氣候ト同シク、幸ニモ東西兩隣人ノ中間ニ位シ、剛毅ナル歐羅巴人ニ比スレバ稍々機敏ニ、狡猾ナル亞細亞人ニ比スレバ稍々丈夫然タリ」ト。此比較ハ之ヲ雅典人ト他ノ希臘人トノ區別ニ應用スルヲ得ベシ。蓋シ雅典人ハ、アイオニア人ノ如ク忍耐洒落ナルモ、其柔弱ナルニ似ズ。又ドリクス人ドリアン人ト譯シ下放ノ如ク勇敢熱心ナルモ、其頑固ナルニ似ザルナリ。雅典ノ國語ハ恰カモ雅典人ノ性質ニ均シ。能ク優美閑雅ナルモ無氣力ニ失スルコトナシ。左レバ雅典人ハ、アイオニアノ史詩ト、ドリクスノ樂詩トヲ混和シテ、面白ク且ツ入組ミタル新體詩ヲ作レリ、即チ戯曲是レナリ。

### 戯曲ノ起源

戯曲ノ起源 希臘人ハ上古ヨリ夙ニ男女諸神宇宙間ニ存在ストノ概念ヲ起シ、此諸神ハ人力ノ遠ク及ハザル神通力ヲ有スト雖モ、亦人類ト同シク、喜怒哀樂ノ感情ニ支配セラレ、惡念、徒黨心ノ爲メニ苦メラル、モノトナスガ故ニ、益々宗教海ニ沈ムニ從テ、益々鬼神ノ喜愛ヲ体認セサルヲ得ズ。然リ而シテ此精神ノ中ニ就テ、人類ニ同感ヲ生セシムルコトノ最モ剴切ナルハダイオナイサスパスカスト云ヘル神ニテ一説ニ埃及ニ生レ亞刺伯ニ教育ヲ受ケテ人ト爲リタル古昔ノ戰勝者立法者ナリト云フ死シテ神ニ祭ラレタル者ナリ葡萄培養ノ法、葡萄酒、蜂蜜ニ如クモノナシ。ダイオナイサスハ酒ノ神ニシテ、人身ニ快製造ノ法、航海通商農業等ヲ教ヘタリ

樂ヲ與へ、精神ヲ活潑ニシ、苟クモ精神ヲ昏迷セシメ、之ヲ鬱悶セシムルモノニハ、之ニ敵對シテ一步モ假貸セズ。又生前此神ニ事フル者ハ、死後美酒ノ充滿スル場所ニ至リテ、自在ニ之ヲ味フヲ得ベシト云フ。

夫レ斯ノ如ク、此神ハ人類ニ其希望スル所ノモノヲ與へ、其嫌忌スル所ノモノヲ防クトノ說、希臘人ノ間ニ一般ニ行ハル、ヲ以テ、希臘人ノ之ヲ信仰スルコトモ亦隨テ他神ノ比ニアラズ。毎歲葡萄收納ノ時來レバ、此神ノ祭禮ヲ行ヒ、十二月ヨリ翌年二月ニ至ル迄、四回ニ分チテ歡樂ヲ極メ、(但シ第二回以下ノ祭禮ハ雅典ニ於テ之ヲ營ミ、初回ハ村落ニ於テ之ヲ營メリ。)又此祭禮ノ際ニ、數多ノ信者ハ祭壇ノ周圍ニ集リテ、神功中ノ著シキモノヲ擧ケタル拙劣ナル讚美歌ヲ謠ヘリ。世ニ傳フ。ダイオナイサス各地ヲ遍歴スルニ當リテ、セータート名クル半人半羊ノ神ヲ隨ヘリト。今此信者輩ハ、ダイオナイサスノ功德ヲ謠フノ際、知テズ識ラズ己レ等ハセーターナリトノ想像ヲ起シ、ダイオナイサスノ勝利ト艱難トヲ目撃セシカノ如クニ喋々スルニ由リテ、益々同神ヲ親クニ至レルモ、亦自然ト云フベシ。

而シテ同神ノ功績ヲ一層明瞭ニ想像シ得ントノ熱心ヨリ、更ニ一步ヲ進メテ、合唱連ノ先達ハ自ラ同神若クハ其使者ニ扮シ、先ツ同神ノ功績ト其遭遇シタル危難トヲ演述スレバ、次ニ其他ノ合唱連ハ此演述ニ感動シタルノ意ヲ歌謠ニ表示ス。是ニ於テカ始メテ戯曲ノ嫩芽生ス。辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、史詩ノ如ク單ニ物語ヲ爲スノミニ止マラズ、兼テ所作ニ顯ス所ノ詩ヲ生ス。而シテ斯ル機會ニ歌ヘル齊聲ノ讚美歌ヲダシラム即チ頌德ノ詩ト云フ。悲哀戯曲并ニ滑稽戯曲ハ此ダシラムノ發達シタルモノナリ。

悲哀戯曲及  
滑稽戯曲

悲哀戯曲ノ原語ツラジデーハ「山羊謠」ノ義ニシテ、滑稽戯曲ノ原語ユメヂ

「ハ」村謠」ノ義ナリ。其故如何ト云フニ、當時齊聲ノ讚美歌ヲ謠フニ先チテ、一匹ノ

山羊ヲ犧牲ニ供シタルガ故ニ、之ヲ山羊謠ト名ケ、又他ノ点ヨリ觀察チ下スニ、此讚美歌

ハ村落風ノ滑稽ヲ包含スルガ故ニ、之ヲ村謠ト名クルナリ。諸此謠、當初ハ頗ル粗末ヲ極

メタリシガ、アリオント云ヘ、詩人兼音樂師紀元前六百二十五年ノ頃ニ生活スレス始メテダシラム

ヲ正式ノ樂詩体ニ改メ、堪能ノ者五十人ヲ擇ヒテ一組ノ合唱連ト爲シ、祭壇ヲ環繞シテ謠



ハシムルト爲セリ。故ニ之ヲシクリツク即チ圓坐合唱ト云フ。  
セスピス  
ダイオナイサスヲ讚美セル合唱改良ノ第一着歩ハ、ドリス人ノ間ニ行ハレタルモ、第二着

歩ノ改良ハ雅典ニ行ハレタリ。而シテコレヲ行ハレシメタルノ功ハ、コレヲセスピスニ  
歸セザルヲ得ズ。セスピスハ紀元前五百三十六年ノ頃ノ人ニシテ、デシラム合唱連ノ長ナ  
リ。抑モ從來ダイオナイサスノ功德等ニ關シテハ、合唱連ノ長ト合唱連全体ト互ニ相對話  
スルコトナリシニ、セスピス之ヲ改メテ長ト合唱連中ノ一人ト對話ヲ爲スコトニ定メ、又此一  
人ハ豫メ指名シ置クコトニ定メ、長ハ高壇ノ上ニ立テテ合唱ノ歌間ニ此一人ニ向テ話シ掛ク  
レハ、此一人之ヲ答辨者アンスアラシト名ク希臘語ニヒボクリテスト云フ此ハ之ヲ接遇フコト爲セリ。之  
ヲ俳優ノ矯矢ト爲ス。

フリニカス  
フリニカス 紀元前五百二十二年生レ、同四百七十六年死ス。雅典ノ人ナリ。氏ノ仕組  
ニ於テハ猶俳優前記ノ合唱連長ト對ハ一人ニ止マレド、合唱連ノ組織ニ改良ヲ加ヘテ、時々之  
ヲ小人数ノ數組ニ別チ、一ハ處女ノ一群ヲ代表シ、他ハ長者ノ一群ヲ代表スル等ト爲セリ。  
著ハス所多シ。

セーター戯  
セーター戯 セーター即チダイオナイサスノ從者タル半人半羊ノ神前ニハ、此頃ニ至ル

モ猶希臘人ノ爲メニ崇拜セラレタレバ、合唱歌ノ益々改良ヲ加ヘ、益々巧妙ヲ増スニ及ヒ  
テ、之ヲ演スルガ爲メニ別ニ滑稽戲ヲ設ケ、此滑稽戲ニ於テハ、舊時ノ如ク合唱連全体悉  
ク之ヲ代表セリ。雅典ノコエリラス(紀元前五百二十四年生レ、同四百六十五年死ス)ハ、  
「セーター戯ノ王」ト稱セラレ、又フキリアスノドリス人アラチナス(紀元前五百年生レ、  
同四百六十年死ス)雅典ニ來リテ亦益々之ヲ改良シタリ。

悲哀戯曲眞正ノ鼻祖エスキラス 紀元前五百二十五年生レ、同四百五十六年死

悲  
正  
ス  
キ  
ラ  
ス  
ス  
キ  
ラ  
ス

ス。雅典有名ナル詩人ナリ。父ヲユーフナリオント云フ。舊家ナリ。マラト十二哩ノ地ナリ  
紀元前四百九十年雅典ノ將ミルサラミスアツチカノ東ニ當レル島ナリ紀元前四百八十年アラテアホーシアノ府ナ  
チアテス波斯ノ軍ト茲ニ戰フ。雅典ノ將セミストクルス波斯ノ軍ト茲ニ戰フ。紀元前四百七  
十年スバルタノ將ホーサニアススバルタ及  
ヒ雅典ノ軍ヲ率フテ波斯ノ軍ト茲ニ戰フ。戰ニ、エスキラス、雅典軍中ニ在リテ武勳ヲ顯ハス。然  
レドモ氏ノ名聲ノ天下後世ニ轟ク所以ノモノハ、其軍人タリシガ爲メニアラズシテ、詩人  
タリシガ爲メナリ。二十五歳ノ時、即チ紀元前五百年アレチナス希臘ノ詩人ナリ悲哀戯曲十八、  
同フト懸賞悲哀戯曲ニ就テ競争ヲ試ム。然レドモ氏ノ眞ニ勅敵トスル所ハ、ブレチナスニ

アラズシテ、フリニカス前ニナリ。何トナレバ、フリニカスガ戯曲ヲ改良シ、其面目ヲ一新シタルハ、此前後ノ事ナレハナリ。左レバ、エスキラスガ戯曲改良ニ着目セシ時ノ「悲哀戯曲」ナルモノハ、近世ノ神樂ニ稍々類似セルモノニシテ、只一人ノ俳優舞臺ニ登リテ、時々合唱歌ト音楽トノ歌間ヤミニ臺詞セリフヲ述ヘ、又ハ此俳優ト合唱連長ト掛合ウケアヒヒノ臺詞ヲ述ブルノ仕組ナリキ。氏是ニ於テ第二ノ俳優ヲ舞臺ニ登ラシムルコトニ改メ、俳優ト合唱連長トノ掛合ヲ廢シ、兩優交互ニ臺詞ヲ述ヘ、戯ヲ演スルコト爲シ、合唱歌ハ只俳優ノ口ニシ能ハザル所ノ感情ヲ歌フテ以テソノ不足ヲ補フコト爲セリ。故ニ從來合唱歌ハ主ニシテ、臺詞ハ從ナリシモノヲ、今ハ臺詞主ニシテ、合唱歌却テ從ト爲リ、斯クテ戯曲ハ漸ク成年ニ達スルヲ得タリ。何トナレバ、充分ナル脚色ヲ看客ノ目前ニ現ハスヲ得タレハナリ。エスキラス九十種ノ悲哀戯曲ヲ作ル。今存スルモノ七種アリ。左レド先ツ希臘演劇ノ性質ヲ説キ、然後之ニ及ホサン。是レ之ヲ理會スルニ便ナルニ由リテナリ。

悲哀戯曲

悲哀戯曲　ハ四ダイオナイサス祭中ノ三、即チ小祭、搾酒祭、大祭ノ節ニ之ヲ演ス。前ニ述ヘシ如クダイオナイサス祭ハ四回アリ十二月ニ小祭ヲ行ヒ一月ニ搾酒祭ヲ行ヒ二月ニ開花祭ヲ行ヒ三月ニ大祭ヲ行フ然レトモ、新狂言新悲哀戯曲ヲ演スルハ常ニ搾酒

祭、若クハ大祭ノ節ニ於テセリ。諸此祭禮毎ニ必ラス數多ノ悲体合唱歌ヲ要シ、又此費用ハアツチカ十種族アツチカハ雅典府ノ有ル國ナリ其人民十三種族ヨリ成ルナリノ撰擧セル人々之ヲ負擔シ、衣裳其他舞樂ニ關スル諸費ヲ支出ス。此費用ハ意外ニ多額ヲ要シ、一戯ヲ演スルニ殆ント百二十磅ニ及フコアリ。當時ノ百二十磅ハ今日ノ三千圓ニモ向フベキモノナリ。而シテ當初ハ悲哀戯曲家自ラ俳優ノ部分ヲモ勤メタリシガ、晩年ニ至リテ、俳優ハ一種専門ノ業務ト爲リ、其給料ハ國家ヨリ之ヲ支給スルコト爲レリ。

前既ニ述ヘシ如ク、セスビスノ時ニハ、一人ノ俳優舞臺ニ現ハル、ノ仕組ナリシヲ、エスキラスノ時、之ヲ二人ノ仕組ニ改メ、紀元前四百六十八年ソフナクリス後ニ在リ出テ、丙俳優舞臺ニ顯ハル、コト爲リテヨリ三人ノ仕組ニ改マリ、氏ノ晩年ノ戯曲オエヂマス、アツト、コロナスニ於テハ、丁俳優顯ハル、コト爲リテ又四人ノ仕組ニ改マリ、守兵從者等ノ如キ默止役(ミユート、パーソン)始メテ舞臺ニ顯ハル。コノ役ハ勿論丁俳優ノ任ト定マレリ。此頃ハ女優ナルモノナリ、女形モ男優ノ勤ムル所ナリシガ、女優ノ舞臺ニ顯ハルハ英王チャールス二世ノ時ヨリ始マレリ英國文學史ノ部ヲ參看スベシ若シ主人公ガ婦人ナルノ場合ニハ、合唱連ハ婦人ヨリ組織スルヲ通常ト爲セリ。

三悲哀戯曲  
四悲哀戯曲

ツリロジ― ハ三悲哀戯曲ノ集合ニシテ、テトラロジ―ハ之ニセーター戯ヲ加ヘタルヲ云フ。傳ヘ聞ク、エスキラス始メテ競賞ノ爲メニ主旨相聯絡セル三悲哀戯曲ヲ作り其大切ニセーター戯ヲ附加シテヨリ、茲ニツリロジ―及ヒテトラロジ―ノ模範ヲ立テリト。氏ノツリロジ―中、今現存スルモノハ獨リアガメンノンマイセ子ア王ニシテトロイ戰ノ大將タルアガメンノンノ事ヲ作りシモノナリナリ神酒奉納者ト云ヘル義ニテアガメンノンノ娘エユーメニデス雅典ノ貴族黨及ヒアレオパガスノ勢力ヲ維持セシムル目的ヲ以テ作りシモノナリ後ニ詳ナリノ三戯聯絡セルモノアルノミ。此三戯ハ通常之ヲ合稱シテ、オレステア即チオレステス譚ト云フ。然ントモ雅典人ハ、オレステス譚ナル名ヲ只コエフアリノミニ用ユルカ、否レバ、コエフアリト、ユーメニデストノミニ用ヰタリ。

希臘ノ劇場

希臘ノ劇場 當初ノ悲哀合唱歌ハ、木造ノ假小屋ニ於テ演シタレド、――多クハ市場ニ於テセリ――紀元前五百年エスキラスガ、プラチナスト競争ヲ試ムルニ及ヒテ、始メテ

稍々永續スベキ劇場ヲ造レリ。即チ有名ナルダイオナイサスノ劇場ニシテ、ダイオナイサス神社内ノ榨酒場ト名クル地ニ建設セリ。此劇場ハ半圓形ニシテ屋根ナク、舞臺英語ニ所謂ステージハ石造ニシテ、背後ニ黒色ノ高壁英語ニ所謂バックニ帯ヒ、二階榭敷ハ、アクロポリス天然産ノ巖石ヲ切リテ之ヲ造リ、下榭敷ハ人工ニ成レル木造若クハ石造タリ。又其範圍ハ頗ル廣キヲ以テ容易ク二万人以上ヲ容ル、ヲ得ベシ。現ニ大入ノ時ニハ、看客ノ數三万人以上ニ及ヒタリト云フ。悲哀戯曲ニ於テハ、背後ノ高壁ヲ掩ヘル帷帳若クハ木板ニ神社又ハ宮殿ヲ畫クヲ常トシ、滑稽戯曲ニ於テハ、雅典ノ市街又ハ私人ノ家ヲ畫クヲ常トス。又此高壁ニハ、俳優ノ出入スヘキ三箇ノ出入口アルナリ。

舞臺ノ中央ニ二三ノ段階アリテ、奈落我カ邦語ニテ言フナリ左レド我カ奈落トハ異ナリ英語ニテハピットト云フニ昇降スルヲ得ベカラシム。希臘人ハ、此段階ヲシヤロンノ段階ト名ク。幽霊ノ出没スル處ナルヲ以テナリ。又奈落ヲオーチエストテ即チ舞踏場ト名ク。舞臺ト下榭敷トニ環繞セラレタル場ナリ。此場ニハ看客ノ入ルヲ許サズ。全ク合唱連ノ爲メニ設ケタルモノナリ。又ソノ中央ニ祭壇アリ。ダイオナイサスノ祭壇ト名ク。合唱舞踏ノ中心點ト爲ルナリ。舞踏場ニ接近スル下榭場ニ、白色ノ大理石モテ造レル六十七箇ノ座席アリ。僧侶若クハ官吏ノ爲メニ設ケタルモノナリ。而シテ通路ニ由リテ之ヲ十三ニ區畫ス。此通路ハ、全場ヲ區畫シ、斯クテ劇場ヲ十三分セリ。

希臘悲哀戲曲ノ看客ヲ感動スル要件

希臘ノ悲哀戲曲ニ於テ看客ヲ感動スルニ要スル條項ハ、近世西洋ノ演劇ニ要スル條項ト同シカラズ。近世ノ要件ハ英國文學史ノ部ニ詳ナリ今當時ニ要スル條項ハ、大畧二様ニ外ナラザルガ如シ。(一)外題ハ全看客ガソノ大意ヲ知ルモノニ限ルベシ、且ツ「アリガタキ」話ニ限ルベシ。但シ「アリガタキ」話ニ限ル所以ハ、劇中ノ人物ガ鬼神ナルカ、否ラザレバ、同胞中ノ英雄ナルニ由リテナリ。(二)舞臺上ニ於テハ、活潑ナル舉動ヲ爲ササルベシ。諸二三ノ俳優ガ舞臺ノ上ニ現ハレタル状態ハ、宛ナガラ嚴然タル肖像ノ並立スルガ如ク、各々假面ヲ被レリ。是レ一ニハ希臘ノ悲哀戲曲ヲシテ靜肅ヲ旨トシ、威風ヲ保タシメンガ爲メニ、又一ニハ如何ニ活潑ナル舉動ヲ爲ストモ、斯ル廣大ナル場所ニ於テハ、到底看客一般ニ充分ニ見セシムルヲ能ハザルヲ以テ斯クハ爲シツルナリ。又オエヂパス王ソフナクリスノ作ナリ後ニ詳ナリノ如キ演劇ニ於テハ、本來オエヂパスハ自ラ其眼ヲ抉リ出スナレド、舞臺ノ上ニ之ヲ演スル能ハザルガ故ニ、一人ノ使者出テ、抉眼ノ顛末ヲ口演スルヲト爲シ、爾後オエヂパス王ハ前幕ニ用井シ假面ト異ナレルモノヲ被リテ舞臺ニ現ハル、トト爲セリ。又悲哀戲曲ヲ演スル俳優ハ、常人ヨリモ偉大ニ見エシメンガ爲メニ、悲

悲哀戲曲ノ結構

悲哀戲曲假面ト稱スル長キ假面ヲ被リ、大ナル鬘ヲ着ケ、厚底ノ長靴ヲ穿クヲ常トセリ。  
**悲哀戲曲ノ結構** 合唱連ノ出ルニ先チテ第一回ノ對話ヲ爲ス、之ヲ開言プロ、グ(プロ、グ)ト云ヒ、合唱連、舞踏場ニ出テ、各自ノ座席ニ就キテ先ツ歌謠スル、之ヲ(パロドス)ト云ヒ、其後歌謠スル、之ヲスタシモント云フ。註又ハ歌ノ註解ノ義ナリトハ兩スタシモン間ニ演スル一部ノ演劇ヲ云ヒ、エクスダス退去ノ義ナリトハ乙スタシモンヨリ最後ニ至ル迄ノ演劇ヲ云ヒ、コムマストハ舞臺上ノ俳優ト、舞踏場裏ノ合唱連ト共ニ關係スル哀悼樂詩ヲ云フ。又悲哀戲曲ハ合唱連ノ歌都合ニ由リテ、實際之ヲ四五段ニ分ツ。尤モ希臘ノ悲哀戲曲ハ、ソノ長短種々アリテ、最モ短キモノハ九百首以内ニ止マルモ、最モ長キモノハ千七百首以外ニ及フナリ。  
 今悲哀戲曲ノ結構ヲ容易ク理會シ得ンガ爲メニ一例ヲ舉ケン。例ハ、ダイオナイサス神ノ大祭日ニ、ダイオナイサス劇場開キタリト假定セヨ。看客ハ無慮二万五千人モアルベク、且ツ其内ニハ雅典ノ士女——婦人席ハ上層ニ在リテ男子席ト之ヲ分テリ——ノミニ止マラズシテ、他邦人ノ數モ頗ル多カルベシ。又舞踏場ニ密接セル場所ニハ僧侶官吏肩ヲ比ベ、

ソノ近傍ノ座席ハ各公使等之ヲ占ムルナラン。

諸演劇ノ外題ハ、エスキラスノユーメニテス前ニナリトセンニ、此場合ニ於テハ、舞踏場ハ、空虚ト爲リテ、一人ノ合唱者ヲ見ザルベク、背後ノ高壁ニハ、デルフアイナル、アポロノ神社ヲ畫ケルナルベシ。此時此高壁ニハ三箇茲ニ中央ノ出入口ロヤル、ドヨリアポロノ老巫衣裳ノ如何ハ煩ハ出テ來リテ、神社内ナル我カ部屋ニ赴カントス。此部屋ノ内ニハ、三脚ノ椅子ヲ安置セルアリ。是レハ老巫ノ座席ト知ルベシ。又此椅子ノ傍ニハ、洞穴中ヨリ水氣立チ上ホレリ。ソハ姑ク置キ、最前ヨリ此老巫ニ託宣ヲ請ハントテ符受ケタル巡禮者ハ急キ其傍ニ到リテ、何カ一二言耳語ケルニゾ、老巫ハ聞キ畢リテト先ツ禮拜所ニ入リヌ。

同モノク、恐レカ懼カキナガラニ出テ來リテ言ヘルヤフ、「那處ニ刺客潜メリ。其傍ニ之ヲ追來リシ若醒タル數多ノ幽靈眠レリ」ト。言ヒ畢リテ右方ノ出入口ヨリ引込ミヌ。入レ替リテ兩優中央ノ出入口ヨリ出テ來ル。孰レモ禮拜所ヨリ來レルカ如シ。其一人ハアポロ神ニ扮セルモノニテ、左手ニ黃金製ノ弓ヲ携ヘ、他ノ一人ハ歎願者ノ徵証トシテ、右手ニ長キ杖ヲ携ヘ、左手ニハ拔刀ヲ携ヘリ。是レハアガメンノンノ王子オレステスニ扮セルモノニテ、今ソノ母クリテーム子ストラヲ殺シテ父ノ讐ヲ復シ、追跡ノ嚴シキニ困道シテ、アポロ神ニ讒難ノ事ヲ嘆願スルトコロナリ。又此兩優ノ後ヨリ黙々進ミ來ルモノアリ。即チハームス神ニテ、其手ニ白細モテ飾レル傳令官ノ官標ヲ携ヘリ。アポロ、ハームスヲ見ルヤ否ヤ、オレステスヲ雅典ニ護送シ、女神アセンノ裁判ヲ乞ヘト命ス。總テクリテーム子ストラノ幽靈舞踏場ニ現ハレ、舞臺ニ登リ、歌多ノ幽靈ヲ呼ビ醒マシテ消エ失ス。幽靈等驚キ醒メテ周圍ヲ見廻スニ、オレステスハ既ニ逃ケ去リテ跡方ナカリシカバ、茫々ノ餘リニ、怒リテ舞臺中ヲ暴レ廻ル。アポロ神再ヒ現ハレテ彼等ヲ我カ禮拜所ヨリ追ヒ出シヌ。

舞臺ハ變ハリテ雅典ノ場ト爲レバ、茲ニ幽靈等ハ合唱連ト爲リテ舞踏場ニ座席ヲ占メ、合唱歌ニテ仇討ノ役目ヲ命セラレシ旨ヲ述フ。又アセン女神ハ、エールス山上ニ雅典人ヨリ成立テル裁判所ヲ開ク。有名ナルアレオバガスノ裁判所是レナリ。茲ニ幽靈等ハオレステスヲ訴ヘ、アポロハ辯護ノ勞ヲ執リシガ、結局判事ノ意見ハ兩様ニ別レ、各々同敬ナリシカバ、アセンハ議長決議ヲ以テ之ヲ放免セリ。是ニ於テ幽靈等ハ怒リテ雅典人ヲ脅カセシモ、アセンハ遂ニ幽靈等ヲ脱得シ、我カ領内ノ禮拜所即チエール山下ノ洞穴ヲ其住所ニ與ヘテ、之ニ満足セシメ、コレニテ一同和解シ、火把手ノ一行ハ幽靈等ヲソノ新宅ニ護送シ、茲ニ全劇ノ局ヲ結ヒヌ。

夫レ斯ノ如ク、希臘ノ悲哀戯曲ハ、合唱歌ト舞踏トヲ以テ其調子ヲ整ヘ、莊嚴簡單ノ間ニ宗教史、世俗史中ノ大人物ヲ押合フ看客ノ目前ニ顯ハシ、——アポロ神ガデルフアイナル我カ神社ニ在マスノ狀、アセン女神ガアレオバガス裁判所ヲ設立スルノ狀、幽靈等ガ山下ノ禮拜所ニ移住スルノ狀、勇士オレステスガ審問ヲ受クルノ狀ヲ顯ハスノ類是レナリ。——其畫ク所、最モ高尚ナル理想的ノ美麗ト、玄妙ナル現實——希臘人ノ爲メニハ——トヲ兼テ、其日常ノ生活ニ於テ最モ神聖トシ、最モ貴重スル所ノ儀式習慣ノ真正ノ起源——希臘人ノ心ヨリ言ヘバ真正ノ起源ナリ——ヲ目撃スルコトヲ得セシムルモノナレバ、當時ニ執リテ此上ナキ名作ト云フヘキナリ。

エスキラス  
ノ悲哀戯曲

エスキラスノ悲哀戯曲 希臘戯曲ノ大家ハ皆數多ノ戯曲ヲ作ラザルハナシ。左レハ  
エスキラスハ詩人トシテ四十年ノ星霜ヲ經過スル間ニ、七十種ノ悲哀戯曲ト、若干ノセ  
ター戯トヲ作り、ソフヲクリス後ニ在リハ百十二種ヲ作り、ユーリビデス後ニ在リハ九十二種ヲ作り、  
又或ル詩人ハ——此人ノ作ハ今碎片ノミ現存ス——二百四十種以上ヲ作りタリト云フ。諸  
エスキラスノ戯曲ハ今僅ニ七種ヲ存スルガ故ニ、左ニ逐次之ヲ略記セン。

(一)波斯(原名パーセニ) 紀元前四百七十二年世ニ出ツ。希臘人ガ波斯ノ大軍ノ來襲セ  
ルヲ邀ヘ撃テ大ニ之ヲ敗リ、非常ノ勝利ヲ博シタルヲ祝セルモノナリ。著者自ラ希臘  
軍中ニ加ハリテ、マラトニ、サラミスニ、アーテミシアムニ、プラテアニ戦ヒタレバ  
ソノ目覺マシキト、眞ニ迫レルトハ言フ迄モナク、進メ、希臘ノ著者ヨ、汝ノ國家ヲ自由ニシ汝ノ  
妻子ヲ自由ニシ汝ノ上世神靈ノ禮拜所汝ノ父祖  
ノ墳墓ヲ自由ニセヨ、ノ歌ニ連レテサラミス  
戰ニ出陣シ勝利ヲ得ル狀ナド最モ目覺マシソノ波斯王ダリアスノ靈魂ガ墓所ヨリ現ハレ出テ、  
同國ノ貴族等ニ向ヒ、此墟址ニ於テ鬼神ハゼルセス王ノ傲慢無禮ヲ罰スルナラント告  
クル所ナドハ勸善懲惡ヲモ其中ニ含マシメタルガ如シ。

(二)七アイゴ人對齊武(原名セブン、アゲンスト、セーブス) 紀元前四百六十八年世ニ  
出ツ。オエヂパス家世襲ノ神罰其兩子エテオクルス及ヒボリチーセスノ身ニ報ヒ來リ、  
アイゴ人ガアドラスタスノ下ニ齊武ヲ圍ムニ當リテ、兩人只一回ノ接戦ニ、互ニ相殺セ  
ル顛末ヲ作りシモノナリ。

(三)プロメシアス幽囚譚(プロメシアス、ハウンド) 著作ノ年月詳ナラズ。願フニ紀元  
前四百七十二年ヨリ同四百六十八年ノ間ニ在ラン。此戯曲ハ、プロメシアス神ガ粘土モ  
テ人ヲ造リ、之ヲ温メントテ天ヨリ火ヲ竊ミシガ爲メニ新神王シウスノ逆鱗ニ觸レ、其  
命ニ由リテコイカサス山上ニ縛セラレ、一羽ノ鷲日々來リテ其肝臟ヲ啄ム事ヲ記ルシ、  
プロメシアスハ、シウスノ王位ニ大關係ヲ有スル秘事ヲ知レルガ故ニ、之ヲ言ハシメン  
トテ、脅迫シ、拷問スルモ決シテ之ヲ白狀セズ。後シウスノ部下ニ屬セル數雷落ツルト  
共ニ全劇ノ局ヲ了ス。

(四)求婚者(サツプライアンツ) 紀元前四百六十二年ノ作ニシテ、埃及人ダナアスノ五  
十人ノ娘ガ其從兄弟即チ伯父ニシプタスノ子五十人ト結婚スルヲ避ケント欲シ、左リ迎  
之ヲ否マバ、辛キ目ニ逢ハンコヲ恐レ、父ト共ニ埃及ヲ逃レテ希臘ニ至リ、アイゴニ住

シ、アゴゴ王ベラスガスノ爲メニ款待保護セラル、ノ頓末ヲ綴リシモノナリ。

(五)(六)(七)アガメンノン。コエフアリ。ユーメニデス。氏ノ著作中ノ尤ナルモノナリ。

其死去ノ二年前ニ雅典ニ於テ公ニセラル。而シテアガメンノンニ於テハ、マイセチア王  
アガメンノンガ、トロイ戰ニ勝利ヲ得テ本國マイセチアニ凱旋スル事、皇后クリテーム  
チストヲノ爲メニ弑セラル、事ヲ叙シ、コエフナリ即チ「神酒奉納者」ニ於テハ、アガ  
メンノンノ娘ニレクトラガ侍婢等ト共ニ父王ノ墓前ニ供物ヲ爲シテ祈願スル事、ソノ祈  
願成就シ、オレステスアガメンノ王子マイセチアニ歸リテ、クリテームチストヲト、ソノ姦夫  
エーシスサストヲ殺シ、仇ヲ復スル事ヲ叙シ、ユーメニデスニ於テハ、前既ニ述ヘシ如  
ク、オレステス、幽靈ニ訴ヘラレシモ、アポロ之ヲ辯護シ、アセン之ヲ許セリ。

ソフナクリ

ソフナクリス。紀元前四百九十五年雅典近傍コロナス村ニ生レ、同四百六年九十歳ノ  
長壽ヲ以テ死ス。十五歳ノ時、適々希臘人ハサラミスノ大戰ニ波斯軍ヲ敗リテ、之ヲ驅逐  
シタリシカバ、ソノ功績ヲ不朽ニ傳ヘントテ相謀リテ記念碑ヲ建設シ、童子ヨリ組織セル  
合唱連ヲシテ其前ニ凱歌ヲ誦ハシメシメ、氏ヲ其長ニ撰ヘリ。爾來氏ハ有名ナル音樂師ヲ

ムプラスニ從テ學ヒ、紀元前四百六十八年エスキラスト悲哀戯曲ノ報賞ヲ争フ。時ニ二十

七歳ニシテ、エスキラストヨリ少カキ正ニ二十歳ナリ。是ニ於テアール雅典ノ立法官中ニハ或

ハ氏ヲ優レリト爲ス者アリ、或ハエスキラスト優レリトスル者アリテ中原ノ鹿執レノ手ニ

落ツヘキヤヲ決スルヲ能ハズ。依テシモン有名ナル大將ミルチヤードスノ子ニシテ雅典ノ將軍且ツ保守黨ノ首領ナリニ囑シ、他ノ九名

ノ將軍ト共ニソノ優劣ヲ決セシム。中原ノ鹿遂ニソフナクリスノ手ニ落チタリト云フ。

氏此時ヨリ終生ノ間、常ニ雅典人中ニ最モ名望アル詩人ナリ。而シテ第一等賞ヲ受ケタル

ヲ二十回ニ下ラズ。紀元前四百四十年十將軍ノ一ニ任シ、ペリクルス前ニ在リ雅典ノ總裁ナリト共ニサ

モスノ叛徒鎮定ニ從事セリ。願フニ此任官ハ雅典人ガ氏ノ詩才ヲ敬愛スルノ極、實務ノ才

モ亦此詩才ノ如クナラント信認シタルニ由レルナリ。雅典人ハ氏ノ天才、美貌、信心、温良

多幸ヲ見テ以爲ラク。鬼神ニ愛セラレタル人ナリト。ソノ思考スル所斯ノ如シ。ソノ之

ヲ信認スル亦宜ナリ。左レバ其死後ニ至リテモ、年々供物ヲ爲シテ之ヲ祭リタリト。

ソフナクリス詩作ニ從事スルヲ殆ント六十年。其間ニ作ル所ノ悲哀戯曲百種ニ下ラズ。然

レトモ今存スルモノハ僅ニ七種ノミ。ソノ外題ト結構トハ大畧左ノ如シ。

(一) ツラチニア即チツラチスノ婦女子。セサリーナルツラチスニ住スルデアテラ、ヘラクリスガアイオルニ戀着シタルヲ知リテ、之ニ半人半馬チツサスノ血チ塗りタル美服ヲ贈ル。是レソノ戀ノ符咒ナルヲ知ルモ、ソノ身体ニ有害ナルヲ知ラザレバナリ。然ルニヘラクリス之ヲ着用スルヤ否ヤ、忽チソノ毒氣ニ中リテ言フベカラザルノ苦痛ヲ感シケレバ、迎モ生命ノ助カラザルヲ知リテ、我カ子ヒラスニ命スラク。「我カ身体チオ」エタ山ノ頂上ニ運ビテ一堆ノ燒柴——火葬用ナリ——ノ上ニ置ケ」ト。ヒラス父ノ命、如クス。ヘラクリス此處ヨリ天火ニ裏マレ登リテ鬼神ノ群ニ入ル。

(或ハ云ク。本戯ハ稍々拙劣ナレバ、ソフナクリスノ眞作ニハアヲザラント。コハ無証ノ言ト云フベシ。成ル程、氏ノ他作ニ比シテ拙劣ナルヤモ謀リ難シ。然レドモ猶現存古戯曲中ノ最モ巧如ナルモノト一ニ加フルヲ得ルナリ。之ヲ氏ノ作ニアラズト云フハ妄モ亦甚シ矣シエア希臘文學)

(二) アシヤツクス。女神アセン、アシヤツクスノ傲慢ヲ罰ス。アシヤツクス憤怒ニ堪エズシテ精神錯亂シ、希臘ノ家畜ヲ屠殺ス。コハ是レ等ノ家畜チ各々希臘ノ首長ナリト誤想シ、且ツ是レ等ノ首長ハ、エチルスノ甲冑ヲオチシアス。エチルス及ヒオチシアスノ事ハ第一節第二章ホーマーノ著作チ叙スル處ニ詳

ナニ與ヘテ己レヲ輕侮シタリト誤想シタルヲ以テナリ。後本心ニ復リテ、此舉動ヲ頗ル耻辱ト爲シ、自殺ヲ行フ。

(三) エレクトラ。アガメンノンノ王子オレステス其ノ母クリティムチストラ及ヒ姦夫エーリスサスチ殺シテ父ノ仇ヲ復スルノ顛末ヲ叙述ス。其趣旨ハエスキラス著コエフナリ及ヒユーリビデス後ニ在リ著エレクトラト同シ。左レド甲ニ比スレバ、首尾整備シテ一層明瞭巧妙ニ、又乙ニ比スレバ、一層理想的華美ナリ。

(四) オエヂパス王(オエヂパス、セ、キング)。今現存スル希臘戯曲中隨一ノ傑作ナリ。ソノ結構ヲ言ヘバ、聰慧ニシテ深謀アルオエヂパスハ、スフキングスノ謎語ヲ解キテ齊武ガ其手ニ落ソルヲ救ヒシカバ、齊武人ハ其恩德ニ感シ、外國人ナガラモ、オエヂパスヲ王位ニ登セ、前王レリアスノ皇后チ娶ラシム。既ニシテ惡疫齊武市中ニ流行セルニ由リ、齊武人ハデルファイニ至リテ、惡疫驅除ノ神託ヲ巫女ニ請フ。然ルニ神託ニ「前王レリアスヲ弑セシ刺客ヲ齊武人中ヨリ搜シ出シテ之ヲ罰スベシ」トアリ。但シレリアス王ハ是レヨリ先キ、齊武、デルファイ間ノ路ニ於テ人知レズ殺害セラレタルナリ。左レバ、



オエヂパス王ハ此神託ニ從ヒ、熱心以テ探索ニ從事セシニ、當初ハ已レコソ不知不識ノ兇手ナリトノ証跡顯ハレ、次ニ已レハ兇手ノ子ニシテ、兇手ノ妻ハ則チ己レノ母ナリトノ証跡顯ハレシカバ、王ハ驚愕ノ餘リニ、精神錯乱シテ、自ラ左右ノ眼ヲ抉去リヌ。

(五)コロナスニ於ケルオエヂパス 序幕ハ前戯曲ヨリ數年ヲ經過セルトコロニシテ、オエヂパスハ既ニ我カ二子エテオクルス及ヒボリチーセスノ同意ニ由リテ、クレオン(今王)ノ爲メニ齊武ヲ逐ハレ、二女アンチゴーン及ヒイスミーンヲ伴フテ雅典ニ逃レ、同國ノ王セシアスノ許ニ住ス。時ニ諸神ノ怒解ケテ、オエヂパスヲ寬恕シ、結局天上ニ聲アリテ、オエヂパスヲ呼ビシカバ、オエヂパスハソノ呼バル、ガ儘ニ上天セリ。而シテ之ヲ見ルヲ得タルハ獨リ雅典王セシアスノミ。

(六)アンチゴーン 猶前者ノ續劇ナリ。オエヂパスノ二子即チ齊武攻撃者ボリチーセス及ヒ齊武ノ代戰士エテオクルスハ、一回ノ接戦ニ、刺シ殺シ合フテ死ス。齊武王クレオン詔令ヲ下シ、「何人タリトモ、ボリチーセスノ葬儀ヲ行フヲ得ズ。若シ之ヲ行フ者アラバ、死刑ニ處セン」ト云フ。左レド、アンチゴーンハ不文ノ神爲法ヲ以テ人類ノ命令ヨ

リモ重シト爲シ、厚ク我カ兄即チボリチーセスヲ葬ル。クレトン之ヲ死刑ニ處ス。クレトンノ子ハアンチゴーンノ情郎ナリ。故ニ此人ト其母トハ、クレトンヲ罵リツ、自殺ス。

(七)フネロクテ、ス 紀元前四百九年ノ作ニシテ、劇中ノ場所ハ寂寞タルレムノス島ナリ。狂言ノ筋ヲ言ハソニ、十年前英雄フネロクテ、スハ、トロイ遠征ノ途中、此島ニ於テ足部ノ負傷ニ艱ム。時ニ希臘軍遠征ノ航海ヲ急ク。依テオヂシアスノ要求ニ從ヒ、フネロクテ、スガ睡眠ノ折ヲ窺ヒ、「オキザリ」ト爲シテ、トロイヘト進ミヌ。左レド、今ハ當時ト打テ變リ、フネロクテ、ス希臘軍中ニ必要ノ人ト爲レリ。何トナレハ、神託ニ據ルニ、ヘテクリスノ弓ナケレバ、トロイヲ降服セシムルコト能ハズ、而シテソノ弓ハフネロクテ、スノ有スル所ナレバナリ。是ニ於テオヂシアスハ、卑怯ニモ、フネロクテ、スヲ捕フルカ、若シ捕フル能ハザルハ其弓ヲ竊マント欲シ、之ヲエチルスノ子チオプトレマスニ説ク。チオプトレマス最初ハ之ニ從ヒシカド、既ニシテ其非ナルヲ悟リ、假令ヒフネロクテ、ス己レ等ノ招キニ應ジテトロイニ來ラザルモ、我レ其弓ヲ竊ムヲ爲サント決セリ。此瞬時ニ於テ、フネロクテ、スハ、我レトロイニ行カバ、必ラス健

康ヲ復シ、名譽ヲ得ベシト知レルガ故ニ、喜テ其招キニ應シヌ。  
抑モソフテクリスハ、巧ニ人性ヲ描寫スル所ノ戯曲家ナリ。今ソノ二三ノ例ヲ擧レバ、ア  
ンチゴーンガ身ヲ殺シテ兄ノ爲メニ盡スガ如キ、テオプロレマスガ一旦オデシアスノ命令  
ニ從ビタルモ、我カ少カキ寛仁ノ度量ヲシテ我カ少カキ大望ニ勝タシメタルガ如キ、アソ  
ヤツクスガ名譽ノ地ニ落チタルニ自ラ堪ユル能ハズシテ自殺ヲ行ヒタルガ如キ、オエヂパ  
スガ不慮ノ大難ニ驚愕恐怖シタルガ如キ、能ク人性ノ隱微ヲ窺ヒ、巧ニ其真相ヲ穿チタル  
モノト云フベキナリ。

ユーリピテ

ユーリピテス 紀元前四百八十年、即チ希臘軍ガサラミスノ大戦ニ波斯軍ヲ敗リタル  
年ニ生ル。故ニエスキラスヨリ少カキテ四十五年、ソフテクリスヨリ少カキテ僅ニ十五年  
ナリ。然レドモ氏ノ戯曲ガ二氏ノ戯曲ト異ナルヲハ、恰カモソフテクリスノ戯曲ガエスキ  
ラスノ戯曲ト異ナルニ均シ。氏ハ實ニ新思想、新概念ヲ顯ハセリ。父、名ハテサーカス。  
費用ノ嵩ムテ厭ハズシテ、氏ニ完全ナル文學上ノ教育ヲ授ク。氏初メ力士タラント期セシ  
モ、中頃ソノ志ヲ變シ、十七歳ノ時、書學ヲ修メ、二十五歳ノ時、始メテ悲哀戯曲ヲ作り

テ之ヲ公ニシ、三十九歳ノ時、始メテ報賞ヲ得。左レバ、五十年間、詩人タルチ、報賞ヲ  
受ケタルハ前後僅ニ五回ニ過ギザルナリ。

氏ノ家内ハ常ニ安全和樂ヲ欠キタルガ如ク、ソノ戯曲ハ婦人ノ頭上ニ硯針ヲ加ヘタルモノ  
多シ。然レドモ優美ナル婦人ノ情ヲ表出スルニ至リテハ、恐ラクハ氏ノ右ニ出ルモノ少ナ  
カラン。又氏ハペロポントサス戦中ニ顯ハレシ極端ナル平民政治ヲ喜バズ。故テ以テ紀元  
前四百九年ノ頃、雅典ヲ去リテマセドニアニ移リ、同國王アーチエロースノ宮廷ニ住スル  
テ數年。同四百六年死セリ。ソフテクリス訃音ヲ聞キテ痛惜ニ堪ニズ。次回ノ演劇ニ、俳  
優ガ王冠ヲ頂キ、美服ヲ着スルヲ禁シテ以テ亡友ニ敬意ヲ表シタリト云フ。

氏ノ著作ナリト稱スル戯曲九十五種。中ニ就テ古代ノ鑑定家ガ眞作ト認ムルモノ七十五種  
(八種ノモーター戯ヲ籠メテ)アリ。今存スルモノハ僅ニ十七種——外ニサイクロプス(一  
眼巨人)ト題スルモノ一アリ——ニ過ギズ。左ニ之ヲ擧ゲン。

(一)アルセウス 紀元前四百三十八年世ニ公ニセラル。十七種中ノ最モ舊キモノニシ  
テ、モレシア王アドメタスノ皇后アルセウスガ、夫王ノ生命ヲ助ケンガ爲メニ死ニシ

事、左レド、ヘラクリスノ爲メニ復活セシメラレシ事ヲ叙述ス。

(二)メヂア 紀元前四百三十一年世ニ公ニセラル。コルチス國ノ皇女メヂアノ物語ナリ。初メアীগノ王ジエソン、コルチス王エイトスノ有スル金羊毛ヲ得ント欲シテ遠征ス。エイトス猶之ヲ渡シ肯ンセズ。メヂア、ジエソンニ戀着セルニ由リ、豫テ辨ヘタル妖術ヲ用キテ、其父王ノ手ヨリ之ヲ奪フノ手段ヲジエソンニ教フ。ジエソン遂ニ之ヲ奪ヒ、メヂアヲ伴フテ本國ニ歸ル。既ニシテジエソンハ、コリンス王クレオンノ女クロースヲ娶リ、之ト情好ヲ密ニシ、メヂアヲ棄テ、願ミザリシカバ、メヂア嫉妬ノ餘リニ、妖術ヲ用キテ新婦クロースト、其夫婦ノ間ニ生レタル子女トヲ殺シ、魔車ニ乗シテ、空中ヨリ雅典ニ到ル。

(三)ヒボライタス 紀元前四百二十八年世ニ公ニセラル。一等賞ヲ得タル戯曲ニシテ、セシアス雅典ノ勇士ノ子ヒボライタスノ事ヲ叙述セルモノナリ。而シテ其大綱ヲ二段ニ分チ、第一段ハ繼母フエードラガ、ヒボライタス己レノ名譽ヲ汚シタリト讒シタルニ由リ、父セシアス之ヲ眞實ト信シテ、大ニ怒リシカバ、ヒボライタス悲憤ニ堪エズシテ死去スル

事ヲ述ヘ、第二段ハセスサス我カ子ノ目前ニ死スルヲ見ツ、アル間ニ、貞節ヲ司ル女神アテミスヨリ其冤罪ナルヲ聞キ知リテ大ニ悔ヒシカド、既ニ遅カリシ事ヲ述フ。

此戯曲ハ其頃(紀元前四百二十九年)死去シテ、イマヌ間モナキペリクレス前ニ在リ雅典ノ總藝ナリノ死去ヲ隱語セシモノナリ。佛國ノ小説家ラシーヌ其フエードルヲ作ルニ當リテ、ソノ結構ヲ之ニ取レリト云フ。

(四)ヘキユバ 紀元前四百二十五年世ニ公ニセラル。ポリメスター、トロイノ王子ポリドラスヲ殺シ、皇女ポリキセナヲ奪去リタルニ由リ、其母皇后但シ未亡人ソノ誓ヲ復スルノ願末ヲ叙ス。

(五)アンドロマーチ 紀元前四百二十四年(?)乃至同四百二十二年ニ世ニ公ニセラル。曾テヘクターノ妻タリ、今ハエナルスノ子ヲオプトレマスノ囚虜タルアンドロマーチノ運命ヲ述ヘタルモノナリ。戯中スバルタ人ノ性質ヲ諷刺シタルヲ以テ名アリ。依テ以テペロポンチサス戦ノ前兆ト爲スベキナリ。

(六)アイオン 紀元前四百二十四年乃至同四百二十一年ニ世ニ公ニセラル。最モ巧妙ナ

ル戯曲ノ一ナリ。戯中ノ場處ハデルファイニシテ、アイオニア人種及ヒアツチカ種族ノ高祖アイオンガ眞ニアポロ神ト、エレクセアスノ娘クリウサトノ間ニ生レタル子ナル事ヲ述ヘリ。

(七) サツプリアンツ 紀元前四百二十年乃至同四百十七年(?)ニ世ニ公ニセラル。齊武王クレオン其胸壁前ニ討死セルアーゴノ勇士等ヲ埋葬スルヲ謝絶ス。雅典人之ヲ聞テ、深クソノ不幸ヲ憫ミ、慈惠ノ代戰士トシテ齊武ニ敵ス。是レ本戯ノ大綱ナリ。

(八) ヘラクレーデア 世ニ顯ハレタル年月ハ前者ニ同シ。ヘラクリスノ工人長ユーリスセアス、ソノ主人ノ死後ニソノ子女ヲ苦ム。雅典人之ヲ憫ミ、ソノ避難ノ府ト爲ル事ヲ述フ。

(九) 狂乱ヘラクリス(マツド、ヘラクリス) 紀元前四百二十年乃至四百十七年(?)ニ世ニ公ニセラル。ヘラクリス其讐敵ヘラ女神(シユノー)ノ爲メニ精神錯乱シテ我が妻メガラト子女トヲ殺ス。後本心ニ歸リ、悔ヒテ自殺セシトス。時ニ雅典王セシアスソノ失意ヲ慰メ、雅典ニ在リテ安樂平和ノ地ヲ求メヨト勸ムルヲ述ブ。

(十) トーリ中ノイフ井ゼニア(イフ井ゼニア、アマング、トーリ) 頗ル高尚ナル悲哀戯曲ナリ。ソノ年月ハ詳ナラザレド、晩年ノ作ニハ相違ナシ。戯中ノ場處ハ、クリメアナルバククラヴァトス。アガメンノンノ娘イフ井ゼニア其ノ父ノ爲メニ死刑ヲ命セラル。女神アーテミス不思議ニモ其ノ間ニ立ち入りテ之ヲ救フ。依テ尼ト爲リテ、同女神ノ社ニ事フ。此神社ヘハ人間ヲ犠牲ニ供スルノ慣例ナリ。偶々二名ノ外人、犠牲トシテ送ラレ來ル。イフ井ゼニア之ヲ神前ニ供セザルヲ得ズ。之ヲ見ルニ、豈圖ランヤ、我カ兄オレステスト、其友人パイレーツトナリ。驚キ悲ミテ之ヲ逃レシメンヲ謀ル。後女神アセンノ命令ニ依リ、同地ノ王ソリスハ三人ヲ許シテ希臘ニ歸ラシム。三人希臘ニ歸ルヤ、アツチカナルハレト及ヒブローロンニ於テ、アーテミスヲ祭ル。

(十一) ツローデス 紀元前四百十五年世ニ公ニセラル。トロイ滅亡ノ際、同國ノ貴婦人ヘキユバ、アンドロマーナ、カッサンドラノ悲哀ノ狀ヲ述フ。

(十二) ヘレン 紀元前四百十二年世ニ公ニセラル。樂詩人ステシコラス第一篇第三章ニ在リガ改言ト題スル歌中ニ吟咏シテ人氣ニ稱ヒタル物語ヲ改作セシモノナリ。戯中ヘレンスバルタ王メ子ロ

イスノ妻ナリトロイノ太子メリスノ花冠ノミトロイニ行き、真正ノヘレンハ埃及ニ行ク。メテロト通シトロイ戦争ノ端緒ヲ開ク

イス王微服シテ埃及ニ到リ、ソノ計策ニ由リテ、ヘレンハ埃及王セオクリメナスノ手ヨリ救ハル。

(十二) フェニシア 紀元前四百十一年世ニ公ニセラル。齊武王オエヂパスノ子ボリチーセス及ヒエテオクルス、王位ヲ争フ。アイギヴ人ボリチーセスヲ助ケントテ、齊武ヲ伐ツノ戯ナリ。此戯ノ合唱連ハ皆フェニシア處女ニ扮シタル者ヨリ成リ、是レ等ノ處女ハデルファイナルアポロノ神社ニ事ヘントテ、タイア<sup>フェニシアノ港</sup>ヨリ來リシモ、戦争ノ爲メニ齊武ニ引キ留メラレタル者ト爲セリ。願フニ、エスキラスノ「七人對齊武」ニテハ合唱連皆齊武ノ婦人ナレバ、ユーリビデスハ之ト目先キヲ變ヘンガ爲メニ、フェニシアノ婦人ニ改メシナランカ。

(十四) エレクトラ 紀元前四百十年世ニ公ニセラル。エスキラスノコエフアリ、ソフヲクリスノエレクトラト趣意ヲ同フス。只ソノ異ナル所ハ、氏ノエレクトラハ貴婦人既ニ紳士ト婚儀ヲ畢リ、ソノ小舎ニ住スルノ趣向ナルニ在リ。

(十五) オレステス 紀元前四百八年世ニ公ニセラル。オレステス其母ヲ殺シ、父ノ讐ヲ復シタルノ後、精神錯乱ス。アポロ神ヘレンヲ保護シテソノ劍難ヲ免カレシムルノ趣向ナリ

(十六) アウリスニ於ケルイフ井ゼニア(イフ井ゼニア、アット、アウリス)及ヒ(十七) 婦人ノ酒客(バツカ) 二戯共ニユーリビデスノ死後ソノ子小ユーリビデスノ公ニスル所タリ。而シテ前者ニ於テハ、イフ井ゼニアノ父アガメンノン、希臘艦隊ノ爲メニ順風ヲ祈リ、アウリスニ於テイフ井ゼニアヲ犠牲ニ供シタルモ、イフ井ゼニアハ女神アୀテミスニ救ハレ、クリメアナルトリーノ神社ニ伴ハル、ト述ヘ、後者ニ於テハ、齊武王ベシアシス、ダイオナイサス神ガ姿ヲ扮シテ齊武人ヲ饗應スルトコロヲ捕ヘタルニ由リ、神罰忽チ王ノ身ニ報ヒ來リ、酒狂セル我カ母アガヴ及ヒソノ夥伴ノ爲メニ寸斷セラル、トヲ述ヘリ。

右十七種ノ外ニ「サイクロプス」(一目ノ巨人)ト題スルセーター戯アリ。オヂシアスガ、ポリフエマスト共ニ危険ニ遭遇セル事ヲ述ヘタルモノナリ。

滑稽戯曲

滑稽戯曲 今ヤ進ミテ滑稽戯曲ヲ説カン。滑稽戯曲ノ悲哀戯曲ニ於ケルハ、恰カモ双  
子ノ關係アリ。何トナレバ、亦ダイオナイサス神ヲ崇拜スルヨリ起リシモノナレバナリ。  
只ソノ成長發達、悲哀戯曲ヨリモ遅カリシノミ。抑モ自然力チ人ニ形リテ之ヲ崇拜スルハ  
ハ必ラス鬱鬱ト愉快トノ二者ヲ兼テ生スベキハ論ヲ待タズ。之ヲ譬フレバ猶冬期木葉凋落  
シ、地面氷凍スルノ候ニハ、人モ亦同感ヲ起シテ自ラウラガナシキコ、チヲ爲セド、一陽  
來復シテ所謂百卉芳ヲ闘ハセ、衆花艶ヲ競フノ候ト爲レバ、人ノ心モ自ラウキタツガ如シ。  
ダイオナイサスノ信仰ニハ此二者相密着シテ遂ニ兩戯ノ端ヲ開キタルナリ。

雅典滑稽戯曲ガ稍々体形ヲ備ヘタルハ紀元前四百七十年ノ頃ノ事トス。アリストフア  
ニス後ニ在リノ説ニ據ルニ、其ノ鼻祖ハマクテスナレド、ソノ人望ヲ博スル能ハザリシヲ以テ、隨  
テ鼻祖ノ名ヲ得ザリシト云フ。次テ紀元前四百四十八年クラチナスト云ヘル人始メテ  
大滑稽戯曲家ノ名ヲ博シ、殆ンド同時ニ又クラテスト云ヘル戯曲家アリ。其後ユ―ポリ  
ス紀元前四百二十九年ヲ以テ、始メテ同戯曲ヲ公ニセリ。左レド不朽ノ名聲ヲ博シタルハ  
アリストフアニスヲ嚆矢ト爲スナリ。

アリストフ  
アニス

アリストフアニス 紀元前四百四十八年(?)生ル。其先輩ガ世人ノ輕躁ノ爲メニ害  
ヲ蒙リタルヲ見テ深ク悟ル所アリ。常ニ曰ク。「雅典人ノ意氣ニ投合セント欲セバ、須ラク  
先ツ充分ニ準備ヲ整ヘザルベカラズ」ト。故ニ一ノ金言——船長タラント望ム者ハコギテ漕手、  
舵工カヂトリノ徒弟ト爲リテ努力スベシ——ヲ斷エズ口ニシタリ。然レドモ天資聰敏ナルヲ以テ、  
二十一歳ノ時ニ、既ニ戯曲家トシテ社會ニ重セラレ、四十歳ノ時、政治上ニ、智力上ニ、  
徳義上ニ、社會上ニ、雅典人ノ生活ニ對スル滑稽的の大批評家ト爲レリ。  
氏ハ五十四種ノ滑稽戯曲ヲ著ハシタルモ、今現存スルモノハ僅ニ十一ニ過ギズ。氏ハ此五  
十四種ヲ三綱ニ分テリ。

第一綱ニ屬スル戯曲ハ自由自在ニ諷刺セルモノナリ。而シテソノ現存スルモノヲ舉レバ、  
(一)アカーチア人(アカーニアンス)紀元前四百二十年五年公ニセラルト題スルモノハ、非戰黨ガ主戰黨ヲ説服ス  
ル演劇ナリ。コノ主戰黨トハアカーチア人チ云ヒ、其葡萄園ガベロポンチサス人ニ荒ラサ  
レタルヲ怒リ、問罪ノ師ヲ興サントスルヲ、非戰黨之ヲ止ムルナリ。(二)勳爵士(ナイツ)  
紀元前四百二十年ニ於テハ、「バビロニア人」氏ノ戯曲ニテ今亡ヒタリニ於テ端緒ヲ開キシ警敵クレオンニ對ス

ル攻撃ヲ續ケ(三)雲(クロイツ)紀元前四百二十ニ於テハ、アナキサゴラス希臘ノ哲學者ノ如キ物理學者、プロトゴラス同上ノ如キ修辭學ノ教師ヲ非難シテ、之ヲ詭言家ノ部類ニ列シ、又ソクラテス後ニ在リヲ祖述シ、(四)蜂(ウラスプス)紀元前四百二十(五)平和(ピース)紀元前四百二十年皆諷刺ヲ旨トセリ。

第一綱ニ屬スル戯曲ハ、第一綱ト異ナリテ、謹慎ヲ旨トセル、政治上ノ諷刺ナリ。(一)鳥(バーツ)紀元前四百十四ニ於テハ、二名ノ山氣トキキアル雅典人、數多ノ鳥ニ向テ雲都ヲ建設セヨト説キ、遂ニ之ニ從ハシム。コレハ當時ノ雅典人ノ馬鹿ラシキ事ヲ誡メ、殊ニ西々里遠征ヲ思ヒ止マラシメント諷刺シタル面白キ韻文ナリ。(二)ライシストラタ(三)セスモフアリアズサ甲ハ紀元前四百十一年有名ナル四百人擅制ノ二戯ハ、殆ント同時ニ世ニ公ニセラレタルモノニシテ、甲ニ於テハ、「婦人政府」ニ迫リテ、ペロポンネサス戰ヲ止メシメントシ、乙ニ於テハユーリビデス、セスモフアリノ婦人祝祭ニ於テ審問ヲ受ケ、罪狀ヲ宣告セラル。(四)蛙(フログス)紀元前四百五ニ於テハ、雅典ガエーゴスポタミノ戰爭ハロポンネサス戰ノ引キ續キナリニ最後ノ大敗ヲ執リシ時ニ現ハレタルモノニシテ、新亡者シムマツシヤユーリビデスガ舊亡者ニスキラスト、懸賞戯曲ヲ亡者ノ間ニ競ヒ、エスキラス遂ニ報賞ヲ得。

第二綱ニ屬スル戯曲ハ二種アリ。此戯曲ハ諷刺ハ諷刺ニ相違ナキモ前二綱ト比スレハ稍々溫和也。(一)エツクレシアズサ紀元前三百九十二年公ニ於テハ、「婦人議員」ガ新憲法ヲ構成セント企テ、(二)プラタス紀元前三百八十八年公ニ於テハ

福神アラタス善人ヲ富マシメ、惡人ヲ貧カラシメント企ツル間ニ、我カ視力恢復ス。

滑稽戯曲ニ於ケル合唱

滑稽戯曲ニ於ケル合唱連ハ、悲哀戯曲ノ如ク十二人若クハ十五人ヨリ成ラズシテ、概テ二十四人ヨリ成ル。而シテソノ衣裳ハ奇ナルヲ善シトス。例ヘバ、「蜂」前ニ在リニ於テハ、合唱連皆腰ヲ括リ、串ヲ針ニ代用シテ、可及的蜂ニ類似セシメ、「鳥」同上ニ於テハ、二十四人皆異色ノ華麗ナル羽毛ヲ着スルノ類是レナリ。

古「中古」新「滑稽戯曲

「古」中古「新」滑稽戯曲——雅典ノ古滑稽戯曲ハ紀元前四百七十年ノ頃ヨリ同三百九十年ノ頃迄連綿タリ、而シテアリストファニスニ至リテ進歩ノ極度ニ達シ、氏ノ死去ト共ニ漸ク衰フ。中古滑稽戯曲ハ、紀元前三百九十年ノ頃ニ起リ、同三百二十年ノ頃ニ及フ。此戯曲ハ前者ノ如ク政治的ニアラズシテ、純乎タル社會的ト爲リ、政治ヲ批評セズシテ、寧ロ哲學文學ヲ批評シ、活氣頗ル減殺セリ。但シソノ作者中ノ重モナルハ、アン

●●●●●●二百六十種ノ滑稽戯曲ヲ著ス ●●●●●●二百四十五種ヲ著ス  
 ●●●●●●チフアニス 紀元前五百五十年ノ頃ヨリ同二百五十年ノ頃ニ至ル。  
 ●●●●●●新滑稽戯曲ハ、紀元前三百二十年ノ頃ヨリ同二百五十年ノ頃ニ至ル。  
 ●●●●●●近世ノ滑稽戯曲ニ似タリ。其重モナル人物ハ、嚴酷ナル若クハ虛弱ナル父、奴隸又ハ諂諛者ニ煽テラル、息子、訴訟ヲ促カス三百代言、傲慢ナル軍人等ナリ。但シ此戯曲家中ノ重ナルハメナンダー、フギルモン、ヂフギラストス。羅馬ノ戯曲家ハ専ラメナンダーニ摸倣セリ。ユネリアス、シーザルガ、テレンス羅馬文學史ニ在リヲ評シテ半メナンダート稱セシモ之ガ爲メナリ。

以上吾ト云ヒ、中古ト云ヒ、新ト名ケテ滑稽戯曲ヲ三種ニ區別セシモ、畢竟時世ノ推移ト共ニツノ体裁ノ變遷セシニ由リテ假リニ斯ク區別シタルモノニシテ、別ニ二様ノ異ナリタル滑稽戯曲アルニ非ス。滑稽戯曲ハ一ノ連綿タル滑稽戯曲ナルノミ。

## 第二章 散文ノ起源 歴史

初年ノアイオニア散文諸記者 紀元前五百五十年ヨリ同四百五十年ニ至ル

ヒロドタス 同四百八十四年生レ同四百二十八年(?)或ハ云四死ス

サシザテス 同四百七十一年年生レ同四百年ノ頃死ス

ゼノフタン 同四百三十一年ノ頃生レ同三百五十四年死ス

散文ノ晩ク起リシ理由

希臘ノ韻文ハ、夙ニ史詩アリ、中ゴロ樂詩アリ、晚ニ戯曲詩アリテ、其体裁ヲ全フタリト雖モ、散文ニ至リテハ、猶未ダ其影ダニ現ハサリキ。其故如何ト云フニ、(一)希臘ニテハ史詩ヲ以テ巧ニ英雄ノ偉業ヲ叙述シ、樂詩ヲ以テ容易ク思想感情ヲ表出シ得タル事ト、(二)又一ニハ、小邦分立シタルガ故ニ、自邦ノ事務ヲ管理シ、自邦ノ口碑ヲ授受スルニ忙ハシクシテ、全國ノ記録ヲ編纂スルニ暇アラザリシ事トニ由リテナラン。

上古ノ散文記者

上古ノ散文記者 散文モ亦韻文ト同シク、アイオニア希臘ノ西ニ當レル地中海ノ群島ニ始マレリ。今ツノ起源ヲ尋ヌルニ、紀元前五百五十年ノ頃シロスノフェアサイツ(紀元前四百五十年ノ頃ニ生活セシレロス海ノ島)ノ編年記者フェアサイツト混同スベカラズ)ガ理想的神學ヲ著ハシタルヲ以テ、希臘散文ノ嚆矢ト爲スト云フ。其後アイオニアノ哲學者アナクシメニス紀元前六百十年生レ同五百四十七年死ス天文學地理學ニ長ス日晷ノ用法ヲ傳習シテ希臘人ニ授ケシ人ナリト云フモ亦散文



ノ書ヲ著ハセリ。此上古ノ散文ノ体裁ハ簡單ナル金言ノ如ク、其文章斷續シテ聯絡密ナラズ。同時代ノ賢人ト稱スル人々七賢人ヲ云フ七賢人トハヒツタカス(紀元前六百五十年ノ頃生レ同五百六十八年ノ頃死ス)パイアス(生死年月不詳)ソロン(前ニ在リ)チロン(紀元前六百三十年ノ頃生ル)クレオパラス(紀元前六百三十四年ノ頃生レ同五百六十四年ノ頃死ス)ヘノ金言ト頗ル相類似リアンダー(紀元前六百六十五年生レ同五百八十四年死ス)セリズ(後ニ在リ)ノ七人ナリセリ。然レトモ、其頃ハ韻文ヲ用ユル者甚多ク、アイオニアノゼノフアニーズ紀元前五百七十年(?)生レ四百八十年(?)死ス。パーメニデス紀元前五百年ノ頃ノ人ニシテ如キ皆然リ。又西々里人エムペド哲學者ニシテ詩人ナリクリーズ等皆詩人ナレバ散文ハ未タ隆盛ノ域ニ達スルヲ能ハザリキ。

紀元前六百年ノ末葉ニ至リ、アイオニアノ著述家即チ「韻文物語ノ記者」ニ相對シテ特ニ「散文物語ノ記者」ト稱スル人々出テ、始メテ頻リニ散文ヲ使用スルヲトハ爲レリ。是レ等ノ人々ガモノセル散文ハ分チテ二大派ト爲ス。(一)希臘上古ノ鬼神傳即チ諸聖傳殊ニ門閥家ノ系譜、(二)旅行ノ後ニ、外國ノ事ヲ叙述シ、別ニ批評ヲ挿マサル碎片的歴史是レナリ。尤モ二大派ト云フトモ、各派ノ人チ異ニスルニ非ス。多クハ一人ニシテ兩派チ兼ヌルナリ。而シテソノ重モナルハ左ノ二氏トス。

ヘカテアス 紀元前五百年ノ頃ニ生活ス。ミレタスノ人ナリ。世界漫遊記(ツォア、

オフ、ゼ、アリス)系譜(ゼニアロシ)ヲ著ス。此系譜ニ於テハ、自ラ神ノ十六世ノ孫ナリト言ヘリ。

ヘラニカス 紀元前四百五十年ノ頃ニ生活ス。ミナリオンノ人ナリ。雅典史、其他希臘諸國ノ歴史、埃及史、波斯史、フェニシア史ヲ著ス。始メテ著書ト著書トチ比較シ之ガ批評ヲ試ミタル人ナリト云フ。

ヒロドタス 紀元前四百八十四年カリアナナルハリカーナサスニ生ル。此府ハドリアン種族ニ屬スルモ、其住民ノ大半ハアイオニア種族ナリ。而シテヒロドタスノ家ハ、ドリアン種族(?)タルモ、氏ハ少時ヨリアイオニア語ニ通セリ。氏ノ出生ノ時ニ當リテ、同府ハ波斯ノ部下ニ屬シ、剛勇ナル女王アーテミシアサラミスノ戰ニ波斯王セルセスノ爲メニ勇氣ヲ奮ヒシカバ玉喜ヒテ我カ軍中ニテハ男子婦人ト爲リ婦人男子ト爲レリト叫ビタリト云フ。其後女王ノ孫ニシテ且ツ其繼承者ナルリ史詩再興者ノ一人ニシテシダミス、ヒロドタスノ伯父パニアシス文學社會ニ知ラレタル人チ死刑ニ處セシカバ、ヒロドタス恐レテサモスノアイオニア島ニ逃レ、虐主ミリス追放ノ後、郷里ニ歸リシカド、久シカラズシテ亦之ヲ去リ、紀元前四百四十六年ノ頃雅典ニ赴ケリ。是時ニ當リテ、雅典ハピシス

トラタスノ下ニ在リテ、旭日ノ勢ヲ爲シ、詩歌技藝共ニ隆盛ノ極ニ達セリ。氏ノ雅典ニ在ルヤ、ソフチクリスト親密ナル友誼ヲ結ヒシガ、既ニシテ紀元前四百四十三年ヲ以テ、南伊太利ニ於ケル雅典殖民地サリニ行キ、同四百三十二年ノ頃、復タ雅典ニ到リ、爾後再ヒサリニ行キ、同四百二十八年ノ頃或ハ云フ四百六十年ノ頃ト同地ニ於テ死セリ。氏ハ一方ニ於テ波斯ノ臣民タリシカバ此ニ様ノ資格ヲ利用シテ諸方ヲ遍歴シ東ハエクバタナ、シユネーザ、パピロン。西ハ南伊太利。又黑海ノ海岸ヨリナイル地方ニ至ル迄凡千七百哩平方ノ地ヲ旅行セリ氏ヨリ以前ニ在リテハ如何ナル希臘人モ斯ル廣キ地方ヲ旅行シタル者ナシ況ンヤソノ人情風俗ヲ觀察スルニ於テナヤ

ヒロドタスノ歴史

ヒロドタスノ歴史 ヒロドタス世界ヲ周遊シ、其得タル材料ヲ、一ノ中心點タル觀念ノ周圍ニ集メテ一大歴史ヲ編纂セリ。而シテ此觀念トハ東西間、即チ亞細亞、希臘間ノ

大葛藤ノ謂ニシテ、史中ノ末章ニ在ル波斯戰ハソノ破裂シタルモノナリ。

氏ノ歴史ハ之ヲ二大綱ニ別ツテ得ベツ。第一綱ハ最初ノ五卷ニシテ、波斯戰ノ起源ト成長トヲ述ヘタルモノナレバ、之ヲ發端ト稱シテ可ナリ。第二綱ハ終リノ四卷ニシテ、波斯軍ガダリアス王及ヒゼルセス王ノ時ニ希臘ヲ襲撃シタルノ顛末ヲ述ヘリ。更ニ詳ニ之ヲ言ヘバ左ノ如シ。

第一卷ハ波斯帝國ノ高祖サイラス紀元前五百六十年生レ同五百二十九年死ス波斯古代ノ君主ナリノ傳ヲ記ス。

第二卷及ヒ第三卷ハカムビセス波斯王埃及チテ之ヲ平クル事、及ヒ其崩去。ダリアス上

位ニ即ク事ヲ記シ、又埃及國及ヒ埃及人ノ事ヲ述フ。

第四卷及ヒ第五卷ニ於テハ、(一)波斯軍ガサイシア及ヒスレーヌヲ征討シタルノ顛末、

并ニ兩地ノ情況、(二)同軍ガリビアヲ征討シタルノ顛末、并ニ同地及ヒ同地方希臘殖民

地ノ情況、(三)紀元前五百一年ヨリ同四百九十八年ニ至ル迄アイオニア一揆ノ顛末ヲ叙

述ス。

第六卷ニ於テハ、先ヅアイオニア一揆記ノ局ヲ結ヒ、次ニ紀元前四百九十二年ニ於ケル

波斯軍ノ第一希臘征討及ヒ同四百九十年ニ於ケルマラトン合戰ノ顛末ヲ叙述ス。

第七卷ニ於テハ、ゼルセス王ノ親征ヨリセルモビレ合戰ニ至ル迄ヲ叙述ス。

第八卷ニ於テハ、アイテミシアム及ヒサラミスノ合戰ヨリセルセス王ノ敗走(紀元前四

百八十年)ニ至ル迄ヲ叙述ス。

第九卷即チ末卷ニ於テハ、プラテア及ヒマイケールノ合戰(紀元前四百七十九年)、波斯

將軍マードニアスノ退陣(同年)、希臘人ヘルレスポント峽上セストス攻畧ノ顛末ヲ叙述ス。

ヒロドタスノ歴史ハ斬新ニシテ機軸ヲ出セルヲ以テ、世人氏ヲ稱シテ「歴史ノ鼻祖」ト云ヘリ。而シテソノ政治上ノ原因結果ニ意ヲ注カザリシトノ譏ノアルニモ拘ハラズ、要スルニ散文ニ於ケル最モ舊キ名人ト稱スベキナリ。

サシゲデス

サシゲデス 紀元前四百七十一年生レ、同四百年乃至三百九十六年死ス。雅典ノ市人オロラスノ子ナリ。初メスレース王オロラスノ女ヘゼシビル、マラトン合戦ノ勝利者ミルチヤードスニ嫁ス。サシゲデスノ父オロラスハ其ノ子ナリト云フ。紀元前四百三十一年サシゲデス四十歳ノ時、ペロポントサス戦起ル。氏以爲ラク、必ラス希臘國空前ノ大戦ト爲ルベシト。依テ其歴史ヲ編纂セントノ目的ヲ以テ精密ニ之ニ意ヲ注ケリ。同戦ノ第八年(紀元前四百二十四年)ニ氏ハ雅典艦隊ノ指揮官ニ任シ、スレース海岸ニ碇泊セシガ、同地ノ對岸ナルサソス島ニハ氏ノ所有ニ係レル金礦ノ在ルアリシカバ、氏ハ數艘ノ船ヲ隨ヘテ此島ニ上陸セシニ、偶々スパルタノ將軍ブラシダススツライモン河上ノアムフ井ボリ

ス雅典ノ都

ヲ伐チテ之ヲ畧セシニツ、雅典政府ハ無法ニモ其咎ヲサシゲデスニ歸シテ之ガ官

ヲ免シ、追放ノ刑ニ處セリ。其後紀元前四百三年雅典共和政治ニ復スルニ及ヒテ、雅典ニ歸リ、同地ニ一生ヲ送レリ。

一説ニ氏ハスレースニ於テ、刺客ノ毒及ニ罹リテ非命ノ死ヲ送ケ、其屍灰ハ雅典ニ葬ラレタリト云フ。

著ハス所ノ歴史ハ三卷ニ分カレテ未タ完了セズ。今之ヲ畧記スレバ左ノ如シ。

第一卷ハ、第一篇、第二篇、第三篇、第四篇、及ヒ第五篇ノ第一章乃至第十八章ヨリ成リ、紀元前四百三十一年ペロポントサス戦ノ發端ヨリ同四百二十一年ナイシアスノ和議ニ至ル迄ノ顛末ヲ叙述ス。此戦争ニニアキダマス戦ト云フスパルタ王アキダマス雅典征討ノ元帥タリシヲ以テナリ

第二卷ハ、第五篇ノ第十九章乃至末尾、及ヒ第六七篇ヨリ成リ、ペロポントサス戦中ニ於テアীগオスガ戦争ノ中心點ト爲リシヨリ雅典ガ西々里ヲ征討スルニ至ル迄ノ八年間ノ事項ヲ叙述ス、

第三卷ハ、第八九篇ヨリ成リ、第八篇ニハ、デセラア戦ヨリスパルタ軍ガデセラアカノ地ヲ占畧スル(紀元前四百十三年)ニ至ル迄ヲ述ヘ、且ツエীগオスポタミノ戦(同四百五年)

雅典軍ライオンダーニ降服スル(同四百四年)等ノ事ヲ載セ、第九篇ニハ、シノツセマニ於ケル雅典軍大勝利(同四百十一年)ノ事ヲ載セテ未タ局ヲ結ハズ。世人或ハ第八篇ノ偽作ナランヲ疑フ者アリ。顧フニ偽作ニハアラザラン。

抑モヒロドタスハ文學的歴史ノ鼻祖ト稱スルヲ得ベキモ、哲學的歴史ノ鼻祖ナル名義ニ至リテハ、之ヲサシヂデスニ讓ラザルヲ得アルナリ。左レバ、サシヂデスハ單ニ出來事ヲ詳叙スルニ甘セズ。併セテ政治上ニ、道德上ニ、ソノ原因ヲ探求シタリ。是レ氏ガヒロドタスト相並ヒテ後世ニ頌讚セラル、所以ナリ。

ゼノフチン 希臘著述家中最モ有名ナルモノ、一人ナリ。左レドソノ出生ノ年月ハ詳ナラズ。或ハ曰ク。「デリアンムノ戰(紀元前四百二十四年)ニ、ソクラテス後ニガ氏ノ生命ヲ助ケタリトノ古話ヨリ考フレバ、ソノ出生ハ紀元前四百四十五年ノ頃ニ在リシナラン」ト。然レドモコノ古話恐ラシハ或ル人ノ工夫ニ出テシモノナルベシ。只氏ガ自ラ言フ所ニ據ルニ、氏ハ同四百一年ニ三十歳前後ナリシトハ判然タルナリ。氏幼ニシテ家兄グリラスノ熏陶ヲ受ケ、長シテソクラテスニ學ヒ、畢生ノ行爲一ニ氏ニ則レリ。紀元前四百一年友

人ポーシアノプロキセナスノ勸告ニ從ヒ、小亞細亞ナルサーヂスニ赴キテ、波斯幼王子サ

イラスガ其兄アーダゼルセス二世ヲ襲撃スルノ軍ニ加ハリヌ。

著ハズ所ノ最モ面白キアチバシス「進メ」ト云フ義ニテ進メトハ海岸ヨリ内地ニ進メト云フナリハ此進軍ノ顛末ヲ載セリ。同

書ニ據ルニ、サイラスノ軍敗レテ、サイラス戰死セシ後、波斯軍權謀術數ヲ運シテ希臘將軍五人ヲ擒ゴシ、希臘軍ハ危急存亡ノ場合ト爲リシガ、當時同軍ノ義勇兵或ハ士官タリタルセ

ノフキオン夢ムラク、電光我カ父ノ家ヲ燒クト。目醒メテ後以爲ラク、「是レ天王ノ稱アル

波斯王ガ我ヲ滅スノ兆ナリ」ト。夜中急ニ生キ殘レル指揮官等ヲ醒シテ之ニ防禦ノ謀ヲ授

ケ、翌日遂ニ安全ニ退クヲ得タリト。此事ニ就テハ面白キ話多ク後將軍ト爲リテ種々ノ戰爭ニ從

事シ、紀元前三百五十四年死セリ。

氏ノ著作ハ、前記アナバシスノ外ヘレニカ希臘史ソクラテス傳(リコレンクシヨンス、

オフ、ソクラテス)及ヒサイロペヂア(サイラスノ教育)等アリ。ヘレニカハ七卷ヨ

リ成レル希臘史ニシテ、紀元前四百十年即チシノセマ戰後シノセマ戰ハ紀元前四百十一年ノ出來事ナリニ筆ヲ起シ、同

三百六十二年マンチア戰ニ筆ヲ絶ツ。其最初ノ二卷ハ顧フニサシヂデスノ未完歴史ノ稿

ヲ續キシモノナランカ。ソクテテス傳ニ於テハ、我カ師ソクテテスノ道ノ爲メニ辯護ノ勞ヲ執リテ、世俗ガ師ヲ不信心、不徳義ナリト云ヘルヲ駁シ、其一生ノ逸事ト其言語トニ由リテ、其大人君子ナルヲ説ケリ。只氏ノ書中ニ在ルソクテテスハ、アレト後ニ在リノ書中ニ在ルソクテテスガ温雅ナル反語ヲ談スルト異ナルガ故ニ、或ハ師ノ言行ヲ寫スニ於テ遺漏ナキ能ハザルカノ疑ナキニアラズト雖モ、猶ソノ平生ヲ窺フニ足ルヲ以テ頗ル面白シ。サイロペデアハ、八卷ヨリ成レル一種ノ歴史小説ニシテ、波斯帝國ノ高祖サイラスガ教育ヲ受ケシ有様、其政治家トシテ、將軍トシテ、國王トシテ、拔群ナリシ事、其臨終ノ際ニ皇子大臣ニ遺訓セシ事等ヲ述ヘリ。此他數多ノ論文アレド今之ヲ畧ス。

以上三氏ノ外、ソテシアス紀元前四百十五年生レ同三百九十八年死スクニダスノ人ハ、東洋史波斯印度ノ事ヲ記セリヲ著シ、今僅ニソノアイソクラテス後ニ在リ派ノ人々ハ文學的修辭學ヲ歴史ニ應用スルノ術ヲ創メテ、其二弟子セオポム紀元前三百五十二年ノ頃ノ人エフナラス最モ能ク之ヲ代表セリ。セオポムハサシテテスノ歴史ヲ繼キテ紀元前三百九十四年クニダス戰ニ至ル迄ノ希臘史ヲ著ハシ又フ井リツバト題セル同史ヲ著ハシテマセドニア王フ井リツバテ希臘文明ノ中心ト爲セリエフナラスハ亦希臘史ヲ著ハシヘラクサス圍繞紀元前三百四十年ニ至レリ又雅典歴史ト其古事記トハアッシテス雅典記ト題スル書中此書ハ紀元前三百六十年ノ頃數

多ノ著述家ノニ之ヲ詳記セリ。中ニ就テ重ナルハ、フ井ロコラス紀元前三百六十年乃至二百六十年ノ頃ノ人著作ナリトス。同書ハ紀元前二百六十二年ニ至ル迄ノ事項ヲ記セル歴史ナリ。

### 第三章 演説 哲學的散文

#### 演説家

- アンチフナン 紀元前四百八十年生レ同四百一十一年死ス
- アンドシテス 同四百十五年乃至三百九十年ノ頃ノ人
- ライシアス 同四百三年乃至三百八十一年ノ頃ノ人通俗演説ノ巧手
- アイソクラテス 同四百三十六年生レ同三百三十八年死ス文學的修辭散文ノ鼻祖
- アイセアス 同三百九十年乃至三百五十二年ノ頃ノ人法廷辯論ノ巧手
- デモスセニス 同三百八十四年生レ同三百二十二年死ス
- 氏ト同時代ノ人エーシテス、ライカルガス、ハイパリーテス、テイナーカネ、デメテス
- 演説ノ衰微ハテメトリアス、フアレ、アス同三百十八年ノ頃ノ人ヨリ始マル
- プレト 同四百二十九年生レ同三百四十七年死ス

#### 哲學

アリストートル 同三百八十四年生レ同三百二十二年死ス  
 小ソクテス派即チメカラ派、シニツクス、シレナイツクス 同三世紀ノ初葉  
 エレキユラス派  
 ストイツク派

雅典散文ノ  
 最モ明カニ知ラント欲セバ、  
 雅典演說ノ沿革ヲ見ルニ如カズ。抑  
 如カズ。抑  
 雅典演說ノ沿革ヲ見ルニ如カズ。抑

雅典散文ノ發達チ最モ明カニ知ラント欲セバ、雅典演說ノ沿革ヲ見ルニ如カズ。抑  
 モ希臘上世ノ詩文ハ凡テ之レヲ讀ムチ得ベキト同時ニ、之ヲ聞クチ得ヘカラシメリ。而シ  
 テ希臘人ノ耳ハ韻文ヲ聞クニ慣レタレバ、散文モ亦其コ、ロシテ作ラザルベカズ。隨テ公  
 會演說ノ如キモ一種ノ美術トシテ之ヲ修養シ、或ハ議院ニ出テ、名望ヲ博スルカ、若クハ  
 法廷ニ出テ、自在ニ辯論セント欲スル者ハ是非トモ演說ニ巧ミナラデハ稱ハヌ事トナリ、  
 加之ナラズ聽衆モ亦演說ノ体裁ニ批評ヲ加フルト恰カモ文章ノ体裁ニ批評ヲ加フルガ如ク  
 ニナリタレバ、演說文ハ雅典自餘ノ散文ト直接密着ノ關係チ有スルニ至レリ  
 當時二種ノ重モノナル勢力相結ヒテ雅典散文ノ体裁ヲ組成セリ。(一)ハ詭辯家ノ勢力ニシ  
 テ、(二)ハ西々里修辭學ノ勢力ナリ。詭辯家トハ少年ニ演說辯論ノ法ヲ授ケ、之ニ  
 論理學、文法學ノ一班ヲ教ヘテ有爲ノ市民ヲシメント企ツル教師チ云フ。詭辯家ノ

詭辯家及  
 修辭學ノ法

原語ツフギストハ、本來學問智慧ノ教師ト云フ義ニテ、俗ニ學者ノ義ニ用ギ、ブレト  
 在リ。ラモツフギスト、稱セシ事アラリ。然レドモ眞ニツフギストノ名義ヲ與フベキ教師  
 ハ、其狡猾ナルガ爲メニ舊學派ノ人々ニ畏避セラレ、又其淺薄ナルガ爲メニ哲學者ニ輕蔑  
 セラレ、而シテツフギストハ遂ニ詭辯家ト云ヘル意義ト爲レリ。當時詭辯家ノ重モノナルモ  
 ノハ、プロタゴラス及ビプロヂカスノ二名ナリキ。又論理文法學派ノ鼻祖ハ、シラキユ  
 スノコラツクストス。氏ハ紀元前四百六十六年「言語ノ術」ヲ發明シ、法廷ニ於テ訴訟上  
 ノ辯論チ爲スニ便シ、其門人チシアス此術ヲ改良シテ之ヲ雅典ニ傳ヘリ。

ゴルシアス 西々里レオンチニノ人ナリ。詭辯家ニモアラズ、又修辭家ニモアラズ。  
 只自然ニ任セテ雄辯家ト爲リタリ。紀元前四百二十七年雅典ニ到リシ時、雅典人ソノ雄辯  
 チ感賞シ、遂ニアイソクラテスヲ刺衝シテ雄辯チ修養セシムルニ至レリ。

アンチフチ 紀元前四百八十年生ル。雅典演說家中ノ最モ舊キ人ナリ。其演說文ノ  
 今現存スルモノ十五アリ。中ニ就テ「ヒロデス謀殺論」チ最トス。同演說ハ雅典ノ市人ヒ  
 ロデスノ謀殺者ナリト告訴セラレタルミナレンノ一少年チ辯護シタルモノナリ。氏後「四

百人革命」ヲ起サントシ、成ラズシテ死刑ニ處セラル。時ニ紀元前四百十一年ナリ。  
アンドシデス 紀元前四百四十年ノ頃門地ノ家ニ生レ、同四百十五年ハームス神ノ肖

像ヲ毀チタリトノ嫌疑ヲ受ケテ雅典ヲ逐ハル。後許サレテ歸ルヲ得タリ。其演說文ノ今現  
存スルモノ頗ル多シ。歸國論、ミステリ、ス論氏エリウシスノミスアリ、ナシテ節操ナ  
破ラシメタリトノ攻撃ヲ受ケシ時ニ作ルスバル  
ヲト和議ヲ結フベキ論等ハソノ尤ナルモノナリ。

ライシマス シラキユース人ノ子ナリ。故ニ雅典ニ生レタルモ市民ノ權利ヲ有セス。

少時南伊太利ニ遊ヒ、紀元前四百十二年富豪ト爲リテ雅典ニ歸リ、同四百十二年其弟ボル  
マーカス、三十壓制者ノ爲メニ殺サレタルヲ以テ復タ他國ニ逃レ、共和政恢復ノ後、歸リ  
テ三十壓制者ノ一人エラトスセニスヲ彈劾シ、畢生ノ雄辯ヲ振フテ雷名ヲ轟セリ。氏ハ  
通俗演說ノ達人トシテ、アンチフチン前ニ  
在リノ高尚演說及ヒアイソクラテスノ中庸  
演說ト反對ノ方法ヲ用ヰタリ。

アイソクラテス 紀元前四百三十六年生レ、同三百三十八年死ス。其議論ヲハ話スニ  
用ヰズシテ、寧ロ讀ムニ用ヰタルヲ以テ、自餘ノ希臘演說ト異ナリ。而シテ之ヲライシマ

スノ演說ニ比スルニ、其雅趣ノ點ニ於テハ一步ヲ讓ラザルヲ得ズト雖モ、然レトモ希臘散  
文學ノ一体裁トシテ一般ノ標準ト爲レリ。

著ハス所ノ現存スルモノ二十一アリ。其五ハ初年ノ作ニシテ法廷辯論タリ、自餘ノモノハ  
或ハ學校的——書翰文、頌詞、教育上論文等——タリ、或ハ政治的タルナリ。而シテソノ  
著書中ノ最モ勝グレタルチパンゼリカスト爲ス。紀元前三百八  
十年脱稿 氏ハ同書ヲ作ルニ十年ノ星霜  
ヲ費シタリト云フ。

アイセアス 紀元前四百廿年ノ頃生ル。十一演說ヲ遺セリ。法廷辯論ノ達人ナリ。  
デモスセニス 紀元前三百八十四年生ル。幼ニシテ孤ナリ。アイセアスニ學フ。同三

百六十二年乃至二年、後見人兩名ノ我カ財產ヲ浪費シタルヲ訴ヘ、其辯論ニ於テアイセア  
スノ秘訣ヲ窺ヘルヲ証セリ。是ニ於テ益々其技ヲ上達セント欲シ、或ハ海濱ニ出テ、高浪  
ニ向テ説キ、若クハ山上ニ登リツ、談シ、又ハサシデアスノ演說文ヲ寫ス。八回ノ多キニ  
及ヒ、又ハ議院ニ於テ嘲笑セテレ、又ハ我カ辯舌ノ拙劣ナルヲ悲ミテ鬱々タル片ニ俳優ノ  
爲メニ慰メラレ、千辛万苦ヲ經テ遂ニ希臘空前絶後ノ雄辯家ト爲レリ。

ソノ演説文ノ今現存スルモノ頗ル多シ。一トシテ絶妙ナラザルハナク、殊ニマセドニア王フ井リツプニ對スル九箇ノ演説ヲ最トス。後マセドニア軍ノ爲メニ捕ヘラレシヲ恐レテ自殺セリ。氏ノ傳記并ニ演説ハ可及的詳細ニ叙述シタキモ紙數限アルヲ以テ之ヲ畧ス

右數氏ノ外、エーシテス紀元前三百八十九年生ライカルガス同三百三十八年ヨロ三百二十六年迄會計官タリハイペリ

ーデス同三百二十三年ノ頃ノ人ダイナーカス同デメデス雅典ニ於ケルマセドニア方ノ雄辯家デメトリ

アスアリストトノ門人等皆有名ノ演説家ナリ。

哲學  
ナレト

上來叙述セシ如ク、雅典ニ於テ歴史ト演説トガ最高等ノ地歩ヲ占ムルニ際シ、哲學モ亦文學上ヨリ觀察ヲ下シテ完全ノ域ニ達セリ。今先ツプレトノ對話ダイアログヲ舉ケンニ、同書ガ科學的ノ性質ニ於テ拔群ノモノタルヲ始ラク之ヲ度外ニ置クモ、文學的眼孔ヲ以テ之ヲ觀察スルニ亦最上ノ妙作ト云ハザルヲ得ザルナリ。

プレトハ紀元前四百二十九年生レ、同三百四十七年死ス。二十歳ノ頃ソクラテス希臘有名ナル哲學者ニ就テ學ヒ、同三百九十九年三十歳ノ時、ソクラテス死刑ニ處セラレシカバ、氏ハ一時ノ間、雅典ヲ去リテメガラニ到リ、次テサイレン及ヒ埃及ヲ歴遊シ、同三百九十五年

雅典ニ歸ル。

同三百八十九年壓制ヲ以テ有名ナルシラキユース王ダイオニシアス一世ノ義弟ダイオンニ伊太利ニ邂逅ス。ダイオン頻リニ王ノ宮廷ニ到ランヲ勸ム。氏之ニ從ヒ、王ニ謁シテ之ヲ論詰シタリシカバ、王大ニ怒リテ氏ヲ同國駐劄ノスパルダ公使ボリスニ交付ス。ボリス之ヲ奴隸トシテエーシニアノ市場ニ販賣ス。偶々友人ノ爲メニ贖ハレテ雅典ニ歸ルヲ得タリ。ダイオニシアス一世ノ歿後、氏復タシラキユースニ到リテ其子ダイオニシアス二世ニ見エ後其壓制ノ事態ヲ「レパブリック」氏ノ著書中ニ畫ケリ。同三百八十六年ノ頃、アカデミー勇士アカデマスノ曾テ住セシヲ以テ此名アリニ學校ヲ開キテ子弟ヲ薰陶シ、家屋ト花園トヲ其傍ニ設ケテ之ニ住シ、以テ一生ヲ卒レリ。

著ハス所觀念論(セオリー)、オフ、アイデア、師ノ記憶(リコルレクシヨン)、レパブリックアリ。又四十二ノ對話集アリ。其二十五ハ願フニ氏ノ眞作ナルベシ。抑モ始メテ哲學ト宗教學トノ限界ヲ明瞭ニ區分セシハ希臘人トス。泰西諸國ニ限リテ云フアリ同國人ハ自然力ヲ人類ニ像ルヲ以テ満足シタリシガ、漸ク智識ノ進ムニ從ヒテ二條ノ疑問起レリ。



(一)是レ等ノ力ハ何カ、(二)是レ等ノ力ハ之ヲ一二ノ原理ニ歸スルヲ得サルカト。ソクテ  
 テズ出ルニ及ヒテ、探究ノ方法ヲ定メ、先ツ第一ニ吾人々類ヲ探究シ、次ニ吾人ノ實ニ知  
 レルモノ、或ハ知レルガ如クニ見ユルモノヲ探究スルヲト爲シ、諸吾人々類ヲ第一ニ探究  
 スルニ就テハ、是レヨリモ前ニ人類ガ生活シ動作スベキノ方法ヲ探究スルヲト爲セリ。是  
 ニ於テカ氏ハ哲學ヲ倫理的ト爲セリ。

アレトニ及ヒテ亦此世ノ事物ハ凡テ完全ナル能ハズ、故ニ完全ヲ望マバ須ラク之ヲ他界ニ  
 求メザルベカラズトノ說ヲ主張シ、茲ニ理想的眞美ト眞美ノ愛トヲ唱ヘリ。

氏ノ文体ハ韻文ト散文トノ中間ニ位シ、巧妙雅趣ニシテ讀者ヲシテ手ニ卷ヲ釋クニ忍ヒザ  
 ラシム。又基督教以前ニ在リテ上帝ニ關スル純粹ノ觀念ヲ懷キシハ氏ノ右ニ出ル者ナシト  
 云フ。ソノ他述フヘキ事項多クレド姑ラク之ヲ畧ス。

アリスト  
 ツル

アリストーツル 紀元前三百八十四年スレースナルアグス山近傍スツリモン  
スツリモン河ハス  
 レーストマセドニ  
 アトノ間ヲ流ル 灣上スタザイラニ生レ、同三百二十二年死ス。醫神エスクレ  
アボロノ  
 子ニシテ ビアス  
神ナリ ノ苗裔ナリ。故ニ幼時風ニ醫術ヲ學ヘリ。然レトモ之ヲ業トセズ。左ニ氏ノ傳記ヲ

三項ニ分テテ之ヲ略叙シ、次テソノ著書ニ及ホサン。

(一)紀元前三百六十七年父ニコマカスノ死スルヤ、氏ハ雅典ニ行キテ、アレト前ニ  
 ノ一人ト爲リ、アレトノ爲メニ「學校ノ神髓」ト頌讚セラル。居ルヲ十年、別ニ一校ヲ開  
 キテ子弟ヲ薰陶ス。

(二)雅典ニ學校ヲ開キテヨリ十年ノ星霜ヲ經過シ、三十七歳ノ齡ニ達セシ時、マイシア  
小亞細  
 亞ノ地 ナルアターチアスニ行ク。學友ハーミアス同地ノ大守タリ。三百四十四年ハーミア  
 ス、波斯人ノ爲メニ殺サル。アリストーツル去リテミナレン  
レスボス  
 島ノ首府 ニ行キ、留マルヲ二年。

三百四十二年マセドニア王フネリツプ  
アレキサンダ  
 大王ノ父 ノ招聘ニ應シ、當時十四歳ノ少年ナルア  
 レキサンダーノ師傅ト爲ル。三百三十六年フネリツプ崩シ、アレキサンダー位ニ即ク。氏  
 去リテ雅典ニ歸ル。

アルターク氏英雄傳ニ云ク。アリストーツルハ、學、古今ニ冠タリ、名、天下ニ轟ク。マセドニア王ノ招聘ニ應シ、來  
 リテアレキサンダーヲ教フ。政治道德ヨリ物理学ノ應用ニ至ル迄、稍々其蘊奧ヲ究ム。アレキサンダー亦アリストーツ  
 ルニ師事シ、之ヲ敬愛スルヲ父王ニ異ナラズ。常ニ曰ク。「予ハ父ノ恩澤ニ由リテ此世ニ出テ、アリストーツルノ恩澤ニ  
 由リテ此世ニ良好ナル生活ヲ爲ス」ト。

ハリパテチ  
ツクス

(三)紀元前三百三十四年ノ頃、氏雅典ニ在リテ續々大著述ニ從事シ、死ニ至ル迄間斷ナシ。傍ラ又ライセアムニ於テ哲學ヲ教授ス。此學派ヲ名ケテペリパテチツクスト稱ス。ペリパテチツクストハ歩ムト云フ義ニテ、氏ハ逍遙シツ、門下ヲ教ヘタルニ由リテ此名アルナリ。

氏著述ト教授トニ從事スルコト十二年。紀元前三百二十三年アレキサンダー大王ノ崩御スルヤ、雅典人ガ氏ニ對スルノ嫉妬心ハ一時ニ燃燒シ、氏ヲ「不信者」ナリトシテ之ヲ訴ヘシカバ、氏ハ糾問ニ先チテ、ユーベアナルカルシス府ニ逃レ、翌年不意ニ死セリ。享年六十二。  
テモスセニスノ  
死去ト同年ナリ

氏人ト爲リ、節儉、勉強、飲食ヲ節シ、睡眠ノ時間ヲ短縮シ、就眠ノ際必ラス隻手ニ球ヲ握リテ之ヲ床外ニ伸シ、球ノ青銅盤内ニ墮チテ響ヲ發スルニ由リテ目ヲ覺シタリト云フ。

氏ノ著書

氏ノ著書 氏死ニ臨ミテ著書ノ草稿ヲ擧ケテ悉ク之ヲ門人セオフラスタスニ依嘱シ、セオフラスタス死スル時紀元前二百八十七年之ヲテレアスニ依嘱ス。テレアス携ヘテツロードナルスケアシスニ行き、之ヲ地窖中ニ隠ス、紀元前百年ノ頃、テレアスノ子孫之ヲアペリコント云

ヘル人ニ賣却ス。アペリコンハ雅典ノ富豪ニシテ書籍ヲ買ヒ集ムルヲ樂シミトセシ人ナリ。同八十六年シラノ雅典ヲ攻略スルヤ、アペリコンノ文庫ヲ羅馬ニ遷ス。時ニシセロノ朋友ニチラニオント云ヘル希臘人アリ。學者ナリ。政府ノ許可ヲ得テ其文庫ヲ整理シ、ローツ島ノアンドロニカスト云ヘル人始メテ羅馬ニ於テアリストトールノ遺稿ヲ發見セリ。是レヨリ先キ、紀元前二百二十年ノ頃、氏ノ遺稿ガ猶ホ窖中ニ在ルニ當リテ、アレキサンドリア府及ニ於テ氏ノ著書ノ目次ヲ編製シ、大冊百四十六部ノ多キニ及ヘリ。願フニコハ今亡ヒテ傳ハラザル氏ノ對話集(ダイアログス)ナラン。同書ハ氏ガ少壯ノ時、アレトニ倣フテ作りシモノニシテアレト亦對話集ノ著アリシセロ其艶麗流暢ナルニ感シ、「ゴールデン、フロート」ト頌讚セシモノナリ。ソハ兎モ角モ氏ノ著書ハ、數百年間歐洲人ノ精神ヲ支配シ、近來ノ思想ヲ養成シタルト他書ノ比ニアラザルナリ。

アリストトールハ當時生存セル百般ノ智識ヲ網羅シテ、之ヲ各種ノ範圍即チ各種ノ學科ニ分チ、諸學特有ノ原則ト諸學ガ答フベキ問題トヲ示セリ。左レバ氏ノ著書ハ其數ノ多キニモ拘ハラズ、總体ヲ通シテ一箇ノ連續セル鏈ト云フベク、甲ハ乙ト聯結シ、

乙ハ丙ト聯結シ、丙ハ丁ト聯結シテ、一大全体タルナリ。  
 今之ヲ畧說センニ、氏ハ先ツ智識ヲ得ルノ方便即チ論理學ヨリ始メテ、修辭學即チ巧ニ人  
 ヲ説服スルノ技術ニ及ホシ、次ニ史詩悲歌ヲ解剖シ、畢テ倫理學、政治學ノ如キ實際ノ學  
 問ニ遷リ、又一轉シテ科學ニ進ミ、更ニ心理學即チ氏ノ所謂哲學フアリストテフキロソフキ原フアリストテフキロソフキ礎ナルモノヲ研究  
 シツ、アルアル間ニ死セリ。

今前項ノ順序ニ由リテ、更ニ詳密ニ之ヲ説カン。

論理學

氏ノ最大功績ハ論理學(ロジック)ヲ發見シタルニ在リ。是レヨリ先キ、ソクテテス  
 及ヒアレントハ討論學(ダイアレクチック)ヲ發見シタリシカド、未タ通則ナルモノ  
 アラズ。氏此通則ヲ發見セント試ムルノ際、偶々論理其物ノ一箇ノ學術タルヲ悟リ、遂ニ  
 推測式(シロジスム)又三段論法トモ云フヲ作ル。但シ氏ハ此論理學ニ「ロジック」ナル名義ヲ  
 下サズシテ、之ヲ「アナリチック」即チ分解學ト名ケタリ。分解學トハ論理ノ結構ヲ分解  
 スル學ノ義ナリ。之ニロジックノ名ヲ與ヘタルハストイツク派ノ人々ナリ論理ヲ大別シテ演繹論理(デダクチーブ、  
 リーズニング)及ヒ歸納論理(インダクチーブ、リーズニング)ニ種ト爲

ス。演繹論理ハ一般ノ事ヨリ推シテ特別ノ事ニ及ホスノ論理ヲ云フ。例ヘバ、

凡テ人ハ早晚死スベキモノナリ

甲兵衛ハ人ナリ

故ニ甲兵衛ハ早晚死スベキモノナリ

ト云フノ類是レナリ。之ヲ演繹推測式ト云フ。歸納論理トハ特別ノ事ヨリ推シテ一般ノ事  
 ニ及ホスノ論理ヲ云フ。例ヘバ

甲乙丙丁ハ鶴ナリ

彼レ等ハ白シ

故ニ凡テ鶴ハ白シ

ト云フノ類是レナリ。之ヲ歸納推測式ト云フ。此歸納推測式ニ於テハ鶴果シテ皆此甲乙丙  
 丁ノ如キモノナランニハ、結論——故ニ凡テ鶴ハ白シ——モ亦隨テ正シト雖モ、然ラザル  
 片ハ、結論ヲ正シト云フヲ得ザルナリ。アリストールハ演繹論理ヲ完璧ノモノト  
 爲シ得タルモ、歸納論理ニ至リテハ、未タ之ヲ完璧ノモノト爲スノ運ヒニ至ラザリキ。

倫理學

氏ノ倫理學(エシツクス)ハ一ニ之ヲ「ニコマキアン」ト云フ。願フニ其子ニコマカ  
 スガ之ヲ校訂シタルコ由リテナラン。又書中「ユイデミアン、エシツクス」ト題スル部分  
 ハ、氏ノ作ニアラスシテ、門弟ユイデマスガ、氏ノ意見ヲ解釋セシモノナルベシ。  
 氏曰ク。「凡百ノ動作ノ目的ハ幸福ニ在リ。而シテ人類ノ幸福ハ我カ最良ノ諸力ヲ其秀逸  
 即チ善徳ノ法則ニ從テ均齊ニ用ユルヨリ成ル。善徳トハ兩端ノ間ノ中央即チ中庸ヲ云フ中立不倚ナリ。チ云  
 フ」ト。希臘人ハ是非ヲ以テ徳義上ノ醜美ト爲ス。故ニ善徳ハ良趣味ノ高尚ナルモノト爲  
 セリ。又氏ノ倫理學中ニ在ル最要事ハ善徳ハ意志ニ在リト主張シ、從來ノ學者ガ主  
 張セシ如ク、悟性ニ在リトハ云ハザルヲ、意志ノ習慣ハ同種ノ動作ヲ屢々スルヨリ生  
 スト云ヘルヲトス。氏又曰ク。「人類ハ社交的動物ナレバ、社會ヲ離ル、片ハ或ハ鬼神ト  
 爲ルカ、否レバ禽獸ト爲ルベシ」ト。故ニ氏ハ人ノ道ヲ説キタル學問(倫理學)ハ構成セ  
 ラレタル社會ノ學問(政治學)ノ只一派ト爲セリ。但シ倫理學ト政治學トヲ分離  
 セシハ、氏ヲ以テ嚆矢ト爲ス。

政治學

政治學(ポリチツクス)ニ於テハ、氏ハ理想上ノ國家ヲ畫キ、其人口二万、各々中等

ノ財產ヲ有スル地主ニシテ、國家ヨリ教育ヲ受ケ、親シク治者ニ知ラレ、又政權ニ參與シ、  
 政事ト軍事トノ外他ニ責任ヲ負擔セス。氏ハ主張スラク、賣奴ノ制ハ人民ヲ閑暇ヲ得  
 セシメンガ爲メニ必要ナリト。又云ク。人民ハ商人タルベカラズ。工匠タルベカラズ。金  
 錢ヲ貸シテ利子ヲ取ルベカラスト。又君主政治、貴族政治、君民共治ノ三政体ヲ叙述シ、  
 且ツ三政体ノ弊ハ擅制政治、寡人政治、平民政治ニ陥リ易キヲ論セリ。

生物學

氏又生活論(サイアンス、オブ、ライヴ)即チ今ノ所謂生物學(バイオロジ)

ノ補遺トシテ、靈魂ナル語ニ定義ヲ下シテ曰ク。靈魂ハ有機體ニ執リテ至要ナル實在物ナ  
 リト。此定義コソ當時普通ニ行ハレタル靈魂ハ身體ト分離スルヲ得ベシトノ説ニ優レルヲ  
 万々ナリ。又氏ノ動物研究ノ篇(リサーチス、アバウト、アニマルズ)ハ博物書中ノ最  
 モ舊キモノト云フベシ。篇中説キテ曰ク。動物ハ凡ソ五百目ニ分ツテ得ベシ。而シテ有脊  
 動物凡ソ三百五十アリト。氏又心理學ニ關スル事項ヲ説ケリ。其中ニ連環觀念ノ法則ノ  
 幾分ヲ明解シ、人類ノ追憶力ト自餘ノ動物ノ單ナル記憶力トヲ區別セリ。

博物學

心理學

セオフラスタス

セオフラスタス 紀元前三百七十四年生レ、同二百八十七年死ス。レスボスナルエ

レサスノ人ニシテ、アリストートルノ門弟ナリ。植物研究論九卷、植物界論リサーチス、アバット、プランツ  
プリンシプルス、オラフ、ゲエラヤ網六卷ヲ著ス。其他種々ノ小冊子アリ。

小ソクラテス派

三派アリ。一ハメガラノユークレイデスノ建ツル所ニシテ、之ヲメガラ派ト云フ。ユークレイデスハ、推論ノ手段ヲ批評スルコトニ向テ、殊ニ論理的虚偽ノ工夫ニ向テ有名ナル人ナリ。二ハアリストフアニズノ建ツル所ニシテ、之ヲシニツク派ト云フ。自然ノ快樂ヲ棄却スルヲ徳ト爲シ、禮式ヲ蔑視スルノ派ナリ。三ハシレンノアリスナツパスノ建ツル所ニシテ、之ヲシレナイツクス派ト云フ。轉變スヘキ自規ニ由リテ一様ナル快樂ヲ得ント求ムルモノナリ。此他プレトノ建設ニ係レルアカデミー派及ヒアリストートルノ建設ニ係レルペリパテナツク派ハ紀元前三世紀ノ初葉ニ至ル迄、社會ニ最モ勢力ヲ得タリシガ、同時代ニ至リテ二箇ノ新學派漸ク旺盛ニ赴ケリ。二箇ノ新學派トハ何ソ。エピキュラス派及ヒストイツク派是レナリ。

エピキュラス派

紀元前三百四十二年生レ、同二百七十年死ス。雅典近傍ニ住シ、學生ヲ集メテ之ヲ薰陶ス。エピキュラス派即チ人生ノ目的ハ快樂ニ在リト云ヘル學派ノ鼻祖ニシテ、輒近英國ノベンサム英國文學史ニ在リアウスチン上同ミル等ガ祖述セシモノハ實ニ氏ノ主義ナリ。

ストイツク派

鼻祖ヲゼノート云フ。(紀元前三百四十四年生レ、同二百六十年死ス。)展々雅典ノ遊廊「ペインテッド、ストア」ニ至リシヨリ遂ニストイツク派ノ名ヲ得タリ。同派ハ氏ノ門弟シリオンセス及ヒシリシツパスノ弘布スル所ニシテ、徳ヲ以テ只一ノ善行ト定メ、徳ニ背クノ外、害ナルモノナシト爲セリ。而シテ徳トハ自然ニ從テ生活スルノ謂ヒナリト云ヘリ。彼ノ禁慾主義ト云ヘルハ此學派ヨリ起リシモノナリ。

セリズ

(著者云ク。左ニ掲クル所ハ希臘哲學ノ大家セリズノ小傳ナリ。氏ノ文學ニ於ケル直接ノ關係遠シト雖モ、ソノ學ノ深遠ニシテ、ソノ識ノ高尚ナル、世上比類少ナキヲ以テ特ニ左ニ載セテ以テ讀者ノ參考ニ供ス)セリズハ紀元前六百四十年ノ頃、アイオニアノミレタスニ生ル。十日ノ視テ以テ希臘七賢人中ノ巨擘ト爲スモノナリ。父ハ本來フェニシア人ニシテ、アイオニアニ移住シタリ。セリズハ實ニ齊武ノ高祖カドマスノ子孫ナリト云フ。僂語ニ云ク。「苦棟ハ双葉ヨリ香シト。セリズハ夙ニ少時ヨリ國家ノ棟梁タルベキノ材幹ヲ顯ハシタレバ、衆皆之ヲ推シテ國家ノ公務ヲ委子タリ。然レトモ、氏ハ元氣カシキ政治ヲ好マズ。靜穩ニ哲學ヲ攻究スルヲ好メルヲ以テ、暫時ニシテ官職ヲ辞シ、而シテ當時學藝字内ニ冠タリト稱スル彼ノクレート地中海及ヒ埃及ニ航シテ、同地ノ學者ト親密ナル交際ヲ結ビタリ。ニ在リ

左レバ、セリズハ、埃及ニ在リテ、メムフ井スノ諸僧ヨリ數學上最モ有用ナル智識ヲ受ケ、其報酬トシテ<sup>ピラミツド</sup>金字塔ノ最高處ヲ測量スルノ法ヲ授ケ、又歸國ノ後ハ、一心不乱ニ哲學ノ研究ニ從事シタリ。

氏ハ終身妻ヲ娶ラズ。是レ伉儷の生活ヨリ生スベキ心配ト苦痛トヲ避ケンガ爲メナリ。世ニ傳フル所ニ據ルニ、當初氏ノ母ガ結婚ヲ勸メタル時ニ、氏ハ「猶早シ」ト答ヘ、其後復タ之ヲ勸メタル時ニ、「既ニ遲シ」ト答タリト云フ。氏ハ紀元前五百十年ニ九十歳ヲ以テ死セリ。

抑モ大才愚ナルガ如ク、大聲俚耳ニ入ラザルハ浮世ノ常ナレバ、今改メテ際々スル迄モナシ。セリズハ自餘ノ大人ト均シク、我カ得意ノ學科ニ一心ヲ專ニシタルヨリ、稍々世事ニ迂濶ナルノ觀アリテ、之ガ爲メニ凡俗ノ嘲笑ヲ招キシ事モ少ナカラザリキ。今一例ヲ舉レバ、一夜天休觀察ニ心ヲ奪ハレテ足邊ニ注意ヲ怠リタルガ爲メニ、誤テ水中ニ墮リ、老婆ノ爲メニ非難セラレ<sup>有名ナル説話故ニ畧ス</sup>タルガ如キ是レナリ。左レド斯ク凡俗ニ迂濶視セラレタルコソ則チ氏ノ氏タル所以ニシテ、其真正ノ價值ハ實ニ茲ニ存スルナリ。

氏ハ希臘哲學ノ鼻祖ニシテ、所謂アイオニア派ヲ建テタリ。彼ノソクラテス<sup>前ニ在リ</sup>派等ノ如キハ、皆氏ヨリ出テタルモノナリ。氏ノ著書ハ今存スルモノナシト雖モ、自餘ノ記録ニ由リテ考察スルニ、氏ハ造物主ノ存在ヲ信シ、宇宙万物ハ悉ク造物主ノ爲メニ水ヨリ組成セラレタリト爲セルガ如シ。又氏ハ(一)地球ノ圓体ナル事、(二)太陽ト星トハ水蒸氣ノ變化セル烈火ナル事、(三)月ハ不透明ナル物質ニシテ、太陽ヨリ光ヲ受ケル事、(四)人間ノ靈魂ハ永世不滅ナル事ヲ教ヘ、又天文學、數學ニ關スル前代未聞ノ發明ヲ爲シテ之ヲ學者ニ傳ヘタリ。有名ナル希臘ノ幾何學者ユークリッドノ如キモ、其原則ヲ氏ニ得タリト云フ。又日蝕ヲ發見シ、一年ノ三百六十五日ナルヲ確知シタルモ亦氏ヲ嚆矢ト爲ス。

氏ハ常ニ三事ヲ上帝ニ感謝セリ。(一)獸類ニ生レズシテ人間ニ生レタル事、(二)婦人ニ生レズシテ男子ニ生レタル事。(三)野蠻人ニ生レズシテ希臘人ニ生レタル事はレナリ。

### 第三篇 衰世ノ文學

#### 第一章 自歷山大王至アウガスタス帝

(自紀元前三百年至同三十年)

(一)歷山府風時代——自紀元前三百年至同百四十六年

詩

- コリリマカス 紀元前二百六十年ノ頃ノ人
- リコルフチン 同上
- アポロニアス、フチヤアス 同百九十四年ノ頃ノ人
- アラタス 同二百七十年ノ頃ノ人
- ナイカンダー 同百五十年ノ頃ノ人
- セオクリタス 同二百七十年ノ頃ノ人
- パイオン 同上

モスカス及ロ其同時代ノ少年  
理學

- ゼノドタス 同二百八十年ノ頃ノ人
- アリストフアニス 同二百年ノ頃ノ人
- アリストターカス 同百五十六年ノ頃ノ人
- アポロドラス 同百四十年ノ頃ノ人
- ユークリッド 同三百年ノ頃ノ人
- エラトスセニス 同二百四十年ノ頃ノ人
- アーキメデス 同上

歴史

- マチソ 同二百七十年ノ頃ノ人
- ペロサス 同上
- (二)希臘羅馬時代 自紀元前百四十六年至紀元後五百二十九年
- 第一部 白羅馬人希臘征服紀元前百四十六年至羅馬共和政之終十年
- 歴史
- ホリピアス 紀元前百四十五年ノ頃ノ人
- ダイオドロラス、シキユラス 同四十年ノ頃ノ人 (第二部ハ本章ニ在リ)

希臘風

ヘレニスム

マセドニア王フシリツプノ希臘軍ヲチエロニアニ敗ルヤ、希臘諸府ハ實ニマセドニアノ附庸ト爲リタレバ、其法律ヲ異ニシタルニモ拘ハラズ最早大事ニ關シテ實權ヲ有スルコトナク、政治上ノ自由ヲ失ヘリ。既ニシテフシリツプ王ノ子歴山大王東洋ヲ征服スルニ及ビテ希臘ノ文明ハ廣ク四方ニ普及シ、殊ニ西亞細亞ニ新設セルアンチオツク及ビセリウシアノ如キ諸府ニ於テハ亞細亞人ノ住スルモノト、希臘人ノ住スルモノト其數ヲ均シクシタリシカバ、不知不識ノ間ニ希臘風ニ化スルモ亦自然ノ事ト云フベシ。歴山大王崩御シ、其王國不意ニマセドニア、亞細亞、埃及ニ三分スルノ後、前記ノ亞細亞洲諸府ハ其精神ニ於テコソ獨立トナリタルナレ、ソノ外形ニ於テハ依然トシテ希臘風ヲ脱セズ。言語文章ヨリ家屋、神社、肖像、劇場、遊廊、浴室等ニ至ル迄恰カモ希臘ニ在ルカ如シ。斯ノ如クソノ人種ハ希臘ニアラズシテ、ソノ風俗ノ希臘ナル之ヲ名ケテヘレニスム即チ希臘風トハ云フナリ。

希臘風ノ文學ハ最早自然的、原造力ヲ失ヒ、人生ヨリ直接ニ發スルニアラズシテ、既ニ現存セル書籍ヨリ發スルコト爲レリ。故ニ希臘ノ文學ハ原造的ニシテ賞スベカリ

シモ、希臘風ノ文學ハ摸擬的ニシテ厭フベシ而シテソノ著述家ノ如キモ、今ハ希臘諸自由都府ニ棲息スル同胞ノ全体ニ訴フルヲ止メテ、僅少ナル貴族學者ニ訴ヘ、其判斷ヲ乞フテ之ニ甘スルニ至レリ。

希臘風文學  
ノ中心ハア  
レキサンド  
リア府ニ在  
リ

是時ニ當リテ、希臘風文學ノ中心点ハアレサンドリア府ニ在リ。左レバ、保存者ノ

綽名アル埃及王トレミー一世紀元前三百六十年生レハミユールセアム 詩神ミユールスノ神社ト云フ義ナリ 方今ハ一般ニ博物館ノ義ニ用ユ

ト稱スル近世ノ大學校様ノモノヲ建設ンテ、茲ニ技藝室、講義室、會食室ヲ置キ、又有名ナル學者ヲ網羅セリ。又文庫ヲ設ケテ七十万部ノ希臘書籍ヲ集メタリ。

アレキサンドリア文學ニ於テハ、散文最上位ヲ占メ、殊ニ理學ト考証學トチ尤トス。

詩ニ至リテハ、學問ノ臭氣ヲ帶ヒタルモノニアラザレハ尊重セラレザルナリ。

學詩  
——  
ユーリマカ  
ス

學詩——ユーリマカス 紀元前二百六十年ノ頃ノ人ナリ。六種ノ讚美歌、及ヒ數多ノ短詩アリ。又曾テ有名ナリシ悲歌類ハ今僅カニ碎片ヲ存シ。他ハ皆カタラス羅馬文學ノ史ニ在リ

羅甸語ニ翻譯セルモノ、ミ。

ロザアス

アポロニアス、ロザアス 紀元前九十四年ノ頃ノ人ナリ。アゴ遠征史(アゴ

ノイチカ)ヲ著ス。同書ハ四卷ヨリ成レル史詩ニシテ、マエソングアゴ船ニ乗シ、金羊毛探索ノ航海ヲ爲セシ頓末ヲ叙セリ。當時ノ詩中ノ巨璧ナリ。

ライコフロ

ライコフロ 紀元前二百六十年ノ頃ノ人ニシテ、アレキサンドリア悲歌人中ノ最モ擧ンデタルモノナリ。アレキサンドラト題スル詩ヲ著ス。

教詩  
——  
アラタス

教詩——アラタス 紀元前二百七十年ノ頃ノ人ナリ。天氣豫報(プログノスチツク

ス、オフゼ、ウエザ)ト題スル天文學的史詩ヲ著ス。シセロ羅馬文學ノ史ニ在リ之ヲ羅甸語ニ翻譯セ

ナイカンダ

ナイカンダ 紀元前百五十年ノ頃ノ人ナリ。著ハス所ノ兩史詩今現存ス。一ヲセリ

アカ校毒ト云ヒ、一ヲアレキシファーマカ解毒ト云フ。其他今亡ヒタルジョリツクスハ

ヴァーシ羅馬文學ノ史ニ在リル爲メニ摸倣セラレ、同ツランスフライメーシヨンス變化ハオヴサツド

上ノ爲メニ摸倣セラル。

牧歌  
——  
セオクリタ  
ス

牧歌——セオクリタス 紀元前二百七十年ノ頃生活ス。シラキユースノ人ナリ。三

十一篇ノ短詩ト二三ノ碎片トアリ。然レトモ其作ノ眞偽ハ保シ難シ。



バイオン アイオニアノ人ニシテ亦牧歌ノ作者ナリ。アドニスヲ弔スルノ歌最モ有名ナリ。其門人モスカスハシラキユースノ人ニシテ亦牧歌ヲ作レリ。其他フリアスノナモン紀元前二百八十年ノ頃ノ人等亦此歌ヲ以テ名アリ。

散文——哲學及ヒ批評學——ゼノドタス 紀元前二百八十年ノ頃ノ人ナリ。ミユーセアムノ文庫掌管者タリ。文學史備忘録ヲ著シ絶世ノ佳語佳句ヲ集メタリ。

アリストフアニス 紀元前二百年ノ頃生活ス。ピザンチアムノ人ナリ。散文記者ト爲リテ希臘語ノ轉訛スルヲ防カントセリ。

アリスナツカス 紀元前百五十六年ノ頃ノ人ナリ。原理原則ニ基キテ批評解釋ヲ下セリ。人呼ヒテ學術研究者ノ鼻祖ト稱ス。文法學ヲ創設シタルハ氏及ヒ氏ノ學派ヲ汲メル人々ノ一大事業ナリ。氏ノ門人ハアポロドラスノ名義ヲ以テアポロドラスハ紀元前百四十年ノ頃ナリ希臘鬼神傳三卷ヲ著ス。

理學——ユークリデス 即チユークリッドノ事ナリ。アレキサンドリアニ住ス。有名ナル幾何學原理ヲ著ス。

アキメダス 紀元前二百一十二年死ス。螺旋ノ發明者ナリ。其同時代ノ人エラトスセニスハ天文地誌及ヒ學術史ノ鼻祖ナリ。

希臘羅馬時代 紀元前百四十六年希臘、羅馬ノ爲メニ征服セラレテヨリ、羅馬人ノ精神ハ益々希臘化セラレ、アウガスタス帝ノ時ニ至リテ全ク希臘風ト爲レリ、而シテ希臘文學ニ於ケル希臘羅馬時代ハ羅馬共和政ノ終ニ至ルマテ連綿タリ。

此頃埃及ノ僧マチソハ埃及史ヲ著シ、パピロンノ僧ベロサスハカルデア史ヲ著セリ。

ポリビアス 紀元前二百十年ノ頃生レ、同百二十八年ノ頃死ス。ヒロドタス前ニサシチデス上同以來希臘史家ノ尤ト稱セラル。歴史四十卷ヲ著ス。今其最初ノ五卷ト第六卷乃至第九卷ノ碎片トチ存スルノミ。

第一二卷 發端ナリ。主トシテ第一ピュニクク戰(紀元前二百六十二年ヨリ同二百四十年ニ至ル)及ヒアケアン同盟ノ頓末ヲ叙述ス。

第三卷 第二ピュニクク戰(紀元前二百十八年)ヨリカンチア戰(同二百十六年)ニ至ル迄ヲ叙述ス。

●●●●●  
第四五卷 希臘シリア戰ヲ叙述ス。

以下ノ諸卷ニハ羅馬戰勝ヨリ紀元前百四十六年ニ至ル迄ノ事ヲ叙述ス。

ダイオドロ  
ス、シキユ  
ラス

ダイオドロラス、シキユラス 紀元前四十年ノ頃ノ人ナリ。万國史四十卷ヲ著ハシ。世界開闢ヨリシリアルノゴール征討ニ至ル迄ノ事ヲ記ス。今僅ニ其第一卷乃至第五卷ヲ存スルノミ。

第二章 自アウガスタス帝至シヤヌニアン帝

(自紀元前三十年至紀元後五百二十九年)

希臘羅馬時代 (承前)

(甲)

歴史、傳記、地誌

ハリカーナサスノダイオニシアス 紀元前二十五年ノ頃ノ人

プルターク 紀元後九十年ノ頃ノ人

スツレーボ 同十八年ノ頃ノ人

ホーサニアス 同百六十年ノ頃ノ人

(乙)

考証學

アゼ子アス 同百九十年ノ頃ノ人

(丙)

修辭及ビ小説

ルシアン 同百六十年ノ頃ノ人

リパニアス 同三百五十年ノ頃ノ人

ヘリオドロラス 同三百九十年ノ頃ノ人

(丁)

哲學

ストイツク派

エビクテタス 同九十年ノ頃ノ人

マールカス、アウレリアス 同百七十年ノ頃ノ人

プレト派

プロチナス。ポーフ井リ。アイアムブリカス 自同二百五十年至三百年

雅典派

プロクラス 同四百五十年ノ頃ノ人

(戊)

韻文

バプリアス 同四十年ノ頃ノ人  
 オピアン 同百八十年ノ頃ノ人  
 ノンナス。クギンタス、スミルチアス 自同四百年至四百五十年  
 ミリセアス 同五百年ノ頃ノ人  
 鬼神詩  
 歌集

羅馬帝國ノ下ニ於ケル希臘文學

歴史——ダイオニシ

羅馬帝國ノ盛大ヲ極ムルニ當リテ、希臘ノ言語ト文學トハ漸ク文明社會ニ普及シ、到ル處大都會ノ地ニ大學校様ノモノ興ラザルハナク、官撰ノ教師ハアレキサンドリア、アンチオック、ターサス、ロデス、パーガマス、ビザンチアム、雅典、羅馬、マルセーユ、リオンノ各大學ヲ管理セリ。當時——自アウガスタス帝至シヤヌスニアン帝——希臘風ノ文學ハ四大派ニ別カレタルガ如シ。(一)歴史并ニ傳記(二)考証學並ニ文典、批評書、古物、及ヒ文學上ノ雜書(三)脩辭學理論實際共ニ、且ツ(四)哲學重モニストイツ是レナリ。詩歌ニ至リテハ始ント記スベキモノナシ。對話、小説、書翰等

歴史——ハリカーナサスノダイオニシアス 紀元前二十五年ノ頃ノ人ナリ。其著 古事アーチエオロ

記即チ羅馬古代史自上古至紀元前二百六十四年ニ於テ、羅馬人ハ世界ヲ支配スルノ才幹ヲ有スルガ故ニ、

野蠻人ニハアラズシテ、必ラズ希臘人ノ子孫ナリト云ヘリ。又修辭上ノ書ヲ著セリ。

シヨセフア

シヨセフアス 猶太種族中ノ門地アル人ナリ。希臘語ヲ以テ猶太古代史二卷、猶太戰史七卷ヲ著ス。皆ダイオニシアスニ則レリ。

アリアン

アリアン 紀元後百年ノ頃ニ生ル。パイアス帝ノ時執政タリ。歴山大王亞細亞遠征史七卷ヲ著シ、以テゼノフラン前ニノアナバシスニ競ヘリ。又印度史ヲ著ス。

右ノ外アヒアン紀元後百四十年ノ頃ノ人ハ羅馬史ヲ著シ、ヒロヂア紀元後二百四十年ノ頃ノ人ハコムモグス帝ヨリゴルヂアン帝ニ至ル迄自紀元後百八十年ノ諸帝紀ヲ著ハセリ。

傳記——アルターク

傳記——アルターク 紀元前四十九年ノ頃ポーシアナルケロニア府ニ生レ、同百四十年ノ頃死ス。少時デルファイニ赴キ、有名ナル教師アムモニアスニ就キテ哲學數學ヲ修メ、歸國ノ後、猶年少ナルニモ拘ハラズ、國民ノ依囑ヲ受ケ、其代表者トシテ重任ヲ帯ヒテ、羅馬總裁代理官ノ許ニ到リ、使命ヲ全フシテ歸ル。後哲學史學研究ノ爲メニ埃及希臘ノ各地ヲ遊歴シ、又羅馬ニ住宅ヲ定メテ學校ヲ開ク。ツレジエン帝五十二年生レ百十七年死ス羅馬帝ナリ氏ノ才能ヲ

感賞シ、執政ニ任シ、イリ、カムノ太守ト爲ス。ハドリアン帝七十六年生レ百三十八年死ス同上亦氏ヲ優待セリ。帝崩御ノ後、ケロニア府ニ歸リ、一身ニ名譽ヲ荷ビツ、安靜ナル日月ヲ送レリ。是時ニ當リテ、希臘ノ人口大ニ減少シ、全國ヲ擧ルモ、戰場ニ臨ミ得ル者僅ニ三千人ニ過ギズ。——往時メガラト云ヘル一小都府ヨリアレテアノ戰場雅典スバルタノ兵營テポーサニアスノ部下ニ波斯王セルセスノ軍ト此地ニ戰フタニ臨ミシ兵ト同數ナリ——氏之ヲ愛フ。此頃「四十六比較傳」パテレルリウス即チ所謂英雄傳ヲ著ハセシモ、其意、希臘ニモ往時ハ羅馬ト同シク英雄豪傑輩出セリトノ事實ヲ世上ニ示サシガ爲メナラント云ヘリ。

英雄傳ハ一人ノ希臘人ト一人ノ羅馬人トヲ一對ト爲シテ、之ヲ比較シタル者ナレド、時ニ比較スベキ理由ノ甚少ナキアリ。例ヘバ、アルシピアデス紀元前四百五十年生レ同四百四十年死ス雅典有名ナル將軍ナリトコリオラ紀元前四百八十八年死ストハ、只擯斥セラレタル後ニ暗殺ニ逢フタルノ一事相似タルノミ。又比較以外ノ傳四アリ。アータゼルセス二世子モン（紀元前三百六十二年生レ波斯王ナリ）傳、アケアン同盟ノ創設者アレータス紀元前二百十三年死ス傳、ガルバ帝紀元前三年生レ紀元後六年死ス羅馬帝ナリ傳、オソ帝三十二年生レ六十九年死ス同上傳、是レナリ。此英雄傳ハ巧ニ英雄ノ性質ト社會ノ事態トヲ描寫シ、殆ント眞ニ迫レルヲ以テ、天下後世ノ

喝采ヲ博シ、獨リシエクスピア次巻英國文學史ノ部ニ詳ナリガ之但シノヲ根據トシテ羅馬演劇ヲ作リシノミニ止マラズ、苟モ學者トシテ、政治家トシテ、名テ瀟カセシ泰西人ハ少時ヨリ此書ヲ愛讀セザルモノナキナリ。

氏又倫理論モラリア即チ英語ノエシカル、ウワークスハ八十部門ヨリ成ル。而シテ獨リ倫理上ノ問題ヲ論スルノミカ、又歴史上、古物學上、物理學上ノ問題ヲ論セリ。其倫理上ノ問題ニ就テ最良ト稱スベキチ長談論、破廉耻論、制怒論、天罰猶豫論トス。又十雄辨家傳、ホーマー傳ノ如キハ、氏ノ眞作ニアラザルヲ明カニ、箴言集ノ如キモ、或ハ偽作ナラン。尤モ是レ等ノ箴言中ニハ面白キモノナキニアラズ。例ヘバ、

吹笛者アリ。マセドニア王マセドニア王ヲ非リツプト音樂ヲ論ス。結局吹笛者、王ニ答フヲク。「天ハ陛下ガ臣ノ如ク是レ等ノ事ヲ理會スルヲ禁セリ」ト。  
 二三ノオリンサスオリンサスハマセドニア有名ノ府ニシ共相政ノ叛徒、フ非リツプ王ニ訴ヘテ曰ク。マセドニア人治ナリフ非リツプ之ヲ滅シ住民ヲ奴隸ニ覽ル  
 ハ吾人が細里ノ都府ヲ滅亡シタリトテ吾人ヲ罵ルト。フ非リツプ對ヘテ曰ク。マセドニア人ハ粗俗ノ人類ナレバ、鐵ヲ鐵ト稱スト。

ノ類是レナリ。

ダイオゼニス  
ス、ラーシ  
アス

ダイオゼニス、ラーシアス。シリシアノ人ニシテ、エピキュラス派前ニ在リノ哲學者ナリ。紀元後二百二十二年死ス、哲學者傳(リヴス、オフ、ゼ、フネロソフアース)十卷ヲ著ハシ、八十四哲學者ノ傳記ヲ載ス。今現存セリ。同書ハ希臘上古ノ哲學者、ブレト派、アリストーッル派ノ哲學者ノ履歷、逸事、奇談、各自ノ意見等ヲ詳叙シ、殊ニエピキュラス派ノ哲學者ヲ叙スルノ篇最モ細密ナリ。

フネロソフ  
ラタス

紀元後二百三十五年生ル。詭辨者傳(リヴス、オフ、ゼ、ソフネスツ)ヲ著ス。同書ハ詭辨者五十九人ノ傳ヲ載セタルモノニシテ、近古修辭學史ノ材料タルベキ價值ヲ備フ。又繪畫傳(ピクチュアス)ニ於テハ、各種ノ繪畫六十六箇ヲ載セ、而シテ著者ハテンプルスノ繪畫展覽館ニ在ル眞物ヲ寫シタリト云フト雖モ、其實著者ノ想像ニ出テシナラン。左レド技藝史トシテハ頗ル面白ク、且ツ有益ナリ。氏又アポロニアス傳ヲ著ス。アポロニアスハ紀元後五十年生ル。チアナノ人ナリ。ピサゴラス紀元前五百二十年(?)生レ同五百年(?)死ス希臘ノ哲學者ナリ派ノ哲學ト東洋流ノ魔術トヲ合シテ、一種ノ魔術師ト爲リ、當世ニ敬信セラル。羅馬帝アレキサンダー、セヴエラ二百二十二年位ニ即キ同三十五年死ス之ヲ尊重シ、其半身像ヲアブ

アポロニア  
ス

ラハム、基督等ノ半身像ト並ヘ置キタリト云フ。

地誌  
ツレ  
ボ

地誌——スツレボ。紀元前五十四年ノ頃生レ、紀元後二十五年ノ頃死ス。地誌十七卷ヲ著ハシ、第一二卷ニハ地誌ノ必要ヲ論シ、第三卷コハ西班牙ノ事ヲ載セ、第四卷ニハゴール及ヒブリツナス諸島、第五六卷ニハ伊太利及ヒ其近海諸島、第七卷ニハ獨逸等此卷今完カラズ第八九十卷ニハ希臘及ヒ其近海諸島、第十一卷以下四卷ニハトラス山以内ノ亞細亞諸國、第十五、十六卷ニハトラス山以外ノ亞細亞諸國即チ印度、波斯、シリア、亞刺伯、第十七卷ニハ埃及、エシオピア、カーセージ、其他阿非利加ノ諸國ヲ載セリ。氏ノ地誌ハ通常ノ地誌ト異ナリテ、専ラ詩歌ニ詠セラレ、史傳ニ載セラレタル名所舊跡ヲ記セルガ故ニ之ヲ敘事的ノ地誌ト言ハンヨリハ、寧ロ文學的ノ地誌ト稱シテ可ナルベシ。

ボーサニア  
ス

紀元百六十年頃ノ人ナリ。アツチカ、コリンス、ラコニア、メツセニア、エリス、アカイア、アーカデア、ボーシア、フナシス皆希臘ノ地ナリヲ歴遊シテ、希臘漫遊記十卷ヲ著ハス。詳細ナル風土記トシテ、將タ技藝ノ記念碑トシテ、頗ル價值アリ。  
トレミー(即チクロイデアス、トレミアス)アレキサンドリアノ人ナリ。紀元後百六十年

クロイデア  
ス、トレミ  
アス

頃ニ棲息ス。數學上ヨリ天文學、地理學ノ法則ヲ定メ、一般ノ信據スル所ト爲ル。十六七世紀ノ頃コパーニカス一千四百七十二年生レ一千五百四十二年死ス、英國ノ天文學者ナリノ説行ハル、ニ及ヒテ、始メテ氏ノ説願ミラレザルニ至リタリ。氏ハ太陽、恒星、惑星ヲ以テ地球ノ周圍ヲ廻轉スルモノト爲シ、又地球ノ周邊ヲ以テ今現ニ在ルヨリモ一層狭小ナルモノト誤想セリ。彼ノコロムハスガ歐洲ノ東岸ヨリ亞細亞ノ西岸ニ至ル迄ノ距離ヲ實際ノ三分一許ニ計算シテ、航海ノ事ヲ思ヒ立チシガ如キハ、全ク氏ノ説ヲ信奉シタルヨリ起リシナラン。

考証學

考証學 アレキカンドリアニ於テ一タビ考証學ノ端緒ヲ開キテヨリ、文典若クハ批評書類最モ流行テ極ムルニ至レリ。今其重モナルモノヲ擧レバ、二世紀ニ於テシユリアス、ボラツクスハ希臘字典(オノマスキコン)ヲ著シ、百六十年ニ醫師ゲーレン百三十年生レ二百ハ、プレト前ニ在リヒボクテテス紀元前四百六十年生レ同三百五十七年(?)死ス希臘ノ醫師ナリノ著書ニ註釋ヲ施セリ。ヒボクテテスハ希臘醫學ノ鼻祖ニシテ、アイオニア語ヲ以テ書キ著ハセシ人ナリ。ゲーレンノ目的ハ心身相關ノ理ヲ説キテ醫學ヲ心理學ニ基カシメント欲スルニ在リ。アセチアスハ紀元後百九十年ノ頃ノ人ニシテ、新様學書ノ代表者ナリ。其著「晚餐ニ於ケル醫師」十五卷ニ於テ會

アセチアス

ボリエトナス及ヒ其他ノ人々

話体ヲ以テ文學ヨリ飲食ニ至ル迄百般ノ事ヲ述フ。又ボリエトナス紀元後百七十一年ノ頃ノ人ハ八百以上ノ奇談ニ由リテ兵學上ノ事ヲ述ヘ、エーリアンハ紀元後百七十一年ノ頃ノ人歴史上、傳記上、古事學上ノ事ヲ述ヘ、ストベアスハ、アソソジ人性論等ヲ著シ、フチシアスハオンスアリミナ傳或ハ云フ偽作ナリト著ハセル頃ハ此學ナラデハ

修辭學

修辭學 此學ハハローモゼニス紀元後百七十一年ノ頃ノ人之ヲ完全ナル仕組ト爲シテヨリ、漸ク世上ニ流行シ、カシアス、ロンシナス紀元後二百六十年ノ頃ノ人高尚論或ハ云フ偽作ナリトヲ著ハセル頃ハ此學ナラデハ立身ノ端緒ヲ開クコト能ハザル程ト迄ニ爲レリ。今ソノ頃有名ナル人々ヲ擧レバ左ノ如シ。ルシアン 紀元後百六十年ノ頃ニ生活ス。ユーフレーツ河上サモサタノ人ナリ。諸神ダイアログス、ホフ、ゼ、ルシアン、エツ、ダイアログス、カフ、ゼ、デツ、アツ、クシ、ヨ、ホフ、フ、非、ロツ、フ、ア、スノ對話、死人ノ對話、哲學上ノ競賣等ヲ著ス。後者ニ於テハ鬼神が大哲學者ヲ訪問シ、ソノ價值ヲ評シテ、ソクテテスニ五百磅ヲ與ヘ、アリストートルニ百磅ヲ與ヘ、又ルシアンヲ誹議ノ罪ニ處セントシタルヲ、プレトノ仲裁ニ由リテ許サル。

シユリアン帝

シユリアン帝 紀元後三百三十一年生レ、三百六十二年死ス。譏刺文ニ長セリ。「帝王」テ著シテ「憎髯者」ヲ著シ、アンチオツクノ人民ガ帝ノ行幸ニ際シ、其ノ意見加ヘテナラズ其髯

小説

スラチモ凌辱シタルヲ誅レリ。

小説ロマンハアウガスタス帝以前ニ昉リ、分カレテ二派ト爲ル。一ニ純希臘語ノ小説ト云フ。エ

フエサスノゼノフチン願フニ紀元後三百六十年以前ノ人ナランノエフエサス物語、及ヒロングナスナル者ノ「ダフ

ナス及ヒクロロー」ト題スル牧歌的小説ニ由リテ之ヲ代表ス。エフエサス物語ハアンシアト、

ハプロコムストノ戀情ヲ叙述セルモノナリ。又タ一派ハギリリア印度等ノ東洋物語ニシテ

ヘリオドラス之ガ代表者タリ。ヘリオドラスハ紀元後三百九十年ノ頃ノ人ニシテ、エシオ

ピア物語ヲ著シ、デルファイノ厄カリシレアガ、セサリ人セーシチスト埃及ニ逃レタル

顛末ヲ記セリ。

哲學

哲學ノ當時流行セルハストイツク派トプレト派トナリキ。茲ニ兩派ノ重モナル入々ヲ舉

ケン。

エロクテタ

エロクテタス フリジアナルヒニラポリスニ生ル。初メエパフロヂタスノ奴隸タリ。性虛

弱ニシテ跛ナリ。子ロ帝ノ時、自由ノ身ト爲ル。後トミシアン帝ノ時、先帝テロニ自殺ヲ勸

メタリトノ嫌疑ヲ以テ死刑ニ處セラル。世ニ傳フ。氏猶奴隸タリシ時、一日主人ハ氏ノ足

ヲ批リシカバ、氏ハ主人ニ言ヘテク。「主君若シ強テ歩行セントナレバ、君ハ我カ此足ヲ折

ラザルヲ得ズ」ト。主人聽カズシテ歩ミ、ソノ足ヲ折ル。氏泰然トシテ曰ク。「果シテ予ノ

言ノ如シ」ト。門人アリアン、氏ノ言ヲ集メテ「エロクテタス哲學論語」ヲ著ハス、又同書ハ

四十卷ノ大部ニ渉ルチ以テ之ヲ節約シテ「マニユアル」ヲ著ハセリ。

エロクテタスノ哲學ハソクテラスノ欲ヲ基本トセルストイツク派ノモノナリ。而シテ其注

意ヲ實際倫理學ニ限レリ。氏云ク。智慧ノ初ハ某々ナルカ、某々ナラザルカヲ識別スルニ

基ク。又云ク。人力ノ能クシ得ル一事ハ自己ノ靈魂ヲ以テ事物ノ外觀ニ由リテ正當ナル判

斷ヲ下シ、斯クシテ宇宙ノ秩序ニ從テ生活シ、以テ幸福ヲ享受スルニ在リ。若夫レ貧困、

失敗、死亡ハ人力ノ及ハザル所ナレバ、平意以テ之ヲ待ツベシ。又靈魂ノ力ヲ微弱ナラシ

ムベキ事項ハ勉メテ之ヲ避ケザルベカラズ云々ト。

マールカス、アウレリアス 紀元後百二十一年生レ、同百八十年死ス。羅馬帝ナリ。希臘語

ヲ以テ默思錄十二卷ヲ著ス。同書ハ宗教的哲學ト云フベキモノナリ。

プレト派哲

又プレト派ノ哲學ハ晩ニ漸ク勢力ヲ得、ストイツク派ト競争セリ。此派ハ遠クプレト

ヨリ起リ、アレキサンドリアノ猶太人ノ力ニ由リ、發達シテ神秘説ト混合シタリ。此派ノ主義トスル所ハ慾ヲ禁シ、考ヲ密ニシテ、遂ニ靈魂ヲ全ク官能界ヨリ脱シ、万能ノ源タル神明ト聯合セシムルニ在リ。此教ハヌーメニアス紀元後百五十一年ノ頃ノ人之ヲ確定シ、アムモニアス、サツカス之ニ改良ヲ加ヘ、其門人プロチナス紀元後二百四十年ノ頃ノ人最モソノ奧義ヲ究メ、氏ハ四回神明ト交遊シタリト云フ又其門人ポーフ非リ、又ソノ門人アイアムビカス等之ヲ完全シタリト云フ。

雅典派哲學

雅典派哲學ト云ヘルハ、五世紀ノ頃ニ起レル一派ニシテ一層平靜ナル精神ヲ有セル人々ノ創設ニ係レルモノナリ。而シテ其派ノ重モナル人ヲプロクラス(紀元後四百五十年ノ頃ノ人)ト爲ス。氏ハブレト派哲學中ノ學理ニ稱ヘルモノト、舊派ノ最良ナル元素トヲ聯合シテ一大新派ヲ建テ、之ヲ行ハレシメント勉メタリ。然レトモ成ラズ。其後又ソノ流ヲ汲ム人々亦之ヲ試ミタリシモ成ラズ。遂ニ基督教ノ爲メニ全勝ヲ占メラレ。シヤスチニアン帝ノ勅令ニ依リテ異端哲學ヲ禁止セラレタルガ爲メニ滅ヒタリ。時ニ紀元後五百二十九年ナリ。

詩

是時ニ當リテ、高尙絶妙ナル詩ハ前後三百年ノ間、殆ント一篇ダニ世ニ顯ハル、コナク、

只バブリアス(紀元後四十年ノ頃ノ人)伊蘇普物語ヲ韻文ニ綴リ、彼ノ「狼ト小羊トノ話」ナド巧ニ音節ニ合セシカバ、羅馬ノフエドラスハ之ヲ羅句語ニ翻譯シタリト云フ。又オピアン(同百八十年ノ頃ノ人)ハフサヤス、アト、ハンチン漁業術及ヒ獸獵術ト題スル兩箇ノ教詩ヲ作りテ甲ニ於テハ魚類ノ習慣ト之ヲ捕フルノ法トヲ述ヘ、乙ニ於テハ獸獵ノ方法ヲ説キ、ノナスハ五世紀ノ初ニ「ダイオナイサスノ危難」ト題スル小説体ノ史詩ヲ作り、クサントス、スミルチアス(紀元後四百五十年ノ頃ノ人)ハイリアツドノ續篇ヲ草シ、ミューセアス(五世紀ノ人)ハ三百四十篇ノ詩ヲ作レリ。

鬼神詩

鬼神傳ニ關係アル詩ハ晩年稍々流行ヲ來セリ。今ソノ二三ヲ舉レバアゴ遠征史(アゴノイナカ)——前記ノアポロニアス、ロヂアスノ作ニ係レル同名ノ詩トハ異ナリ——ハ四世紀以前ニ埃及ニ於テ顯ハレタルモノナルベク、又音樂師、豫言者、魔術師タルオルフエアスハ此詩人中ノ拔群ナルモノナリ。左レハ七百六十八年ニ於テ「リシカ」ト題スル六韻脚ノ詩ヲ作りテ魔術ノ効用ヲ説キ、八十七篇ノ讚美歌ヲ作りテ神德ヲ頌讚セリ。

歌集

又歌集ト題スル書アリ。シオスノシモニヂズ前ニ在リヨリ六世紀ニ至ル迄殆ント千年間ニ涉



レル短篇ノ傑作ヲ集メタルモノナリ。此編纂ノ任ニ當リタル者、一ハコンスタンチノープルノ僧マキシマス、プラニウデス（一千三百二十年ノ頃ノ人）ニシテ、之ヲ七卷ト爲セリ。又一ハ九百二十年ノ頃コンスタンチナス、セフアラスノ編纂スル所ニシテ猶一層ノ好評ヲ博セリ。コレヲノ歌集ニハ戀歌、技術歌、死者ヲ弔スルノ歌、其他人間ノ利害感情ニ關スルモノ一トシテ包含セラレザルハナキナリ。

今ヤ希臘古代文學史ノ梗概ヲ叙述シ畢リタリ。著者ハ可及的僅少ナル紙數中ニ可及的數多ノ事項ヲ記入シタリト信ス。然レトモ倉卒ノ創試ニ係ルヲ以テ杜撰ノ廉モ多カラシ。讀者幸ニ之ヲ恕セラレヨ。

### 希臘文學史畢

甲 表覽一書著ニ并家述著

紀元前	至自	紀元前	至自	紀元前	至自	紀元前	至自
七百年	至自	七百年	至自	七百年	至自	七百年	至自
史詩	至自	史詩ノ發微	至自	史詩ノ作者	至自	史詩ノ作者	至自
悲歌	至自	悲歌短長歌ノ作者	至自	悲歌短長歌ノ作者	至自	悲歌短長歌ノ作者	至自
短長歌	至自	短長歌ノ作者	至自	短長歌ノ作者	至自	短長歌ノ作者	至自
樂詩	至自	樂詩ノ作者	至自	樂詩ノ作者	至自	樂詩ノ作者	至自
	至自		至自		至自		至自
	至自		至自		至自		至自
	至自		至自		至自		至自
	至自		至自		至自		至自

(年百三前元紀至古太自)甲

哲學	演說	歴史	滑稽曲	悲劇
哲學者 セビサゴ ラニスズ		古史家 アイオニア 散文家 ヘカテアス	滑稽曲ノ作者 シニーザリオン	悲哀曲ノ作者 セスピス
哲學者 アエム ナキバド クリス ラニスズ	雄辯家 ア ン チ フ サイ テ ス	史家 ヘ ラ ニ カ ス サ シ ゲ テ ス	滑稽曲ノ作者 クラチ ナ ス クリ スト フ ア ニス	悲哀曲ノ作者 フリ ニ カ ス エ ス キ ラ ス ソ フ チ ク リ ズ ユ ー リ ビ ゲ ズ
哲學者 ア プ ス ト ー ツ ル	雄辯家 ア ハ ラ エ テ ア ラ イ イ イ モ イ ン ナ カ シ セ ク シ ラ ア テ ア テ ニ ス ス ス ス ス ス	史家 ク テ シ ア ン セ ノ フ テ ン 修 史 家 セ ノ ボ ム バ ス エ フ テ ラ ス	中古滑稽曲 新滑稽曲 ハ メ ナ ン ダ ー	

乙 表覽一書著ニ并家述著

理學	地誌	傳記	歴史	紀元前
ピ セ ノ ス ム ノ フ ア リ ア ス			マ 子 ソ	自 三 百 年 前 至 二 百 年
ア ポ ロ ド ラ ス			ボ リ ビ ア ス	自 二 百 年 前 至 一 百 年
			グ イ オ ド ラ ス 、 シ キ ユ ラ ス ハ リ カ ー ナ サ ス ノ グ ア ス イ オ ニ シ	紀 元 後 一 年 至
			ス ツ レ ー ボ シ ヨ セ フ ア プ ル タ ー ク	自 一 百 年 前 至
ボ ラ ツ ク ス ト レ ミ ー ゲ ー レ ン ア セ テ ア ス ホ レ テ ア ス			ア リ ア ン ア ビ ア ン ホ ー サ ニ ア ス	自 二 百 年 前 至
ホ リ セ ン ア レ キ サ ン ド フ ア メ ノ ク レ メ ン ト			ヒ ロ ド タ ス 風 グ イ オ セ ニ ス 、 ラ ー シ ア ス フ 非 ロ ス ト ラ タ ス	自 二 百 年 前 至 三 百 年
			ユ ー ス ロ ア ス ノ 宗 教 史	自 三 百 年 前 至 四 百 年
ス ト ビ ア ス			ソ ク ラ テ ス メ ン ノ 宗 教 史	自 四 百 年 前 至 五 百 年

(年百五後元紀至年百三前元紀自)乙

韻文	哲學	修辭
コリーリマカ ライコフロ アラタス セオクリタ パイカス モスカス	ストイツク 派及ビエ スビキユラ 勢方チ得	
アポロニア フチヤアス ナイカング		ハリカーナ サスノダ アイオニシ
	宗教的イ ツク主義 エビクタ タス	ゾオン、ク リソトム
バアリアス オピアン	マールカス、 スウレリア	ハーモゼニ アリスタイ ルーション
	子オプラト ニスツ プロチナ ボーフ非 アリアム ブリアカス	ロンジナス
		ヘリオドラ ス リバナアス シユリアン 聖徒ノ演説
ノンナス ク井ンタス アスミル子 ニウセアス	プロクラ ス及ビ 派及ビ 雅典	

# 羅馬文學史

幸福散史 澁江 保著

## 第一篇 羅馬文學ノ第一期

### 王政時代ノ文學

自建國紀元前七百五十三至王政顛覆紀元前五百九

羅馬建國ノ當初ニハ文學ナシ  
凡ソ孰レノ時、孰レノ處ノ國民ト雖モ、羅馬建國後五百年間ノ國民ホド全ク文學ヲ知ラザルモノハアラジ。然レトモ又一方ヨリ言フハ、古今ノ史乘中ニ頭角ヲ見ハシタル國民ニ就テ、其不文無趣味ナルト同時ニ、絶代ノ偉業ヲ奏シ、至高至大ノ權力ヲ掌握セルヲ羅馬國民ノ如キモノモ、亦吾人ノ嘗テ見聞セザル所ナリ。是レソモ何ニ由リテ然ルカ。顧フニ羅馬ハ當初文明開化國ノ人民ガ茲ニ移住シテ國ヲ成セルニアラズシテ、社交的ノ生活ヲ知ラザル各種ノ人民ノ混合ヨリ成レルモノナレバナリ。辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、羅馬人ノ祖先

ハ實ニ山賊ニシテ、不法ノ所業ヲ事トシ、掠奪ヲ以テ生命ヲ繫キタルモノナレバナリ。其後サバイン人ト聯合シタルガ爲メニ、粗暴狂猛ナル性質ヲ變シテ、漸ク温良慈篤ニ化シ、殊ニ英主ニウマ、ポムピリアス紀元前七百五十年生レ同六百七十三年歿農事ヲ獎勵シ、宗教ヲ以テ人心ヲ感化シ、徳義ヲ重スルノ風ヲ養ヒシカド、文學ニ至リテハ、未タ萌芽ダニアラザリシナリ。否加之ナラズ、ニウマノ歿後三百餘年ノ間ハ、常ニ隣國ト干戈ヲ交へ、戰爭間斷ナキニ依リ、未タ文學ノ起ルベキ暇トテハアラザラシナリ。

尤モ拙劣ナル一種ノ歌類ハ、往古ヨリ此粗野ナル人民中ニ行ハレタリト雖モ、決シテ眞正ノ詩歌ニアラズ、隨テ文學ト稱スベキノ價值ヲ有セズ。而シテ此種ノ最モ舊キハ、僧侶ガ初春ニ田野ヲ逍遙シツ、鬼神ニ向テ豊年ヲ祈リシ聖詩トス。

フエスセン  
ニン歌

フエスセンニン歌 トイヘルハ、エトルリアノ府フエスセンニアムヨリ起レルヲ以テ此名アリ。夙ニ羅馬人ノ知ル所タリ。羅馬ノ文學中ニ於テ——假令ヒ幼稚ナル文學ナガラモ——自國ノ創成ニ係リ、而シテ希臘傳來ニアラザルモノハ、獨リ此歌アルノミ。此歌ハ本來收穫ヲ祝スル爲メニ、舞蹈ニ合ハセテ謠ヘルモノナリ。其韻脚ノ不紀律ニシテ詩法

ニ稱ハザルヲ以テ、一ニ之ヲサターニアント云フ。サターニアントハ、放縱不羈ノ義ナリ。又此歌ハ鄙野猥褻甚シキニ由リ、法律ノ箝制スル所ト爲レリ。左レド晩年ニ至ル迄モ、結婚ノ歌ニハ永ク此風ヲ存セリト云フ。

以上ハ王政時代羅馬文學ノ概況ナリ。要スルニ第一期ニハ文學ナシト稱シテ不可ナキガ如シ。

## 第一篇 羅馬文學ノ第二期

### 共和政時代ノ文學

自共和政治確立紀元前五百年至アウガスダス帝即位紀元前二十九年

### 第一章 羅馬文學ノ發達

共和政治ノ初年ニ於テモ、亦文學ノ名ヲ下スベキ價值アルモノ一モ存スルヲナシ。其後數百年ヲ經、紀元前二百六十八年ノ頃、南伊太利ニ於ケル希臘ノ領地ヲ征服スルニ當リテ、

羅馬文學ノ  
起源